

基盤研究 (C) 研究課題：20K00082

維新时期における東本願寺の破邪論とキリシタン——樋口龍温の未公開史料の分析と公開——

研究代表者 狭間芳樹 (大谷大学)

## 明治期耶蘇教徒管理關係史料 (IV)





日之月之旺盛之赴之、波母ナレバ今之居共  
該之字之好之依之葬并儀執之ルハ必成  
之事之有之強之與之無之弱之矯正セシメス  
レハ自我紛擾滯出由外之闡之如何ナル  
歟之書之若之起スルヤ也 龍耳 且未之確  
タル為之いふ其を之之為也 其之書南形内、  
如中之信從者、物以代トシテ教之各出時  
該之字之教之ヲ以テ公之能葬并儀之計度  
方之該之也 外國傳教何一計畫無致居  
之式之報之風之學之育之能之也 其未如何  
抑之之為之ヤ之之之也 茲之書一書方以該

長 崎 景

日之月之旺國學之赴之、波女ナレバ力之居共  
該之亦好之依之葬并儀執リスルハ必然  
之事ナク之強之此辭之ヲ矯正セシトス  
ハ自我紛縁滯出由外之闡之如何ナル  
影心等之若忍起スルヤ也茲耳一旦未之確  
タル為ハ少無之乃其也此查南那内、  
如キハ信從者、物以代トシテ教名出時  
該宗教ヲ以テ公能葬并儀之計度  
方該之與外國傳教何、計畫畫致居  
之式之該風學之有之能之ハ此未如何  
概之於ヤ之ヲ知也茲耳一高方以該

宗信徳者其扱扱之於テハ施政<sup>上</sup>也  
：困窮之沢乃レ之有之其又西彼  
將野長也成早之と自之而方之何也其ハ  
其有之と其日也其ハ其有之と其  
其有之と其日也其ハ其有之と其  
其有之と其日也其ハ其有之と其

長崎

政府ニ於テ御禁止相成ラザル以上ハ神官  
僧侶教導<sup>ト</sup>職ト同シリ葬儀執行セシ  
メ可然哉

目下差掛りあり其の付至る何なる

不<sup>所</sup>信<sup>所</sup>傳<sup>所</sup>者其<sup>所</sup>振振<sup>所</sup>於<sup>所</sup>テハ<sup>所</sup>施<sup>所</sup>政<sup>所</sup>也<sup>上</sup>  
：困<sup>所</sup>窮<sup>所</sup>之<sup>所</sup>以<sup>所</sup>為<sup>所</sup>也<sup>所</sup>又<sup>所</sup>西<sup>所</sup>彼<sup>所</sup>  
將<sup>所</sup>邦<sup>所</sup>長<sup>所</sup>占<sup>所</sup>成<sup>所</sup>是<sup>所</sup>也<sup>所</sup>何<sup>所</sup>由<sup>所</sup>也<sup>所</sup>吾<sup>所</sup>ハ

若<sup>所</sup>ク<sup>所</sup>シ<sup>所</sup>テ<sup>所</sup>埋<sup>所</sup>葬<sup>所</sup>セ<sup>所</sup>シ<sup>所</sup>モ<sup>所</sup>ノ<sup>所</sup>ハ<sup>所</sup>死<sup>所</sup>亡<sup>所</sup>ノ<sup>所</sup>也<sup>所</sup>  
是<sup>所</sup>為<sup>所</sup>也<sup>所</sup>上<sup>所</sup>自<sup>所</sup>今<sup>所</sup>者<sup>所</sup>賜<sup>所</sup>仰<sup>所</sup>也<sup>所</sup>

長

政府<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>ハ<sup>テ</sup>脚<sup>テ</sup>禁止<sup>ス</sup>相<sup>成</sup>ラ<sup>ザ</sup>ル<sup>以上ハ</sup>神<sup>官</sup>  
僧<sup>侶</sup>教<sup>導</sup>司<sup>職</sup>ト<sup>同</sup>シ<sup>リ</sup>葬<sup>儀</sup>執<sup>行</sup>セ<sup>シ</sup>  
ナ<sup>ク</sup>可<sup>然</sup>哉

天<sup>皇</sup>目<sup>下</sup>差<sup>掛</sup>リ<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>命<sup>ヲ</sup>付<sup>テ</sup>至<sup>ク</sup>ハ<sup>何</sup>也<sup>ト</sup>

宗不修德者乃多板板

二 困勉之次乃力之有日之

許邦長占成早之

宗者之德也

者之十廿也

德之

政府之於御禁止相成

曾呂

上

取振と於テハ施政ニ至

有リミカモミカク又西彼

トモトヨクカク何カモハ

モノニハカク死ニ至ル

葬セシモノニハカク一夜

長崎

止相成ラザル以上ハ神官

此指釋一志未及度不歸中書括寫方  
係此每有向也

明治七年五月

長官所名

内務大臣山縣有朋殿

合リ上進ヲ左ノ故ナ可然也



政有<sub>ニ</sub>於<sub>テ</sub>御禁止相成<sub>テ</sub>乎<sub>ハ</sub>上<sub>ハ</sub>八神官僧侶<sub>モ</sub>道<sub>ヲ</sub>傳<sub>ヘ</sub>  
同<sub>ク</sub>業儀<sub>ヲ</sub>執<sub>リ</sub>一<sub>ニ</sub>レ<sub>テ</sub>可<sub>ク</sub>然<sub>キ</sub>也

書  
帳  
景



外務省に於ては其の義に關する事件は主として衛生課に

於て自記既ニ該課に審か方々即ち書ノ通内務省に

御伺し業記草案の御下命に依りては

課長官の御下命に依りては

御下命に依りては

御下命に依りては

御下命に依りては

御下命に依りては

御下命に依りては

御下命に依りては

戸籍掛

衛生課

戸部掛  
衛生課

外務省 既ニ議ハ審分方ニ申書ノ通 内務省ハ

御同業 起草 爲田 課一 協 議 奏 候ニ 付 右ニ 當

課 主 務 長 ノ 申 出 可 主 任 一 口 陳 述 必 右 一 件

ヲ 記 述 ノ 申 出 可 一 因 申 上 司 御 下 命 依 依 右

ノ 旨 相 答 候 方 宜 契 記 申 出 可 起 り 申 出 可 雖 氏

一 記 述 施 行 ノ 旨 抑 未 申 出 可 外 教 信 徒 等 カ 自

ニ 申 出 可 外 國 人 之 申 出 可 權 依 路 点 付 詮 議 付

一 要 求 申 出 可 申 出 可 上 申 出 可 之 カ 處 分 可 申 出 可 主

一 申 出 可 在 申 出 可 本 課 屬 申 出 可 申 出 可 申 出 可

一試事務田目ヲ親ルニ  
 其ノ際スルノ等ノ明文  
 又右ニ然ル上ハ衛生課ノ主  
 管ニ非サルヤ明白ナリ  
 然ラ御伺事御立判  
 後書類一本課ノ別送  
 候致度御取申候也

畢許ニ付テハ外有ク尚敷

長崎県

了し試、事務田目ヲ親ルニ  
其事務ノ関スル一書ノ明文  
ニ有之然ル上ハ衛生課ノ主  
答ニ該書ノ明白ナリ  
書類一本課ノ別送候  
致度也  
御空利ノ旨

畢許ニ付テハ外有ク尚敷

甲号

礼部万世九号

本年四月甲子廿二日

葬儀に就き之を以て後或は教等

職に葬儀に就き之を以て後或は教等

者之を以て教信徒之者

神佛に葬儀に就き之を以て執事

於て之を以て葬儀に就き之を以て

外國人より問ひて葬儀に就き之を以て

之を以て教信徒之者

向て之を以て教信徒之者

揮一お仰

甲一

紀元百世九

本年四月甲子世...  
 此考者葬儀...  
 職ノ葬儀...  
 者之妻...  
 神佛ノ葬儀...  
 於之...  
 外國人ノ...  
 其...  
 向之...  
 揮...

礼卷万世九号

本年四月甲子廿二日  
 以法蓮五家  
 此寺者葬儀之儀に於て  
 穢小葬儀執り清之上  
 返身又へト  
 者之妻交初教分天之教  
 信徒之者  
 神佛ノ葬儀あり又之  
 執り也サレ者  
 於テハ多クモ葬儀に  
 位徒教あり因  
 外國人ノ間ハス葬儀  
 執り清之上  
 此ハ何故カ不苦義  
 之目下何由  
 向テ者之妻案  
 至多何由  
 以指  
 揮一也仰  
 也

壬午年五月三日  
西御所御長  
小座島右衛門

長崎知令石田英吉殿

丙号

丙寅五月二十二日

葬証返付取扱方々系乾茅ハる  
 廿九年ノリ以何々路葬儀既リ為  
 上葬証ハ各身地ノ片長若クハ  
 衛生ノ為多クニ返身ヲ致ス各旬瑞ニ  
 テ殊ニ明治五年ノ葬方九中ニ年ノ全  
 七年ノ葬方十三年ノ公方中一五ニニ且  
 年ノ葬方甲ノ葬方六千七ニノ葬方廿  
 九ノ葬方者之ヲ身苟ニ國民タニ者政  
 府ニ申告受取葬証ニ申告ス  
 遂ニ申告ス人新ニ公許一神佛各ノ家

外に教めし依影の葬儀流り者  
多し心付る者自我考ふる者  
於て之を禮諭し之の加給  
も訓示也

明治二十五年五月廿二日

長崎縣令石田英吉

西彼杵郡長小麻呂右衛門殿

乙号

元牙四一四

組多村自長主示一示了形字徒  
自葬之之部之付列臣中一之息了同  
出之之何分有指力之之而後及此自  
係申一也

明治十七年十一月五日

少和浦郡長西郷純正

長崎縣令石田英吉殿

乙号

元元四一四号

組長村長主承二葉子一形字徒  
自葬之... 付列... 出... 何... 指... 及... 申... 也

明治十七年十一月五日

少松浦郡長西郷純正

長崎縣令石田英吉殿

何者

る言と死と考へ葬可征ラ得テ寺院  
に職又ハ教道寺職ニ非サハ葬儀ヲ  
當ケルヲ不能ク事狀ニ其ノ之然ニ多  
村如キハ切支丹宗ヲ信徒者教多  
多ク該宗徒ノ輩ハ寺院に職又ハ  
教道寺職ニ事ハ葬儀儀ヲ為サズ  
惣ニ自葬ヲ致スルヲ其年甲一葉イ  
六十七多ク其方中ノ色ヲ甘多ホク端  
名ハ如何ノ者ハ得テ物成何分ニ有  
指押ト事ハ不被此多ク何如也

何者

る言と死と者、葬可征ラ得テ寺院  
に殘又、教導寺職ニ非サ、葬儀ヲ  
當ケ、不能テ其現ニ者之能ニ當  
村、如キハ切支丹字、信徒者數多  
ク、該宗徒、輩ハ寺院任職又、  
教導寺職、等々、葬儀儀形、為キ、  
恐、自葬所、有、あつ、其年甲、其  
六十七、等々、其、中、色、第、廿、五、等、  
名、如何、其、得、可、能、或、何、分、之、也、  
指、押、上、等、少、不、被、其、其、在、何、所、也、

長崎縣令石田英吉殿

立木一平

少程浦郡總多村外一軒長

丙申年五月一日

其郡細差村戸長主亦一平  
切支丹信徒之者自葬之  
前時中一之自何如之  
成像之能多力名年一甲  
第廿五集ニ據ラシム可  
成サスシテ恐ニ自葬升  
一考及為致多根之  
訓 亦多也

明治十七年一月廿三日

長崎縣石田英吉

丁字

丙寅年五月一日

其郡理差村戸長主示一平一  
 切支丹信徒者自葬并公家  
 前時一之自向知一之自葬并石  
 成儀之儀外案力名年一甲  
 第廿五案ニ據ラシム可ク尤モ  
 成サスシテ恐之自葬并  
 一考及為致多被一の形  
 刑亦也

照得于七月廿一日

長崎知事石田英之丞

少和南  
那長  
西鄉  
純西  
殿

少和南  
那長西  
鄉純西  
殿

元第四二五号

前守中之通リ甲一第廿二号ノ以方申在  
葬証云々、以方二付麻町村戸長  
伺出云々、付年息付多未河与出  
指云々、五歳終付此毎到申多也

明治七年五月六日

北五浦郡長西郷純正

長崎知令石田英吉殿

元第四二五号

前守甲之通リ甲第廿二号ノ所ナリ  
葬証云々、以テ二付廉町村戸長ヨリ  
伺出テ、付年々色付多ク、河与  
指合、五成、此等、申、也

明治七年五月六日

北五浦郡長西郷純正

長崎知令石田英吉殿

葬証之系之付何

第廿二條

本年以廳甲第廿二條之系之付何  
第廿二條葬証之系之付何長不在  
ホノ節ハ戶長代理ニテ系之付何  
登スル一ノ得ヘキ儀トモハ得可然  
死

第廿二條

戶長不在或ハ事ノ故アハ限リ得  
シテ系之付何ノ葬証ヲ發スモモ或規  
ルノ系之付何ノ如キ辭者ノ村長ニテ東

西より至る余南北にわたりて  
所々に散在し其居る村に  
此中免つて王長得所と  
儀執りて上邊迄に及ぶ人  
事情多し其業多し其  
一途傍りては便宜に以て  
其の拍ラヌ街生ある事  
何れも為難き事何れも  
死す者あり

第三條

多村由に耶蘇字を信者  
死す者あり中其葬儀執りて  
儀に神皮

信者ニ委託スルナリ則信者中ニテ  
自葬致片多敷ノ事又該宗信者ニ限リ  
自葬可致多ク而若武果也シテ地ラハ葬  
所書回ニ葬儀物以テ之ヲ信所ニナ  
スニハ多信者中ニテ物代ニテモ有之  
細所ノ致サスヘキモノニモ  
吾至急ニ在リ也

少和浦形 唐所村戸長

坂本 清吉 氏

明治五年 正月 廿日

長崎縣令 石田 英吉 殿

何之趣在之通心得へ之  
第一條著二條何之通  
第二條自著之相成う又

明治七年青苑日長崎縣令石田英吉

乾亨千三十一号

何

葬征々家ニ付法牙五。或号以刑示  
 有年或々付テハ公行ノ神佛各宗外  
 ノ信徒ニハ不郡合々々々様精々説  
 諭ヲ致ハ勿端々々々々除ノ景状  
 常理ヲ以テ致端場々々々々若説  
 論ヲ以テ耶蘇信徒ニシテ戸長  
 葬征々受ケ直々々々外國傳教所  
 依リ葬儀流リ論ノ書式之通リ  
 重者ヲ以テ互々々々中ハ戸長衛生委員

戊号

乾亨千三十一号

何

葬征之系之付御牙五。或号以列示  
 有年あり自テハ公行ノ神御各字外  
 ノ信徒之ハ不郡合々々々様精々説  
 衛之段ハ勿論也。其後ハ實際ノ景状  
 帯理ヲ以テ茲編場存モ有之若君説  
 論ヲ以テ耶蘇信徒ニシテ戸長長ノ  
 葬征ヲ受ケ互々ニ外國傳教所ニ  
 依リ葬儀執リ論ノ書式之通リ  
 重キヲシ互自スル申ハ戸長衛生委負

二 於此如何有紙一の紙分有者孫  
三 何出向之有之處分と甚く其を  
別紙各在長く、何のあり屬し再題  
有向の案を片掛り、併し付至る何分  
、所指揮、其成度多也

明治七年七月廿二日

西彼村野長川康急右衛門

長崎縣令石田英吉殿

葬証の事

孝子年一甲葬廿二日... 葬証の位... 或ハ教道等... 葬... 儀... 如キハ天主之教ノ信... 徒ニテ佛道ノ葬... 証ハ一般ノ葬... 徴兵格... 宗門ナリシテ... 教道ノ葬証ハ... 内外人

葬証

大正四年一月廿五日午後三時以テあるに  
 葬証ハ位後或ハ教導殘リテ葬  
 儀執リ得ニト直付テ可シト吾之  
 能ニテ考テ町ノ民ノ如キハ天主教ノ信  
 徒ニシテ佛道ノ葬儀ヲ受ケテ井口  
 色字モ非教ハ一般ノ葬儀ノモリニテ  
 之ハ有リ本年一徴兵檢査ノ折ハ人  
 的表中ニモ氏神ノ家門ナリレテ  
 二天主教ト認被タル程ノ義ニ付テ外  
 教信徒ノ葬証ハ教海ノ内外人

フ向ハス 茲并 縁 結リ 傷ミテ 互身 以 旨  
ハ 歟 收ミリ 七 不 音 義 以 女 存 存 以 是  
為 念 以 以 其 去 向 也

昭治十七年 四月 廿日

浦上山守 封

西 彼 梓 取 長 川 廣 島 右 衛 門 殿  
戶 長 福 田 七 右 衛 門 殿

何

元年甲子廿一  
 七考の葬所証  
 以て死  
 得る  
 一  
 職又ハ教道才後  
 儀嘗ムヘシト有之  
 位職又ハ教道才後  
 若クハ身廿一  
 葬所証  
 一  
 職又ハ教道才後  
 儀嘗ムヘシト有之  
 位職又ハ教道才後  
 若クハ身廿一  
 葬所証

五十一

伺

本年甲子年廿の多ク以テ色ニ等シ廿二條ノ死  
 七ノ考ハ葬シ証シアリトシ非シレバ葬シ儀ハ當ラズ  
 以テ得ス仍ル死ニ考スルハ山ノ外ニ葬シ儀ハ當ラズ  
 一ノ身ヲ葬シ証シテハ長ク考スルハ葬シ儀ハ當ラズ  
 職ハ又ハ教道子孫ノ葬儀ハ當ラズ  
 儀ハ當ラズハレト考スルハ又ハ廿二條ノ考スルハ  
 位ハ職ハ又ハ教道子孫ノ葬儀ハ當ラズ  
 若クハ身廿一條ノ保証者ハ得サレバ  
 葬シ儀ハ當ラズハレト考スルハ得サレバ  
 得サレバ依テ葬シ

安  
考

何

本年甲申葬也、以多、以色、以事、廿多、而之、死  
 之者、以葬、証、ア、ん、こ、非、カ、レ、ハ、葬、儀、ガ、学、ム  
 以、得、ス、仍、る、死、亡、者、ノ、山、外、故、事、之、死、亡  
 一、身、自、終、リ、テ、シ、戸、長、或ハ、高、セ、ヨリ、第、十  
 一、号、ヲ、武、ノ、葬、証、ヲ、法、々、之、リ、キ、院、任  
 職、又、ハ、教、道、才、後、神、葬、ニ、出、シ、葬、  
 儀、学、ム、ヘ、シ、ト、者、之、又、令、廿、二、條、ニ、事、院  
 任、職、又、ハ、教、道、才、後、ハ、第、廿、條、ノ、葬、証、  
 若、ク、ハ、身、廿、一、條、ノ、保、証、者、リ、得、サ、レ、バ  
 葬、儀、ガ、シ、執、リ、ス、ル、ヲ、得、ス、依、テ、葬、  
 儀、ガ、シ、執、リ、ス、ル、ヲ、得、ス、依、テ、葬、

家物り清く分り、誠証義者面々  
式多し、況我義神如ト、且聖旨五  
限り、後証如身、體、戸長おみり、  
沙生多あり、此旨スヘシト、有之、然ん  
ニ、尚打ノ如キハ、打中ノ旨、天々、教信徒  
ニシテ、神佛道、葬儀、受クル、  
ヲ、忌ノ、外國教、葬儀、受クル、  
ニ、旨、多シ、戸長、附、世、  
葬儀、方、多シ、御、  
指テ、葬儀、執リ、為、上、者、或、  
兼、者、多シ、此、旨、ハ、戸長、  
時、ハ、戸長、

家持り過るゝに談証表向て可  
 式多し了証表神田下、且惣月五  
 月限り信証表身、但、戸長が入り  
 沙生あふゝと身スへしトみるゝ物ん  
 ニ多打ノ如キハ打中ノ天々教信徒  
 ニシテ神佛道ニ葬儀ヲ受クル  
 一忌ニ外國教海ノ葬儀ヲ受クル  
 一戸長が、多々戸長ノ附無しタル  
 葬儀天々七夜ノ、且惣月五  
 月限り信証表身、但、戸長が入り  
 沙生あふゝと身スへしトみるゝ物ん  
 ニ多打ノ如キハ打中ノ天々教信徒  
 ニシテ神佛道ニ葬儀ヲ受クル  
 一忌ニ外國教海ノ葬儀ヲ受クル  
 一戸長が、多々戸長ノ附無しタル  
 葬儀天々七夜ノ、且惣月五  
 月限り信証表身、但、戸長が入り  
 沙生あふゝと身スへしトみるゝ物ん  
 ニ多打ノ如キハ打中ノ天々教信徒  
 ニシテ神佛道ニ葬儀ヲ受クル  
 一忌ニ外國教海ノ葬儀ヲ受クル  
 一戸長が、多々戸長ノ附無しタル  
 葬儀天々七夜ノ、且惣月五

於予為事理不ハキニシテ多裁此段奉  
伺多也

長崎町打庄長  
明徳七年十月廿日  
山口彦造石田

長崎縣令石田英吉殿

於予為事理不へり元ノ合ニ多裁此毎事年  
何多也

長崎町打庄長  
山口道石由

長崎縣令石田英吉殿

葬証表者、前中村山花也

何出之付、指方之、案未何

多村五方、九務、四為、戸巾、村作、市、死之

存葬証、附、與、及、全、人、葬、之、實、子、中

村、山、花、也、其、天、主、教、信、者、之、子、全、七、教、河

ノ葬、儀、ヲ、受、ケ、ル、子、ヲ、ハ、其、教、河、ノ、妻

者、ヲ、受、ケ、ル、長、ノ、正、納、云、何、出、ル、也

其、子、ヲ、ハ、忠、般、何、出、ス、之、ル、カ、未、キ、ナ

ハ、指、シ、テ、之、ヲ、就、テ、ハ、其、指、方、之、方、カ、多、感、心

何、カ、有、ル、至、多、何、カ、有、ル、其、指、方、之、方、カ、其、カ

度、其、有、ル、其、残、存、人、ヲ、ハ、何、カ、有、ル、其、河

吉向

西徳村郡長  
山口達

西徳村郡長  
山口達

寺向山

西彼村長  
山口寺  
寺  
山口寺  
山口寺

西彼村長  
山口寺  
山口寺

個

今般市の私室に中村作市死亡に  
 付医師の死に証しを添へ、其處に  
 葬られしに渡り、且葬儀執り為す上  
 に、控す之の書書り、又ヶ戸長に後之所  
 出納スルハ申上る所違、此等定之義并  
 新に天主教信者トテ、右教河、  
 葬儀ヲ受ケ、又ヶ戸長に葬儀執り  
 届、今教河ヨリ、其書書り受  
 ケ、戸長役所へ送付、可致也、此等  
 在、同、也

何

今般市の私室に中村作市死亡に  
 付医師の死に証しを添へ、其處に  
 葬せられたるに、且葬儀執り為す上  
 に、控可なりと、素書に受て、戸長に  
 所  
 出納スルハ申上る事違へ、此等  
 之を以て天主教信者として、右  
 教所へ、葬儀ヲ受て、其儀執り  
 爲す上、今教所ヨリ、素書ヲ受  
 け、戸長役所へ、此等之を以て、  
 右向也

西柳行歌 長崎村 五五九  
四白戸

明治十七年一月十日 中村近藏

長崎村 長崎  
山崎道 右衛門殿

西柳村 長  
四百九十

昭平七年十月十六日

中村近藏

長崎村 長  
山口連 右衛門 殿

174

個

今般市の私室に中村作市死亡に  
 付医師の死に証し添へたる處に  
 葬儀の儀に且葬儀執り為ると  
 此所より書書り受て戸長に領受す  
 此納すへ申上る此儀違へ此書受て  
 此私に天主教信者にて右教所へ  
 葬儀の受て申上りてハ葬儀執り  
 爲ると今教所より書書り受  
 て戸長役所へ送附可致也此  
 事同也

はつふの九

個

今般市。私官。大中。打作市。死亡。  
 行。医師。死。亡。証。書。添。付。居。付。處。  
 葬。死。者。の。渡。り。且。葬。儀。執。り。為。上。  
 二。控。可。之。ノ。兼。書。シ。受。又。ケ。戶。長。公。儀。所。  
 五。納。ス。ヘ。申。上。ル。所。違。ノ。処。有。官。公。儀。  
 二。新。元。天。主。教。信。者。ト。テ。右。教。所。  
 葬。儀。ヲ。受。又。ケ。申。上。付。テ。ハ。葬。儀。執。行。  
 届。上。シ。今。教。所。ヨリ。ノ。兼。書。方。シ。受。  
 ケ。戶。長。役。所。へ。送。付。可。致。申。上。有。  
 在。向。也。

七九  
二九  
九〇  
三〇

本館の書籍一部を、菊生に其の意を以て

譲渡せしむるに、一部は、菊生

に、其の意を以て譲渡せしむるに、

一部は、菊生に、其の意を以て譲

渡せしむるに、一部は、菊生に、

其の意を以て譲渡せしむるに、

一部は、菊生に、其の意を以て譲

渡せしむるに、一部は、菊生に、

其の意を以て譲渡せしむるに、

一部は、菊生に、其の意を以て譲

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

六九

本行：... 一部... 均... 均... 均...  
 ... 均... 均... 均...  
 ... 均... 均... 均...  
 ... 均... 均... 均...  
 ... 均... 均... 均...  
 ... 均... 均... 均...  
 ... 均... 均... 均...  
 ... 均... 均... 均...

とうとう「あな中」

女子校ノ如ク、  
分りてくし、  
出、  
上、  
判、  
中

景



逃らぬ様ニ一夜中(幸)あり

十七年(一)月(二)日(三)夜(四)中(五)幸(六)あり

海を渡りて

十七年(一)月(二)日(三)夜(四)中(五)幸(六)あり

上(一)司(二)

下(一)命(二)り(三)候(四)之(五)事(六)

主(一)事(二)ノ(三)理(四)ハ(五)子(六)ク(七)テ(八)有(九)テ(十)也

今(一)人(二)々(三)ニ(四)シ(五)テ(六)有(七)テ(八)也

子(一)ノ(二)事(三)ハ(四)子(五)ノ(六)事(七)ニ(八)似(九)テ(十)也

子(一)ノ(二)事(三)ハ(四)子(五)ノ(六)事(七)ニ(八)似(九)テ(十)也

Handwritten text in a vertical column, likely a page number or title, written in black ink on aged paper. The text is highly stylized and appears to be a mix of characters, possibly including the number '1278'.

Handwritten vertical text in a cursive script, possibly a name or title, written in black ink on a light-colored page with red vertical lines.

附牙三七二号

前属内務省種伺案ニ付 稿ニ付記

明ニ次第通一了 然ス折中議ヲ起行

スルヤ下河邊通属ノ普及議按ニ共試治記

詳ニ因スルニアテス 奈ルハトナレハ果表ニ

折中属為被称与那長ヲ 桑証ニ

伺出シ訓示ニ 豫内務省ニ 申致

ニ置クニキ 旨上局ノ 法下各ニ 依リ 定月

廿九日 特野 法用 係 申 案ヲ 起テ 子レ

四議中 同月廿九日 桑証 一部 分ヲ

原又是是スニキ 下河邊 属ノ 普及 議 案ヲ 法

記註之所以三テ仍ホ口頭ヲ以テ更  
置ノ少ク陳述ノ條ニ罷ニ由下ノ爲ト  
申 案ヲ更メ其事由ヲ帯行シテ由  
強固案ニスヘキヤノ下ニテ部 亦アリ是  
本議ヲ以テスル 理由ニシテ案あり事務  
ニ至ルルノ如ク其ありしハ注ヲ俟タ  
サレバ如ク葬 証ヲ執因ニ道ニ葬  
儀ノ事ニ有 着シタル 訳ナルヲ以テ今  
也 亦儀案ニ就キ主カルノ 論辯ヲ  
用クト云フ 訳トモ見込 雖也案  
証ハ関キ是地者 譯ニ於テ時事ノ件ヲ



長壽縣

有る可捨アルトアウハ  
強ク少少得、於テ  
由、理ス、キ、ト、云、フ、ニ、ア、リ、キ、レ、氏、阿、陳、ノ、理  
由、モ、多、シ、取、ラ、ル、タ、貴、課、ノ、權、限、ヲ、棄  
フ、ト、云、フ、法、ニ、モ、多、シ、只、邊、ノ、志、見、込、ル、ル、可  
、關、シ、ア、越、ス、ル、申、方、成、立、ス、ル、及  
、成、立、ス、ル、也、

十七年六月廿

漸  
生  
得



廣務課

内  
申

長壽縣

取リ 取捨アルトマラハ 強ク少ク得。於テ  
取 理スハキト云フニアテ甘レ比 前棟ノ理  
由モ多ク 取ラル夕貴課ノ権限ヲ棄  
フト云フ 欲ニモ多ク 只邊ニ止ルニ及  
、 関シテ越スル申 方 或度ニ及  
由 兼 取 也

十七年六月廿

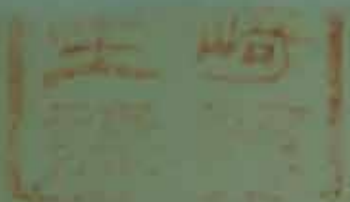
漱

生得



廣務課

取



回覽

七七

第 三 五 六 九 号  
明 治 二 十 七 年 七 月 一 日 受

新 牙 四 五 〇 号

外 教 信 徒 者 葬 儀 之 件 内  
務 者 何 案 尚 課 之 於 予 起 草  
之 文 亦 當 課 以 意 見 之 通 涉 决  
判 亦 係 房 之 付 才 多 類 左 記 之  
通 及 此 列 强 之 房 也  
明 治 二 十 七 年 七 月 一 日

衛 生 課



廣 務 課

中

七七

第 三 五 六 九 号  
明 志 七 十 七 月 一 日 受

回 覽

新 牙 四 五 〇 〇 号

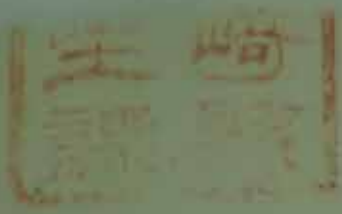
外 教 信 徒 者 葬 儀 之 件 内  
務 者 何 案 尚 課 之 於 予 起 草  
之 交 查 課 改 意 見 之 通 函 决  
判 亦 係 房 之 付 才 多 類 左 記 之  
通 函 函 列 强 房 也  
明 志 七 年 七 月 一 日

衛 生 課

庶 務 課



庚 申



回覽

廿七

第 三 五 六 九 號  
明 治 廿 七 年 七 月 一 日 受

新 申 四 五 〇 〇 号

外 教 信 徒 者 葬 儀 之 件 內  
務 者 何 案 尚 課 之 於 予 起 草  
之 交 費 課 以 意 見 之 通 函 決  
判 亦 因 房 之 付 才 有 類 左 記 之  
通 函 及 函 引 送 房 也  
明 治 廿 七 年 七 月 一 日

廣 務 課

衛 生 課



中

一外教信徒葬儀<sup>二</sup>件内務省何案<sup>三</sup>實錄

書

一同上<sup>二</sup>府貴課意見書

一乾<sup>三</sup>第<sup>四</sup>八<sup>五</sup>百<sup>六</sup>九<sup>七</sup>号<sup>八</sup>西<sup>九</sup>彼<sup>十</sup>村<sup>十一</sup>郡<sup>十二</sup>長<sup>十三</sup>伺

書<sup>十四</sup>字

一西<sup>十五</sup>斷<sup>十六</sup>牙<sup>十七</sup>五<sup>十八</sup>〇<sup>十九</sup>二<sup>二十</sup>号<sup>二十一</sup>陸<sup>二十二</sup>訓<sup>二十三</sup>示<sup>二十四</sup>字<sup>二十五</sup>一<sup>二十六</sup>通

一<sup>二十七</sup>廣<sup>二十八</sup>牙<sup>二十九</sup>四<sup>三十</sup>一<sup>三十一</sup>四<sup>三十二</sup>号<sup>三十三</sup>北<sup>三十四</sup>松<sup>三十五</sup>浦<sup>三十六</sup>郡<sup>三十七</sup>長<sup>三十八</sup>漆

申<sup>三十九</sup>字

一<sup>四十</sup>紐<sup>四十一</sup>差<sup>四十二</sup>村<sup>四十三</sup>戶<sup>四十四</sup>長<sup>四十五</sup>伺<sup>四十六</sup>書<sup>四十七</sup>字<sup>四十八</sup>一<sup>四十九</sup>通

一<sup>五十</sup>西<sup>五十一</sup>衛<sup>五十二</sup>牙<sup>五十三</sup>五<sup>五十四</sup>〇<sup>五十五</sup>百<sup>五十六</sup>号<sup>五十七</sup>陸<sup>五十八</sup>訓<sup>五十九</sup>示<sup>六十</sup>字<sup>六十一</sup>一<sup>六十二</sup>通

一<sup>六十三</sup>元<sup>六十四</sup>牙<sup>六十五</sup>四<sup>六十六</sup>二<sup>六十七</sup>五<sup>六十八</sup>号<sup>六十九</sup>北<sup>七十</sup>松<sup>七十一</sup>浦<sup>七十二</sup>郡<sup>七十三</sup>長<sup>七十四</sup>副<sup>七十五</sup>申<sup>七十六</sup>字<sup>七十七</sup>一<sup>七十八</sup>通

陸訓示



一 康町村戸長伺書字 一通

一 乾牙千三十一号西彼村郡長伺書 一通

字

一 浦上山里村戸長伺書字 一通

一 里崎村戸長伺書字 二通

一 合村中村近為伺書字 一通

ノ

Handwritten characters at the top right, possibly a name or title.

十七七

明治十八年一月七日受

定結

立字一八

明治十八年一月七日受

校行

明治十八年一月七日  
一月八日  
一月九日  
任 課長 全 概  
江崎系海

書記官

Main body of handwritten text in cursive style, organized into vertical columns. Includes characters like 同書五之七, 日三十, 甲子, etc.

十七七

Handwritten signature or name at the top right.

明治十八年一月七日

定信

庄

明治十八年 月 日 受

換

Vertical text columns containing dates and names, including '長' and '川'.

書記官

Main body of handwritten text in cursive style, organized into vertical columns.

丙午年十一月初一日  
 亥末社為開出  
 丙午年十一月初一日  
 亥末社為開出

丙午年十一月初一日  
 亥末社為開出  
 丙午年十一月初一日  
 亥末社為開出

第三九七  
明治十七年七月廿一日

二十三日三十日

真公  
下  
長崎

三

原

長崎

長崎縣

お玉坊主  
お八  
お下

お玉坊主  
お八  
お下

お玉坊主  
お八  
お下

西中好

十七

三一九七三

十七

祭 一千五百五十七

戸長、葬儀、証う受ケ外國傳教師に就キ  
葬儀執行スルモノアリ戸長ハ右傳教  
師、裏書ニタリ葬儀証う受領可然キ字  
法規則半成文モ無之処分上ノ差支又  
其条別紙ヲ示シ之至急何分ノ法指令  
相同キ也

明治十七年七月廿九日

西荻原郡長小麻島 在由門



長崎縣之代理

大書記官 榊本直太郎殿

十七

三九七三

十七

一千四百五十五

戸長、葬儀、証う受ケ外國傳教師、就キ  
葬儀、執行人、スルモノアリ、戸長ハ右傳教  
師、裏書シタル葬儀、証う受領可然、字  
法規則、半成文モ無之、処分上、差支、又  
其、条、別紙、ヲ、添、之、至、急、何、分、ハ、法、指、令  
相同也

明治十七年七月廿九日

西條郡長 小麻島 在 出 門



長崎縣之代理

大書記官 榊本直太郎 殿

明治六年三月二日受

第 二 〇 〇 〇 号

日 本 家 族 名 簿

庶 第 三 三 三 七 号

明治六年三月二日受

簿 籍

第 一 号

明治六年三月二日受

主 册 庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官

日 本 家 族 名 簿

明治六年三月二日受

任 庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官

第 一 号

第 一 号

日 本 家 族 名 簿 第 三 三 三 七 号

庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官 第 一 号

庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官 第 一 号

庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官 第 一 号

庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官 第 一 号

庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官 第 一 号

第 一 号

庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官 第 一 号

庶 務 長 官 署 庶 務 課 長 官 第 一 号

明治六年三月二日受

三月二日

山崎家信天信書

庶務三三三

郡別治

年三月一日

津書

啓

明治六年三月二日  
同 年八月二日  
同 一年四月一日

主 任

庶務局長 野島 田川 公成

長 官 野島 田川 公成

田川 公成

田川公成 謹啓

庶務局長 野島 田川 公成

庶務局長 野島 田川 公成

庶務局長 野島 田川 公成

庶務局長 野島 田川 公成

庶務局長 野島 田川 公成

庶務局長 野島 田川 公成

庶務局長 野島 田川 公成

庶務局長 野島 田川 公成

手  
明  
用

るやうにして、此の書、  
流名、形も及、是の  
書、向、  
丹、台、  
心、  
及、  
千、  
年、

し、  
年、  
日、  
々、

新、  
別、  
使、

今、  
計、  
程、  
中、

る身よりいふ人合し病を了ぬ 書は其の旨を  
流るる形も及是の家信は代か之 亦後而無  
書向うと申居 既て完了す其後 亦之に  
其の旨よりいふ人合し病を了ぬ 書は其の旨を

し年 月

斎房の使

今更中

手 明 集

第 二 〇 七 〇  
 明治 六 年 五 月 日 受

第 一 七 二 七 号

累 宗 徒 部 重 一 申

此 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申  
 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申  
 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申  
 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申  
 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申  
 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申 宗 徒 部 重 一 申

本 日 三 十 日

名 斗 禪

唐 物 禪 宗 申

426  
 禪 宗 禪 宗

第 二〇七〇 号  
明治 十六 年 五月 一日 受

第 一 七 二 七 号

異宗徒 詔 令 申

此色也凡般下之疾者每多結印字現形  
了色七粒七束四粒或入吉望里之四之信  
祈為願面沙乃七粒五束有之入年方於  
少印下七粒年毛ノ多之入子之定之了  
按以是格者成之及月四之也

才日三十九

乞 斗 禱

庶務課 申

426

第二〇七〇  
明治十六年五月一日發

多々身一七二七七

累宗徒 訖り 筆之 伸

此を以て 概りて 疾者毎多 終即 宗現 訖  
高を七 程七 束四 移或入 吉吉 望是 心少 徒  
福馬 顔面 沙乃 七程 五束 可く 入年 官於  
所即 下七 於年 年モ 一ノ 多々 子之 定了 手  
按以 多々 移或 成之 交 以 且 及 凡 四 官 多 々 如

少り云々

念斗 禪

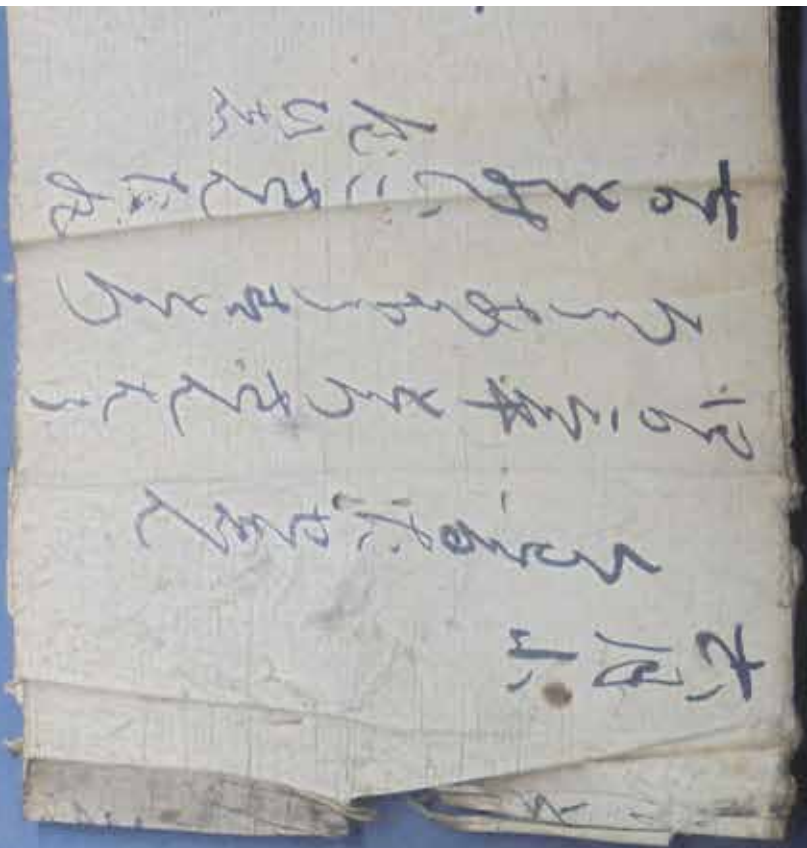
唐務禪 亦 申





二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

Handwritten text on a folded, aged paper strip, likely a manuscript or letter. The text is written in a cursive script, possibly a historical form of Chinese or a related language. The paper is yellowed and shows signs of wear, including creases and small holes. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be repeated or written in a specific sequence. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.



バスチヤン暦

黒崎地区に隣接する三重の畝刈地区のかくれキリシタンが所有していたもの。

「バスチヤン暦」について

「バスチヤンさまの日繰り」と呼ばれる1634年（寛永11年）の大陰暦によるキリシタン暦である。日本人伝道師バスチヤンがジフラン神父の指導を受け、潜伏キリシタンにこの暦を伝え、繰り方を教えたといわれる。バードレ（神父）不在の中で二百年以上にわたり信仰組織団結の力となった。明治以降はかくれキリシタンに受け継がれた。

御力に申當るの候

御中一奉<sup>た</sup>り奉<sup>る</sup>る<sup>玉</sup>の<sup>御</sup>書<sup>の</sup>御<sup>事</sup>候<sup>御</sup>事

申上<sup>り</sup>候<sup>御</sup>事

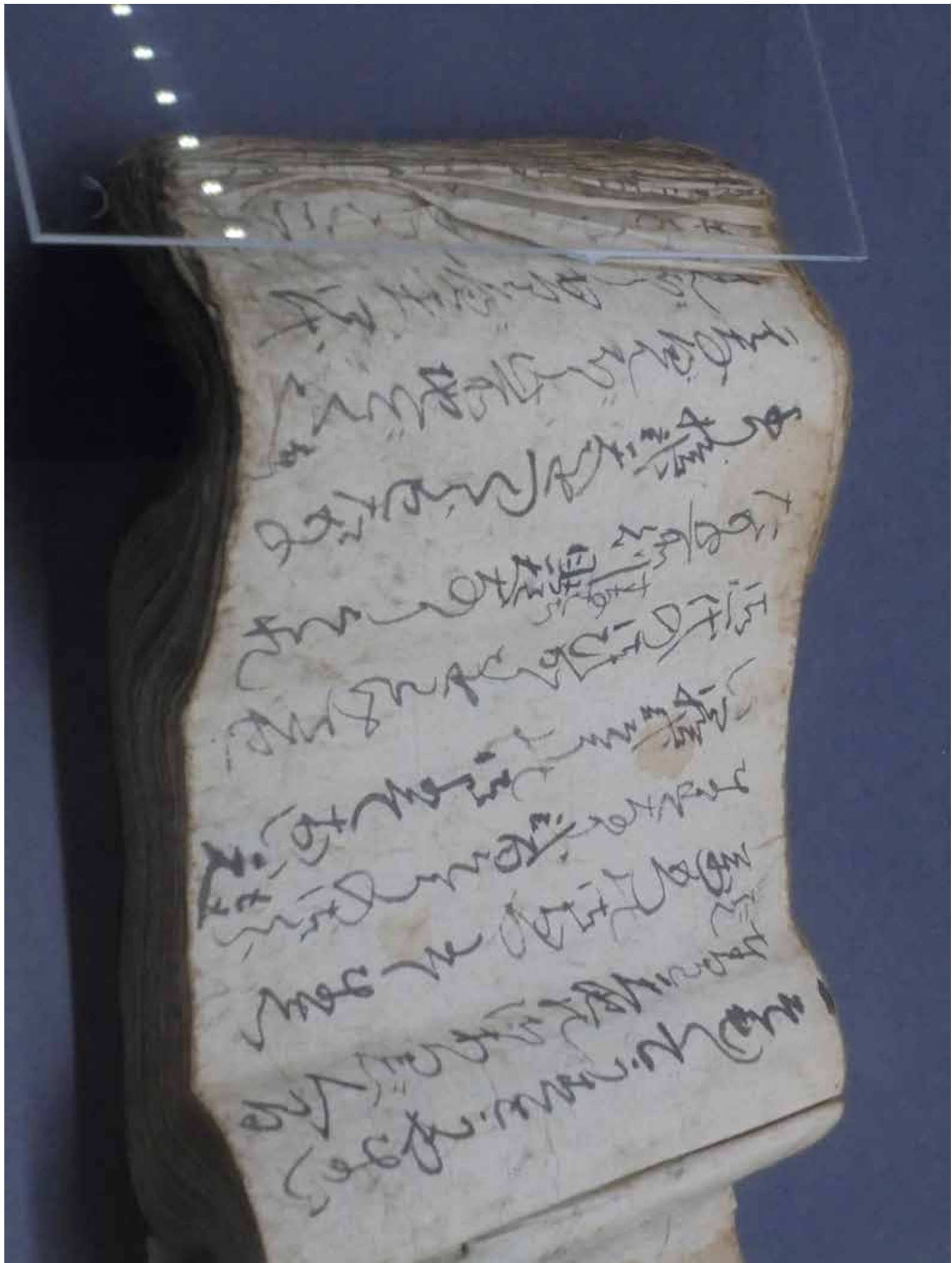
申上<sup>り</sup>候<sup>御</sup>事

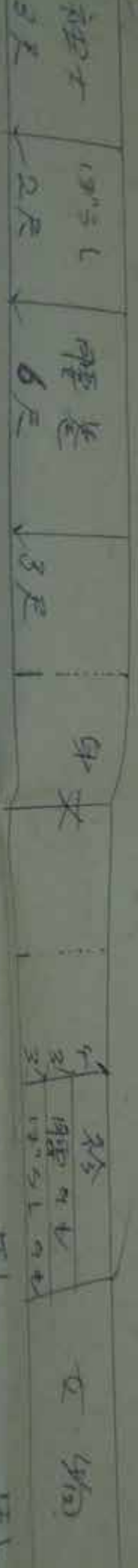
申上<sup>り</sup>候<sup>御</sup>事

申上<sup>り</sup>候<sup>御</sup>事

申上<sup>り</sup>候<sup>御</sup>事

御<sup>事</sup>候<sup>御</sup>事





人間最後の贈 (私人の着物の裁り寸法)

肩は左よりはなして左に  
着物はすべて左に  
お世は付けぬ  
縁の気は要る  
にして縫付ける  
糸は五針で切る、縫い  
毛縫い返しは五針で切  
糸は五針で切る、縫い  
糸は五針で切る、縫い



花心暗算一打之為物中法

白三三茶餅一交作

神效可一尺

解去三尺一尺

定空一尺

購善道一尺

神效一尺

神效一尺

神效

神效

神效

神效

神效

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written vertically from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'caoshu' style.



Continuation of handwritten text in cursive script, written vertically from right to left. The text appears to be a continuation of the document or letter above.

On the ... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

Red seal impression

Red seal impression

KING'S M-HOLDER

11  
171-1  
143

○きりしたん祈りの詞 (二四三)

11  
359  
3

平七年從九月到

課戶籍係事及物簿

社

第三番

甲第百十九號 明治二十年三月六日

明治十七年三月八日 呈議

同十七年三月十日 決議

同十七年三月十二日 決議

令用

書記官

轉之字改之義在達ノ付

案文

轉之字改之義自今届出ノ及ニシテ  
又言亦達候事

第五十七號

二百七十七

美奇系

此ノ字改之義自今届出ノ及ニシテ

三十三

甲第百十九號 明治二十年三月六日

明治十七年二月八日

同十七年十二月十日

同十七年十二月十日

令

書記官

轉之字改之義在達ノ付

安文

轉之字改之義自今屆出及ニ

轉之字改之義

第五十號

二百七十七

...

...

任 課長 裁

...

...

...

...

...

多和甲葉一三三号

十一年お田首乙葉せ号りり以轉ヤ手改式尾出ノ  
義相違信知以來尾出及ハス此音訓示

條也

十三年十月廿四日内務卿オ方上義

印

長久保縣令石田英吉殿

二百廿八

石田英吉殿

卷二十一

一、敬、言、首、九、年、一、第、二、号、之、相、轉、專、示  
 二、文、武、即、承、認、書、受、又、之、義、向、復、廢、上、候、宗  
 三、澤、ラ、任、申、詰、事、由、九、十、二、号、七、年、  
 四、公、布、之、用、相、又、得、向、今、轉、手、武、改、之、者、是  
 五、定、之、葬、祭、受、持、八、者、及、轉、手、置、其、之、日、也  
 六、轉、以、之、可、為、局、出、之、相、事、  
 七、相、同、之、手、孤、之、甲、之、相、轉、向、之、同、様、也、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、  
 二十一、  
 二十二、  
 二十三、  
 二十四、  
 二十五、  
 二十六、  
 二十七、  
 二十八、  
 二十九、  
 三十、  
 三十一、  
 三十二、  
 三十三、  
 三十四、  
 三十五、  
 三十六、  
 三十七、  
 三十八、  
 三十九、  
 四十、  
 四十一、  
 四十二、  
 四十三、  
 四十四、  
 四十五、  
 四十六、  
 四十七、  
 四十八、  
 四十九、  
 五十、  
 五十一、  
 五十二、  
 五十三、  
 五十四、  
 五十五、  
 五十六、  
 五十七、  
 五十八、  
 五十九、  
 六十、  
 六十一、  
 六十二、  
 六十三、  
 六十四、  
 六十五、  
 六十六、  
 六十七、  
 六十八、  
 六十九、  
 七十、  
 七十一、  
 七十二、  
 七十三、  
 七十四、  
 七十五、  
 七十六、  
 七十七、  
 七十八、  
 七十九、  
 八十、  
 八十一、  
 八十二、  
 八十三、  
 八十四、  
 八十五、  
 八十六、  
 八十七、  
 八十八、  
 八十九、  
 九十、  
 九十一、  
 九十二、  
 九十三、  
 九十四、  
 九十五、  
 九十六、  
 九十七、  
 九十八、  
 九十九、  
 一百、

二十三日。因。向。之。大。人。等。判。定。

二百七十九

古今圖書集成

乙第 二十 四

日 教 高 刀 省 九 年 一 第 二 号 一 向 系  
 文 式 人 即 承 認 書 授 受 之 義 向 復 候 專 示  
 軍 ヲ 任 申 旨 第 由 九 十 二 号 七 年 一 第 十 三 号 了  
 公 布 之 用 相 以 得 向 今 專 手 武 改 之 者 日 是  
 定 女 葬 祭 受 持 之 者 一 及 轉 知 置 其 之 可 形 也  
 轉 以 可 為 届 出 此 之 相 事 之 了  
 但 同 手 証 之 甲 乙 相 轉 候 向 又 同 様 之 也

十 年 三 月 四 日 為 之 大 久 保 利 用  
 二百廿九

此 等 之 事 一 一 之 事 也

見在 考

甲第ノナリ

轉シテ或ノ部トシテ

一語所ノ當テ可屈出

十一年七月九日

甲第ノナリ

轉シテ或ノ部トシテ

一語所ノ當テ可屈出

十一年七月九日

甲第ノナリ

轉シテ或ノ部トシテ

一語所ノ當テ可屈出

1787年11月10日

甲子年十一月

轉文或ノ即當ノ尾出候如自今直

一務所ノ當テ可居出此旨布達候事

十一月七日 長七高 點撞令内海志勝力

甲子年十一月

轉文或ノ即美認書授受ノ義相慶候

各自由今ヲ轉文或ノ者ハ是レノ事及

持ノ者ハ及通知用其旨可居出

相司學派ニテ相轉文同慶候事

相司學派ニテ相轉文同慶候事

二月三日十日  
安部篤  
准令内海忠勝

丙寅第三〇

八辨明治

年月

日庚子

林

明治十七年二月  
同文 年三月十日

同一年三月十日  
同一年三月十日  
同一年三月十日

江  
由  
寺  
馬





山田 宗 司 書 送 下 此 記 乃 内 訓 也  
十 一 日 興

一 七 年 十 二 月 日 山 田 長 海 書 入 云

嘉 延 南 島 素 和 長 文

島 知 二 石 十 三 日

葬 儀 所 扱 之 義 之 旨 觀

二日 別部同書迄下 又及 乃内 田 候 也  
十 日 候

十七年十二月 日 石田 長 安 守 入 云

嘉 永 一 年 南 高 来 町 長 安 守 入 云

二日 十四

島田 二石 丁志

葬儀所招之義之有觀

本年八月十一日大政官身十九号布達  
子以之 神佛 教導 守 殿 子 之 祭 也 子  
形 知 又 葬 儀 所 招 之 義 之 從 子 也  
神 佛 教 導 所 招 之 義 之 從 子 也  
所 招 之 義 之 從 子 也  
子 之 祭 也

西曆一千九百零七年九月廿七日

南高来郡志遠近武則

長崎縣令石田英吉殿

二百五十一

西曆一千九百零七年九月廿七日



明倫彙編  
家範典  
卷之六

禮記卷之六

卷之六

京師

禮記卷之六

禮記卷之六

禮記卷之六

禮記卷之六

禮記卷之六

禮記卷之六

三十三

禮記卷之六

明治十七年三月九日 辨明 明治 年月 日 辰澤 謹

明治十七年三月九日 辰澤 謹

同 年 二月 十日 辰澤 謹

同 年 二月 十日 辰澤 謹

令 卯

書記官

平戸村 外 二 戸 長 義 司 書 下 持

平戸村 外 二 戸 長 義 司 書 下 持

不 苦 候 言 其 旨 切 守 之 別 文 中 同 書 込 返

第二十九号

二百六十四

平戸村 外 二 戸 長 義 司 書 下 持

明治十七年三月九日

明治十七年三月九日

明治十七年三月十日

明治十七年三月十日

令

書記官

平戸村外ニテ長ヨリヤ...

平戸村外ニテ長ヨリヤ...

不若ク候...

第五十九号

二百八十四

平戸村外ニテ長ヨリヤ...

明治十七年十二月九日  
明治十七年十一月十日  
明治十七年十一月十日  
明治十七年十一月十日

同  
同  
同  
同

令印

書記官

平戸村外二和長  
平戸村外二和長  
平戸村外二和長  
平戸村外二和長

平戸村外二和長  
平戸村外二和長  
平戸村外二和長  
平戸村外二和長

不若  
不若  
不若  
不若

第九十九號

二百八十四

平戸村外二和長

長嶼集

十一日 變七品名

磯野北山南長長

十七年七月二十一日

元 廿九 七一〇三子

當の程平三戸お下長之廣海  
此の伊良子のお成り包有と  
之を主事今付し也

十七年七月二十一日  
世松浦新書元知多  
小松浦新書元知多

長味のお下石田英吉殿

三〇四七五

明治十七年七月二十一日

北松浦郡役所

耶ハ蘇宗取扱之義我ニ付同

一 耶ハ蘇宗ノ者ニ今回布達遵守ニザル藥如何  
更ニ方レ可也哉

一 耶ハ蘇宗之者死七ニ死七ニ生タルハ葬証付其ニ

モ之ヲ受テザルハ其埋葬ノ止ノ教言察山官之更ニ

ヲ要求スルノ義我ニ者之ヲ將ク戸長ニ於テ其埋葬

ヲ林示シ且之派トモ神官僧侶ニ依頼スルニテハ説諭

ハキニ有之也哉

右 詳細指揮トシ度人ニ回布達ニ就<sub>テ</sub>其<sub>中</sub>宗昔之

モドモハ對<sub>シ</sub>タル間各書<sub>ニ</sub>其<sub>中</sub>考<sub>テ</sub>之<sub>為</sub>ノ添付此

段相侖係条<sub>ノ</sub>差<sub>ヲ</sub>裁<sub>リ</sub>指<sub>テ</sub>其<sub>中</sub>義<sub>ニ</sub>付<sub>テ</sub>其<sub>中</sub>四<sub>道</sub>ニ指<sub>テ</sub>令

二頁<sub>目</sub> 三<sub>頁</sub> 四<sub>頁</sub> 五<sub>頁</sub> 六<sub>頁</sub> 七<sub>頁</sub> 八<sub>頁</sub> 九<sub>頁</sub> 十<sub>頁</sub>

三<sub>頁</sub> 四<sub>頁</sub> 五<sub>頁</sub> 六<sub>頁</sub> 七<sub>頁</sub> 八<sub>頁</sub> 九<sub>頁</sub> 十<sub>頁</sub>

15 本 1022

耶ハ蘇宗取扱之義付伺

一 耶ハ蘇宗ノ者ニ今回布達遵字セザル廉如何  
要処方レ可也哉

一 耶ハ蘇宗之者死七ニ死七屈出タルハ葬証付蘇ニ

モ之ヲ受テザルハ其埋葬止ノ教言察山官之要処方

ヲ要求スルノ義ニ有之哉將ク戸長ニ於テ其埋葬

ヲ林示シ且之示トモ神官僧侶ニ依頼スルニテハ説諭ス

ヘキニ有之也哉

右 詳細指揮トシテ度人今回布達ニ就<sub>申</sub>諒<sub>山</sub>宗昔之

モノドモヘ對シタル間各書志参考之為ノ添付此

段相例條系ノ差掛リ所々義ニ付テ四通ニ指合

二項決 三番時 四番時

耶比蘇宗取扱之義取付同

一 耶比蘇宗ノ者ニ今日布達遵守セザル藥如何  
更処方レ可也哉

一 耶比蘇宗之者死七ニ死七屈出タル成其葬証付無スル

モ之ヲ受テゲル成ハ其埋葬ヲ止メ教言察官之更処方

ヲ要求スルノ義ニ者之ヲ將夕戸長ニ於テ其埋葬

ヲ禁示シ是亦トモ神官僧侶ニ依頼スルニテハ説諭ス

ヘキニ有之也哉

右 詳細市指揮トシテ度人ヲ向市布達ニ就中諒山宗昔之

モノドモヘ對シタル間各書高ル考之為ノ添付此

段相同程条ノ差掛リ括テ義ニ付テ四通シ市指令

二項決

長崎縣

二百全

同長崎縣、何、獲業、ル、ル、

和村、橋、本、門、

川、聖、殿、

山、本、市、之、物、

畑、原、迄、本、

山、只、鹿、本、

牧、野、和、如、

濱、堂、町、也、古、

山、本、市、

長崎縣、為、北、松、橋、郡、本、村、平、民、

長崎縣、食、石、田、與、寺、殿、

廣、保、真、堂、

北、和、南、新、平、村、長、

別、名、寺、之、也、

相、傳、本、堂、



長山寺 糸井村 平戸村 平

山本 糸井 市

濱 山寺 糸井 市

牧 野 糸井 市

山口 糸井 市

畑 原 糸井 市

山本 糸井 市

川 糸井 市

糸井 糸井 市

同 汝等 糸井 市

糸井 糸井 市

二百八十七

答の曲有業、九月之矣

同 汝等ハ何年平戸へ来リタル乎

答 昨暇十六年之暮ヨリ冬ニ抵ッ右  
轉サ情不似タル義ニ九月之矣

同 何故平戸へ来リレヤ

答 本サ情ニシテ義ニ来ルマシク 四紙出リ

義ニ九月之矣

同 汝等ハ元何處生シモリタルヤ

答 此方或ハ或ハ里ニ生シタル共ニ九月

之矣

同 汝等ハ如何

答 吾等天守殿ニ在リタル也

答也云云哉、黒山

之矣

問世等、宗門、如何

答各天守教、テ有之也

問何年、宗門、其天守教、入りレヤ

答貞治十一年、宗門、入り

問其前之、禪宗門、如何

答各禪宗、入り

問何故、宗門、天守教、換レシヤ

答天守教、入レシ、何カ、事、ニ、都合、呈言キト

云、事故、改宗、シ、今、我、有、之、矣

問都合、呈言キト、現、今世、於テ、事、事、將、死、後

事、ナル、哉

答、走レシ、死、後、事、有、之、矣

望持二字

三十一、長、

問世尊、宗門如何

答各天守教、テ有之也

問何年、お改より、其天守教、入りしや

答、凡、十一年、お改より、なり

問其前之、禪宗門如何

答各禪宗、なり

問何故、宗門、天守教、換へしや

答天守教、入し、何カ、事、ニ、都念、善キト

云、事故、改宗、し、之、義、有之、也

問都念、善キト、現、今世、於テ、事、本、將、死、後

、事、ナル、哉

答、走、レ、死、後、事、有之、也

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

問 死後に都合善キトハ何人ヨリ聞キ得ニ哉

答 教師ヨリ善リタニ事一ニ有之矣

問 其教師ハ何レノ名ナル哉

答 佛人ニ有之矣

問 佛人ヨリ直ニ聞キタルヤ

答 直ニ聞キタル義ニ有之矣

問 其方等ノ宗ト名ニ於テ人若シ死セシ時ハ如何ノ取

討ラヒシヲ為スヤ

答 同宗ト名ニ於テ其儀ヲ為ス義

問 其方等ノ宗ト名ニ於テ

問 神官僧侶等ニ依頼ハ為サレ哉

斗戸オノノノノノ

問 其方...

討ラヒシヲ為スヤ

答 同宗之者ニ梳テサカサ儀ヲ為ス哉

問 三月二十日

問 神官僧侶等ニ依頼ニ為サレ哉

答 神官僧侶ニ依頼スルハ宗ノ者ニ於テ大ニ

林示スル処ナリ

問 何故ニ依頼ハササバメヤ

答 依頼スレバ死後幸福ヲ得サル故ナリ

問 本年四月十二日附甲申第廿八号ノ本縣布達ニ業知シ居ル哉

答 飽近業知罷在也

問 然ラニ其達ニハ変シテ違北ノ者カハルヘシ如何

答 曩ニ陳述セシ通り宗ノ者ニ於テ林示ス

ル処ナレニ如何様ノ処刑ニ違フ共且縣令ノ違

ニハ変シテ存存思ハレ之拜

三音八元

二林八字  
多入九字

書八二

神官僧侶等ニ依頼スル者サレシ哉

答 神官僧侶ニ依頼スルハ宗室ニ於テ大ニ  
林示スル処ナリ

問 何故ニ依頼ハササズヤ

答 依頼スルニ死後幸福ヲ得サル故ナリ

問 本年四月ナニテ附甲第廿八号ノ本縣布達ニ業  
知シ居ル哉

答 飽近業知罷在矣

問 然ラニ其達ニハ安シテ達此ニ為サレハ如何

答 曩ニ陳述セシ通り宗室ニ於テ林示ス  
ル処ナレバ如何様ノ処刑ニ達フ共縣令ノ達  
ニ安シテ存存思ハシ之ヲ

二言今元

此ノ事ハ...

書入三十字

問然ラハ若シ死人アウテ出棺セントスルニ際ニ相当官  
出張シテ至ル押ハ其サ死儀ヲ受ムコトヲ得ル時ハ如何  
スル積リナル哉

答ハ父母又兄弟又ハ親戚ノ死伴ヲ差押ハラシ  
其屍ニ寄高敷ルトモ頭神官等ニ依頼ス  
ル積リニ至之矣

問其方等ノ由余々ハ於テ長官ノ違サ等ニ違比母シ  
テハ支名キトノ事ハ有ル間敷丈トハ如何ニ不当ノ陳  
述ハ如何ニモ了得致シ難ク

答在上ノ人ニ向テ違比目スル儀ハ不相成モノ  
ナレ共此ノ神官等ニ依頼スルノ事ハ至テハ

問然ラニ若シ死人アウテ出棺セントスルニ際ニ相当官  
出張シテ至テ押ヘ其ニ葬儀ヲ掌ムコトヲ得ル<sup>セシメ</sup>ル時ハ如何  
スル積リナル哉

答ハ父母兄弟又ハ親戚ノ死体ヲ至テ押ヘラシ  
其屍ニ高敷ルトモ毛頭神官等ハ依頼ス  
ル積リニ至之積

問其才等ノ由ル者ニ於テハ長官ノ違等ニ違北母ニ  
テ至テ支キトノ事ハ有ル間敷丈トモ妙是ニ不当ノ陳  
述ニ如何ニモ了得致シ難ク

答在上ノ人ニ向テ違北目スル儀ハ不相成モノ  
ナレ共其ノ神官等ニ依頼スルノ事ハ至テハ

尚其方... 有儿間敷... 如是之...

テ... 支... キトノ事... 難リ

迹... 如何... 了得... 致シ難リ

答在... 上ノ人... 向テ... 違北目スル儀... 不相成モノ

ナレ共... 坊ノ神官等... 依頼スルノ事... 至テハ

解カ... 遵守スル... 譯... 集リ不申... 矣

問譯... 集リ不申... 矣ト... 兼服セサル儀ナレヤ

答然リ... 然ル故... 自分等... 於テハ... 是迄ノ通り

自茲... 非スルカ又... 教師ニ依頼スルカ... 西条ノ内何

レトカ... 致シ度... 其... 叶... 廿ルモノナルヤ

夫... 六叶... 廿ルモノナリ

拓訊問... 對スル... 枚等... 之陳述... 柳カ相違ナキヤ

明治十七年六月七日

平尾村戸長役所

山本 弥市

書入一字  
筆抹一字

書入三字  
筆抹一字

ニ至る支をキトリ奉ル

迹如何ニモ了得致シ難ク

答在上ノ人ニ向テ違北目スル儀ニ不相成モノ  
ナレ共此ノ神官等ニ依頼スルノ事ニ至テハ

辭カ違字スルニ譯ニニ来リ不申矣

問譯ニニ来リ不申矣トニ兼服セサル儀ナレヤ

答然リ然ル故ニ自分等ニ於テハ是迄ノ通り

自サカスルカ又ニ教師ニ依頼スルカ<sup>カ</sup>而来リ何

レトカ致シ度其ニ義ニ叶ハサルモノナルヤ

夫レ叶ワサルモノナリ

右訊問ニ對スル故等之陳述聊カ相違ナキヤ

答相違ニ無之

明治十七年六月七日

平戸村戸長役所ニ於テ

山本 弥市

望林二作  
身六二作

望林二作

問世等、姓名如何

邊問答書

南澤真澄

本庄村長

元村博士門

川原衛門

山本市之助

畑原道平

山口麻平

牧野和助

濱野留吉

望平寺辨法十作

平庄村入道系

三十四

望林二作

望林二作

田村三原吉

白石望在藏

川原安茂

丸山茂作

望田立志平

望藤下太平

前田宗五郎

畑原志五郎

山本善三郎

畑原弥助

永田国平

同世等、姓名如何

邊問各書

高澤真澄

本庄村長

元村僧左門

川原衛八

山本市之助

畑原道平

山口麻平

牧野和助

濱山等 畑田吉

實系寺傳 卷十 作

平次村入五本

永田國平

畑原弥助

山本善平

畑原吉之郎

前田宗之郎

藤下大平

山本立志平

丸山英作

川原要義

白石岩藏

田村廣吉

三十一  
三十一  
三十一

吳系序持卷十三件  
梅平

“

“

“

“

“

“

平江村 五景

元川山 廬山 敘 窟

景

池田忠三郎

長富富藏

永田乙平

池田大平

藤下仙藏

右川未八

梅田春重

俊上傳八

横山文信門

大石徳十郎

堀田仙二郎

長富富藏

長富富藏

末吉天平

下道若也郎

河其方共、於今護國已通、山存弥市

外七名、世傳之此間各、就、不、何、申、之、可、

意見、各キヤ

谷山存弥市、持寺、在、各、申、之、外、

申、可、于、事、重、<sup>疑</sup>、~~申~~、之、

右、同、各、相、違、各、申、裁

各、相、違、各、之、

明治七年六月七

池田忠三郎

二生

大石徳十郎  
堀田仙二郎

末土口戸平

下道吉五郎

問其方共、於テ只今讀聞セシ通り山本弥市  
外七名ニ對シタル間各ニ就キテ、何カ申シ之ヲ可キ  
意思見ハルキヤ

各山本弥市等ノ後各申シタルヨリ外ニ  
申上可キ事更、<sup>此</sup>有之ヲ

右問答相連各キ哉

答相連各之ヲ

明治十七年六月七日

山本弥市ノ...

書ノ一字  
筆跡ニシテ

大石徳十郎  
堀田仙二郎

末吉戸平

下道吉五郎

問其方共、於テ只今讀聞也し通り山本弥市  
外七名ニ對シタレ問答ニ就キテ、何カ申シ之ヲ可キ  
意思見ニ無キヤ

各山本弥市等ノ陸及中ニタレヨリ外ニ  
申上可キ事更ニ有<sup>ル</sup>之有

右問答相違無キ哉

答相違無之歟

明治十七年六月七日

一字

只平吉五郎

讀聞  
三河  
長安

大石徳十郎  
堀田仙二郎

末吉戸平  
下道吉忠郎

問其方共、於テ只今讀聞セシ通り山本弥市  
外七名ニ對シタレ問答ニ就キテ、何カ申シ之ツ可キ  
意思見ニ任キヤ

各山本弥市等ノ後各申シタレヨリ外ニ  
申上可キ事更、<sup>毎</sup>之取

右問答相連各キ哉  
答相連各之取

明治十七年六月七日

書一  
字  
筆  
一  
字

讀社

山本弥市ノ...

三ノ河ノ...

池田忠三郎

長富富藏

永田乙平

池田乙平

美藤下仙藏

木川末八

梅田春重

横山式在門

堀田仙三郎

長富仙藏

末吉乙平

池田忠三郎

池田忠三郎

田村彦吉

白石岩藏

川原要藏

丸山善作

山田忠志事

美藤下太平

前田忠三郎

畑原吉三郎

山本吉平

畑原弥助

永田國平

池田忠三郎

平戸村長

下通吉五郎

渡上傳八

大石徳十郎

平戸村長

廣澤直之丞

平戸村長

葬儀執行ノ案我ニ付候

耶蘇宗信徒當村平民吉浦豊藏ヨリ死亡  
届出候之由本年御座甲第二十四ノ号ノ御布  
達第ニ十条ニ基キ葬儀証ヲ付与セシムル長崎  
天主堂教職四維方ナル者葬儀執行行ニ  
タル段葬証書裏面ハ記載調子返付セリ然レ  
右四維方ナル者ハ葬儀執行スルノ公許ヲ得  
タル者ニ候哉其々疑惑ヲ生シ候間葬証取  
添以此段奉伺候也

北九州浦郡麻所村之長

松本清太郎

明治十七年七月二日

二百五

此ノ事ハ...

葬儀執行ノ義ニ付伺

耶蘇宗信徒當村平民吉浦豊藏ヨリテ死亡  
届出候ニ付本年御座甲第ニ付ハ号ノ御布  
達第ニ付糸ニ基キ葬証ヲ付与セシメ長崎  
天主堂教職四維牙ナル者葬儀執行行  
タル段葬証裏面ハ記載調子返付セリ然レ  
ニ右四維牙ナル者ハ葬儀執行スルノ公許ヲ得  
タル者ニ候哉長ク疑惑ヲ生シ候間葬証取  
添以此段奉伺候也

北畠浦郡鹿河村之長

恆有清太郎

明治十七年七月二日

二百五

只平太夫之...

長崎縣令石高英吉殿

前書為之通函出於君進拜定也

十七年七月

郡長代理

少松浦郡長記心承及



葬証

鹿所村百貳番戸平民衆

吉浦豊藏姉

シメ

辛酉七十五年四月

六月廿六日死元

右死元届濟之付此証中以テ葬儀執行可  
致事

鹿所村戸長

坂本清太郎

明治十七年六月廿六日

三百九十五

只平女...

右者本月廿七日長崎天主堂教職成者相違并  
儀取行候事實正也

明治拾七年六月廿七日 羅牙

Em. Recusant

鹿町村之長

坂本清太郎致

鹿町村文長  
坂本清之郎敬

何事

以十一年甲子... 予开案... 証執行濟... 惠書... 丹宗徒... 証論... 証于... 証宗... 証師... 証名...

三百五十六

証

証

証

其ノ事ハタカニ身ノ第ニ於テ選ニ於テ  
 聖ノ理スルキモ一ニ於テ本ノノ下  
 其ノ事ハタカニ身ノ第ニ於テ選ニ於テ  
 聖ノ理スルキモ一ニ於テ本ノノ下  
 其ノ事ハタカニ身ノ第ニ於テ選ニ於テ  
 聖ノ理スルキモ一ニ於テ本ノノ下

其ノ事ハタカニ身ノ第ニ於テ選ニ於テ  
 聖ノ理スルキモ一ニ於テ本ノノ下  
 其ノ事ハタカニ身ノ第ニ於テ選ニ於テ  
 聖ノ理スルキモ一ニ於テ本ノノ下

宝龜才 六十七行

七ノ断、如キニ、カ、端、本、想、之、忘、  
受、理、ス、ハ、キ、モ、一、と、云、ク、本、人、ハ、却、下、  
ス、ル、ニ、テ、テ、テ、テ、テ、一、意、書、云、ク、テ、テ、テ、テ、  
テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、  
テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、  
テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、

九、諸、事、并、証、意、也、者、一、我、ニ、テ、時、同、ク、  
テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、  
外、同、人、ハ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、  
如、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、

書、同、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、テ、

如... 付... 五... 今... 本... 人... 石... 樂... 此...

尋問... 為... 教... 子... 夫... 亦... 死... 之... 也... 思... 之... 其... 如... 何... 可... 有... 之... 哉...

少... 由... 而... 更... 外... 一... 百... 下... 毛...

同... 七... 年... 七... 月... 一... 日...

三... 本... 一... 年...

長... 年... 縣... 令... 石... 田... 吳... 夫... 殿...

前... 書... 之... 通... 徇... 也... 官... 道... 幸... 任... 候... 也...

新... 長... 代... 理...

明... 治... 十... 七... 年... 七... 月... 一... 日... 署... 印... 部... 書... 記... 石... 田... 吳... 夫... 殿...



三...

紙... 差... 寸... 五... 分... 八... 厘...

同... 七... 年... 七... 月... 一... 日... 署... 印... 部... 書... 記... 石... 田... 吳... 夫... 殿...

Handwritten text in the top right margin, possibly a date or reference.

譯長

譯長



席

席

席

席

席

席

席

席

抄

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

譯長

一身二十号

二通文

Vertical text on the left margin, possibly a date or reference.

白... 七月九日... 三十一日... 瑞

譯長

多... 瑞



席

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

按... 瑞

平... 瑞

...

...

...

譯長

一身六十号

...

...

昭和七年七月九日  
多岐多山十郎

譯長

多岐多山

訂

原

席巻  
此紙に記す如く  
昭和七年七月九日

拙稿を御覧

平本村公以抄本  
此紙に記す如く  
昭和七年七月九日

譯長

三夏六

昭和七年七月九日

十好海郡公  
年

*[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]*

明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議  
明治十七年三月九日議

同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議  
同 八年八月十日決議

命

書記官

書記官  
書記官  
書記官  
書記官  
書記官  
書記官  
書記官  
書記官  
書記官  
書記官

意

及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ  
及是申ト云 強テ以テ入テ

第六十号

二百九十九

明治十七年三月九日議

明治十七年三月九日  
同 八年八月十日  
同 年三月三日

命

書記官

女 長 司 書 下 守

葬儀ニ付 別紙中ワハラ 出候如右ノ大ナ文  
及迄申ト云 強テハ 証シテ 及ハス 其  
言 向ニ 任セ 守直不苦候 書類 返下 次段

第六十号

二百九十九

寄 系

十時三十分 日 子田

長樂縣志

明治五年六月第九日  
葬儀執行之儀ニ付伺

神官僧侶、内、可相頼ト有

之候處目下王内臣民ニ於テ

曾呂ニ依頼セズ外王人即チ

教師等、依頼ミテ葬儀執行

者之死亡、此節当者ニ於テ

禮、古之昔英文ヲ以テ裏記致

素ニ付前案ニ法布告ニ照合

他、説諭ヲ容レズ強クテ之ヲ

其、説係スル処頗ル廣クテ

彼、以、憂慮

長崎意毀所

十第...  
...  
...

# 葬儀執行之儀ニ付伺

明治五年六月廿九日  
指二号  
法第廿告

葬儀ニ神官僧侶、内、可ね頼ト有

之候處目下区内全民ニ於ラモ

僧侶ニ依頼セズ外至人即チ耶ニ換

教師等、依頼シテ葬儀執行候者

有之死亡、節當者ニ於テ下附ニ葬

禮、古之昔英文ヲ以テ裏記致シ

美ニ付前案ニ法布告ニ照合シ

、恐レ有之者モ亦何ニセシ自信ノ厚キ

他、説諭ヲ容レズ強クテ之ヲ諭示スルハ

其、誤係スル処頗ル廣ク彼等憂慮

三讀  
長崎縣役所

...

仕候去リテ前條、透布告存下凡以上ハ  
 其從差措キ難ク殆ニド處分上差支  
 候ニ付如何可致哉此段至急何分ニ  
 透措揮和伺矣也  
 明治十七年十月廿七日

長崎區長朝長東九郎  
 縣令代理

長崎區長  
 朝長  
 東九郎

長崎縣大書記官柳本直方郎殿

追テ各人ニ宗者取調去際耶ヲ換宗或  
 無宗者等申立テ賣者モ有之賣ハ  
 如何可致哉強イテ神佛、内ニ從ハ  
 七五八九 誤ニテ 至ル 間處 申下 存矣 条

念ふは法界相御と候也

CR1

三番  
三番

得也子清慧揮相仰十候也

也... 候... 至... 潤... 中... 十... 待...

三十一

得也子 清慧 揮 相仰 + 候也

也三山九 沃三又 呈几 潤益車 十 存

仕候去リテ前條、造布告存ル以上ハ  
其候差措キ難ク殆ニト處分上差支  
候ニ付如何可致哉此段至急候分ニ  
速措揮和伺矣也  
明治十七年十月廿七日

長崎區長朝長東九郎

長崎區長朝長東九郎

縣令代理

長崎縣大書記官柳本直方郎殿

追テ名人之宗者取調書際取テ換宗或  
ハ無宗者等申立テ其者モ有之矣ハ、  
如何可致哉強クテ神佛、内ニ從ハ  
也ニ山ハ 祈ニ元皇ニ 間為事ト存矣 奈

保也テ速措揮相仰キ候也

十...

...

第... 果... 愛... 丸... 夜...

目... 方... 丸... 司... 司... 司... 司... 司...

支... 十... 日... 昔... 新... 親... 國...

...

三...

...

處分御願

長野縣信濃國水内郡天台泉善

光寺別當大勸進佳職奥田貫

照徒弟弟

佛法光明社之長 玉置覺海

京都府下京區井二組辰巳町

及發起人 寺本榮之助

右寺本榮之助、當時長崎村夫婦

川郷春徳寺守留玉置、未着、

由

右之著者去、十六年九月中佐賀縣西松浦

郡大川野村本覺寺住職十時高賢等  
 同高支局所轄北浦那迫傍者寺佛  
 號供銀之口實之圖帳之寫  
 甲號寫一書而屆空其際乙號號之書而  
 以之該地分局一達書造置候處丙乙號之  
 書而中外道狂職云之總謗依之乙號著  
 面相造直候其後兩二號之書面突然  
 差出候三付乙三張尤之可以于回卷候處  
 丙乙之供銀御伺十書面其書中連四者  
 至置覺海之下奉人之印東谷日先買之下  
 別總覺海之印不都合之次之四之書

面以之逐條尋問候處丙四之面卷書右  
 書中不都合不付奉同日寺奉氏逐  
 一尋問之儀別紙書載勿論右書中  
 內務省伺中儀付乙五之書而本  
 人共當支局達置候其後當支局  
 何之誤會毛集之五島地方福江大同寺  
 始宗内者寺巡回致候由不都合  
 猶又奉年三月十九日內務省乙奉十六號  
 御達有之候右尋之手順相運  
 大則今般當港春德寺之右供銀  
 覺之市中毛建札致居顯映御布達

郡大川野村本覽寺住職十時高賢等

協同高富支局所轄北松浦郡近傍老寺三佛

鱗供銀之口幣十三開帳高賢等

甲號寫一書而屆出實際乙號號上下書面

以下談地分局一達書邊置候處丙乙號之

書面中外道狂職云之說兩據依乙二號書

而相造之直候其後兩二號之書面突達

差出候三付乙三號左三以于回答候處

丙乙之供銀御伺一書面其書中連置者

至置覽海之下奉人之印東浴呂老賢之下

三別種覽海之印不都合身之次乙四之書

面以于逐條尋問候處丙四之冊卷書右

書中不都合不付三付奉目七日寺奉氏逐

一尋問之儀別紙書載勿論右書中

內務省同中一儀二付乙五之冊音而奉

人共高富支局引達置候其後高富支局

乙何之覽會毛集之五島地方福江大回寺

始宗内右寺二巡回致候由不都合身

猶又奉年三月十九日內務省乙奉十六號

御達有之候三右等之半順引相運

六則今般高港春德寺三規十毛右供銀

覽十市中工建札致居點映御布達

西蓮背候者、上相心尋候、三行別紙甲乙西  
手續、手書面相添進達仕候間、何分乏  
御處分奉仰候也

長崎縣曹洞宗務支局謹

明治十七年九月十三日 敬尊取締高木忍海

長崎縣令乃田築者殿

本月七日自寺本築之助、口供之寫

西一書中外道在攝、全之談、謗

西三釋迦及ニ光三尊佛之、初ノ寺本築之

助所有明品、八月三月廿四日、誓願之後、至實

實悔ニ、ニ、今何、所有佛、欲、兼、不、致、儀、

全 連署者、滋賀縣人、岩本國、提院、院、東、谷、光、賢、

實印、玉置、實、海、實、印、刺、換、付、ク、ニ、カ、

于貫文、ト申奉

西四内務省、有、伺、中、ト申奉

全 宗旨、釋迦、佛、院、二尊、慶、讀、ム、付、願、行

自他ノ別ヲ成サズ

而立社名ハ玉置道覺海ヨリ京都府廳ニ届

濟ト申事辭令ナリ

全國寺院工巡回教代ルハ内務省之

詔可無之

府縣届濟シク文言言不分明

右ニ通ニ示候也

談六号連合寺院ニ

御 届

佐賀縣下西松浦郡大川野村

曹洞宗本覺寺住職

試補 十時亮賢

一月蓋長者濟度親尊之像

一信列善光孝本尊分身如來

但レ聖德皇太子感得之像

右從來拙寺江安置ノ佛體ニ候処今般北松

浦郡平戸村瑞雲寺檀家信徒ノ出願ニ依リ

其節江一屆濟ノ上右寺ニ於テ本月八日ヨリ十二日

五月間説教施行ノ次序ヲ布教ノ爲メ佛體

五十四

住持 廣氏 拜禮 爲致 力 毛 右 等  
件 付 勸 敷 了 箇 敷 事 八 無 論 法 式 字  
宗 規 違 犯 之 屬 無 之 樣 注 意 仕 候 間 此 段  
御 届 申 上 候 也

右 寺 住 職

十 六 年 十 月 七 日 十 時 直 亮 賢 印

長 寄 縣 下

曹 洞 宗 燈 支 局

御 中

去 心 八 日 其 寺 於 乎 善 光 寺 分 身 如 嘉 々 相  
請 信 徒 者 且 拜 禮 致 也 候 樣 本 覺 本 覺 寺 住 職  
試 補 十 時 直 亮 賢 氏 一 届 出 然 以 之 明 治 十 四 年  
四 月 廿 一 日 地 方 會 議 案 第 六 條 二 演 法 之 儀  
八 本 師 教 學 之 信 仰 也 之 凡 無 論 之 々 有 之  
就 二 右 分 身 如 嘉 々 送 信 徒 及 本 宗 僧 侶 返  
舉 之 六 字 名 号 之 相 唱 之 夫 一 力 爲 大 信 徒  
方 向 之 誤 俗 客 一 嘲 之 中 毛 招 之 候 樣 風 團 造  
之 當 支 局 且 相 間 且 相 瀆 之 儀 之 付 談 寺  
右 法 用 相 瀆 候 後 宗 之 各 寺 之 右 如 來 請  
待 儀 差 留 候 間 所 轄 寺 院 且 無 洩 至 急

可被相違候也

十五年十月十二日 宗務支高印

平戸分司詰申

予、在俗、言出家、過嘉永頃、開進、今日及  
 既朝野、雲水、或仁祠道場、遊歴、成、停、民  
 間、行脚、而、累、亦、情、六、交際、ヲ、以、庶、民、法、財、  
 乏、病、体、ヲ、知、然、是、醫、方、ヲ、不、導、師、非、不、只、有、疑、  
 短、才、者、雖、能、箠、心、術、ヲ、調、和、我、慢、一、角、ヲ、刺、落、  
 慈、悲、道、德、ノ、袖、ヲ、長、大、ニ、シ、ト、欲、不、依、予、カ、進、止、ヲ、顧、  
 茲、切、心、素、懷、ヲ、陳、不、抑、我、カ、國、教、ヲ、為、神、佛、二  
 道、之、次、ノ、所、謂、神、教、ヲ、暫、ク、止、シ、然、而、佛、教、ノ、如、何、早  
 管、見、不、レ、獨、一、ノ、教、ヲ、以、慈、悲、ヲ、以、基、ト、シ、衆、生、ヲ  
 濟、度、大、故、一、者、仁、祠、道、場、ト、云、フ、依、テ、天、下、ノ、道、場、於  
 各、宗、親、睦、交、際、ヲ、成、シ、國、家、安、民、慈、悲、ノ、大、炮、ヲ、以、テ

廿六

四号

皇基令十款以防禦所以成所以若氏之違書任字  
天下弥布以于庶民誘掖之善以教化翼贊已  
解供娘結緣隨喜天加旃袂尊附屬正法以  
云可也何十款于牧年他府縣官許經天  
仰奇之氏以于反于異教又求國家不安邪師  
佛解崇信供娘七不豈異教又防禦也夫以  
知大君子博衆善取于政之輔也一彼之  
過言不足正侯法社會外道狂職上祗見也欽君  
一均一章教成若氏之言用却于一說  
當教返于西之假令我宗本尊非是昼夜經說  
言教職吐露可三之天况哉教導取締夕兩手留

異教魔軍又喝又國空邪兵威也下要心專于  
各宗區而下而及少偏見之主張也八恐八教者之本志非  
以之何十款者自宗弥陀佛他宗不親不睦不向力成  
則如何于慈悲之大炮以于魔軍又防禦也斯如  
異端豈親氏正統十款于茲長壽縣又經迴天折節  
佛解供娘隨喜成惜哉國家大患于生聖人有  
縣不曹同宗務文局皓臺寺住職高木氏之北松浦郡佐村  
東光寺又局違書也八言又院三弥陀觀音誓至三卷  
也宗本為三之我宗崇信供娘不可不嗚呼手  
伯大矣八以具供娘中俗八文按八勿之等云被

壬子

衆益衆善。德業。多。供。報。利益。年。七。六。僧。徒。三。

一。復。其。禍。延。三。國。家。三。頭。覆。也。三。三。三。依。亦。亦。亦。

件。之。故。身。職。務。多。也。誠。不。意。也。迴。差。改。止。之。若。又。不。審。

異。見。之。生。也。新。紙。之。揭。四。海。識。者。之。同。趣。也。必。

要。不。但。之。奇。留。也。三。豐。慶。國。大。分。郡。大。分。町。臨。濟。亦。

百。壽。寺。也。否。也。而。所。三。迴。流。

佐。賀。縣。下。五。松。浦。郡。大。川。野。村。本。覺。寺。

十六年四月十三日 信者 寺本家之助印

### 皓臺寺住職

高木忍海庵

前畧。同。月。十二。日。付。以。小。納。職。務。上。之。得。失。

及。之。言。見。異。同。等。痛。誠。不。以。啟。謝。入。片。

就。小。納。未。之。一。面。後。之。乃。三。三。三。共。談。旨。趣。之。

某。大。之。足。下。之。愛。國。護。法。之。良。之。誠。賀。大。大。

至。り。其。其。其。餘。雖。非。家。之。各。宗。交。際。之。親。睦。

以。之。宗。意。安。心。混。淆。不。心。之。三。三。三。誠。悲。之。三。三。

形。身。之。頃。日。小。納。之。真。之。故。用。多。忙。中。之。三。三。三。

同胞。之。交。誼。以。之。聊。之。友。信。言。忠。告。之。勞。之。

厭。之。三。三。三。可。之。三。三。三。之。足。下。身。心。清。淨。之。三。三。

之。位。之。以。下。之。西。面。目。之。研。究。被。成。度。後。之。

一。切。宗。教。或。上。之。三。三。三。都。之。教。會。條。例。之。依。之。三。三。

抄

十四号

衆益衆善、隱棄身供讓、利益、并也、於、僧徒、

一愛之、其禍延之國家、頭續也、此、至、依、尔、云、右、

件、之、故、導、職、務、々、以、哉、不、速、迴、差、致、止、之、若、又、不、審、

異、見、之、生、也、新、紙、掲、々、四、海、識、者、問、趣、々、必、

要、大、但、心、寄、留、也、豊、後、國、大、分、郡、大、分、町、臨、濟、宗、

乃、壽、寺、也、否、之、而、所、迴、差、

佐、賀、縣、下、西、松、浦、郡、大、川、野、村、本、覺、寺、

十六年四月十三日 信者 寺本采之助印

### 皓臺寺住職

高木 忍心海為

前畧、四月十三日付、以、小、納、職、務、上、之、得、失、

及、之、言、見、異、同、号、痛、誠、不、以、殿、謝、入、以、

就、小、納、未、之、一、所、候、之、為、其、意、共、諛、旨、趣、

案、不、心、足、下、之、愛、國、護、法、之、良、心、誠、賀、又、々、

至、り、其、仍、共、其、條、辯、家、各、宗、交、際、之、親、睦、

以、之、宗、意、安、心、混、淆、不、心、之、之、誠、悲、公、々、

形、身、之、煩、目、小、納、之、真、之、意、用、多、忙、中、が、う、毛、

同胞、之、交、誼、以、之、聊、加、友、信、言、中、忠、告、之、勞、

厭、之、可、々、之、幸、之、足、下、身、心、清、淨、之、之、念、

位、之、以、下、之、西、目、之、研、究、被、成、廢、後、

一、布、宗、教、我、上、之、竹、々、之、都、之、教、會、條、例、之、依、之、之、之、

廿大

可カラザル事

一各宗文際上、親睦ヲ以テ宗義安心混同

不可カラザル事

一何宗信者ト稱ズル以上縱令衆徒万行ニモセヨ

所信ニ宗教ニ實信ナク偽信濫信ニ舉テ動

了ル可カラザル事

一國家ニ法律アリ苟モ他ノ職務上ニ向テ讒誘

ニ觸ルヤ法律ノ罪人ナルヲ免ズルヲ求ムル得ル

カラズ

以上見下ニ爲メニ忠愛ヲ盡スルモノニ至殊

ト爲ルニ奉養寺位職平素教導等ニ行届キ

了ルニ答ハルニ其信者ニ于テ之ヲモ認知セザル其

責ノ師僧ニ于ルニ是論ナク實ハ此ニ回答書

モ真翰ト共ニ申越シ加テ新紙ニ掲載セシム

想像爲ル者左テ示スル宗内今日猶亦是ノ

了ルト世ニ知ラレバ宗内一般ノ權限ヲ爲ス

先ニ留措ヲ爲官此而念シテ中ノ入至テ

了ルニ不具

### 長崎港

明治六年三月廿一日 晴靈寺位後高木忍海

中後寺信者

寺奉栄之助

丑九

畧述拜呈過ル由伺書北松浦郡星鹿村  
浄土寺ヨリ差出致處今哉由沙汰無之  
然ル曹洞信徒ヨリ異教防禦之為上再三  
請待セラレ致故我社負其為佛法光明社  
卜盟立致我間連之由沙汰此个度若之由  
局。於テ不都合之由症我々大本山由本局  
上御伺申度否由回答專之由依頼申上  
也

佛法光明社惣代

十七年三月三十日

玉置覺海印

寺本栄之助印

六十

曹洞宗務支局

市中

別院即今北松浦郡田平村臨濟宗因通寺  
於十七日間之燃燈中、主堂焚

去三月二十日付以何書云 回答ニ

要セテハ、確得共、當支局ニ、同書等郵  
着無之、付回答、及難、此殿被得共

書度共也

但書面着次可及何、同書等共也

長崎縣

曹洞宗務支局

玉置覺海殿

十一

供養御伺

一皇國開闢以來戰死之方靈有縁無縁等供養

一三國傳來信別善光寺如來光明御常燈

一月蓋長者教化釋迦牟尼佛 光 諸佛躰

一善光寺如來分身一光三尊佛 但 聖德皇太子感得

一釋迦彌陀三尊金光明最勝王經五百大阿羅漢之尊像

右者佛法光明社信仰之本尊佛御座候處今般本縣

下北松浦郡地方淨土天台真言真宗等ニ於テ右供養

且ツ異教防禦之爲說教執行致來候處各宗信徒

ハ無論異教侵入ノ庶民ニ至ル迄群參皈依致シ就中

曹洞教會信徒ニ至ル迄悉ク群參ノニ至ルテ各々供

養說教懸望少カ之依ニ吾社負之ヲ問毎ニ而教

精神切テ依テ信徒賜秘シ上該宗教場借寺致シ

布教相叶問敷候哉尤ク信施シ外寄進勸助等ノ

無論總テ御規條將崇教違犯無ク之樣注意シ之上相

整度候奈御差支無ク之哉坎段奉同候也

長野縣下信濃國水内郡長野村天台崇善光寺別當

大勸進任職奧田貫照渡弟

玉置覺海覺海傳

添賀縣下近江國添賀郡比叡山天台宗円龍院

任職 少請義 東谷是賢別稱覺海傳

長寄敷下北松浦郡皇帝村淨土宗淨土寺住職

中請義 香林融道

同縣下同郡平戸村臨濟宗正宗寺住職

少請義 筒井綱堂四谷崇徳代作

同縣下同郡田平村同宗圓通寺住職

少請義 加納宗殊

佐賀縣下東松浦郡東寺町曹洞宗大津寺徒弟

津山大活

京都府山城國下京區元二組松原通辰巳町

佛法光明社惣代 寺本榮之助

明治拾七年四月元六日

六十三

六十四

本月廿六日付ヨ以テ同出ノ趣速ニ可悉也  
 差中ニ被形ノ共左ノ各項ニ不審者ニ  
 是存一ニ在ル辭詞中上致  
 一 佛法光明社中ハ如何ナル性質ニ成  
 立タル者ナリヤ規則ノ大概ハ如何  
 一 供養ト云ハ開帳供養ナリヤ  
 一 歸依致シタル其社員ニ加入セリヤ連累  
 七名ハ皆社員ナリヤ  
 一 其社ハ何地ニカ本據ノ場所アリテ如何  
 一 由置ルヤ寺院ノ如キモノナリヤ果シテ如何ハ

長寄縣

曹洞宗務支局

御中

何宗旨之教義、ヨルヤ社長、何トナク

一 借主トナラントスルハ誰人ナリヤ

一 玉置愛阿寺布榮、物津山大活三氏、若

導致ナリヤ

右二件、明了ニ由テ裁奪、報方越不致然

以上兩案、同書、前次由答中、上院未定、之案、書而

由預、為至、以、由、而、照、為、志、等、

既、在、其、身、且、凡、  
長崎、弘、曹、同、宗、務、文、自、廢、務、印

如、知、平、村、四、宗、寺、寄、宿

玉置愛阿寺

御尋問ニ付回答如左

佛法光明社、性質別紙社、算志類書之通、社算

別紙志類書連印四名、其餘百五十五名連印

也、二者皆贊成同盟ナリ、別紙署表之通、其、他、連、印、之

物、之、信、徒、七、千、八、百、余、人、也、本、社、本、根、京、都、下、京、元

廿二、温、辰、三、町、寺、中、衆、之、脚、宅、中、以、手、強、大、志、社、本、根、大

務、務、者、何、中、之、自、帶、需、示、其、中、為、寺、佛、以、明、治、八、年、三、月

廿八、日、京、都、府、廳、陶、局、上、諸、寺、之、於、于、佛、養、教、之、其、後

佛、臨、下、巡、回、預、濟、之、說、教、供、養、良、教、者、惟、此、字、者、之、類

也、強、施、二、層、寺、之、宗、家、敬、贊、不、化、者、之、行、願、行、自、他、一、別、于

廿六、次、教、層、四、句、之、誓、言、文、由、此、玉、置、津、山、教、導、職

佛法光明社志願書

柳本社設立之旨、別紙内務省管見上伺之  
 通ニシテ。全國寺院巡迴教化スル者他意。  
 非不專ニ異教ヲ御斥廢非法駁ト本ト國  
 家維持人心團結スル以テ本社、精神トス  
 凡ソ内國宗教神佛兩ツナクテ其幹枝、  
 全ラスルト雖モ兄弟仇視スル、尙テ習フキ  
 「能ハズ其門ニ在リテ甲、自ラ或大ニシテ  
 之ハ毀誣スルハ故念テ抱、者之全ニ異教  
 防御テ國家維持、大義ニ之ヲ所以ナリカ  
 今廣ク宗教上、目撃スルニ異教廢非法年

明治七年五月十九日

長崎西區同宗務支局

玉置覺海印

寺本第一印

右之通、別紙訂定長崎西區同宗務支局  
 分ノ事、悉ク稔テ度テ所願中央也

十一、本支局、元來信託事務、在ニ此知致思、而基礎ニ  
 信託、初、歌、居、居、年、ニ、美、意、也、言、如、長、官、官、衛、一、層、名、而、注  
 設、立、了、發、展、起、人、ノ、信、主、ト、シ、テ、天、比、者、ハ、社、員、ナリ

借部中

十リ寺本ハ元來信別ノ善光寺。在北和歌月帯其末ニテ  
信別和歌月帯ノ下リ善光寺ノ如來守衛ノ居士亦社  
設立ノ發起人ナリ。借主トナラントスル者ハ社員ナリ

右之通り別紙記述ある條、清圓名ニ在候者何  
分ニ御意令被リ度候様申上之也

玉置覺海印

明治十七年五月十九日

寺本業之助印

長崎西曹洞宗務支局

結御中

尚、は振令之儀ハ北杉浦辺小値賀嶋宿吹村阿弥陀寺トモ送書

佛法光明社志願書

音五

ニテ国家、損害之ヨリ大ナルハナシ之、未  
 萌防カスニハ有ヘカラズ夫是ヲ未萌防  
 カント欲スルハズ布教結縁ニ如リハナシ故ニ今  
 般有信、義裁者ト計リ日本最知、靈聖場ニ  
 國伝來善光寺如未命身聖徳自皇太子  
 感得一光ニ醉<sup>至</sup><sub>聖</sub>詔<sup>至</sup>、勸請  
 府縣届濟ニテ佛法光明社信仰承  
 尊任トシ因ニ善光寺如未光明御常燈  
 以テ皇國開闢以來對死有縁無縁之  
 精靈供養ヲ營ニ都鄙波鳴ヲ擢ニ泉流  
 自他ヲ同ハス隨縁應機ニ布教攝化

々ニ増加シ月々ニ敏系延ニ我カ国家人民  
 十カニ、彼ニ或惑溺ニ他邦ニ帰向奔走ス  
 ルニ至ル高ニ彼、靡靡法ニ帰向奔走スルニ  
 非ズ我カ宗教社会ニ在テモ專ラ不淨感、  
 甚四一名利ニ耽着ニ甚ク如未、德行欠キ  
 邪後ヲ招、所業同之有之布教、心ナ  
 糊口ニ安ズル者、非ニ非ニ故ニ其門徒  
 毛隨、避念ヲ生シ軼泉改式云々、苦情ヲ  
 訴ヘ寺祖葛藤ヲ生スル者アルニ至ル實ニ  
 今日、嗚カ、以テ將来ヲ思想スルニ如何  
 形容ヲ願ハカントスルヤ身實ニ黙從ニ耐ヘサ所

一衣一鉢種下淡泊、德行ニ基キ森ニ江

湖ヲ往還シ以テ佛信ノ心ヲ人民善智力

善女ヲシテ一佛國土ノ光明ニ攝取セラレテ

不退ノ信根ヲ増進シ現世ニ二吉ノ利益ヲ

蒙リシナリテ西女スル處ナリ、當葉ハ我佛法

中ニ衣食スル大業善善ノ義士苟モ佛敵

國賊ヲ對治セント欲スル者、泉源ノ私ヲ論セ

入社盟ノ由ヲ陋ヲ妙トス、其一大故業ヲ

佛護ニ國家ノ損害、宗教ノ大害ニシテ未嘗

防御示シズニシテ、社員謹テ白

長野縣信濃國水内郡天呂宗善善光

寺別當大勸進住職、<sup>誠</sup>田貫、<sup>誠</sup>健、弟

佛法光明社ノ長、<sup>誠</sup>王置、<sup>誠</sup>覽、<sup>誠</sup>海、<sup>誠</sup>卯

明治十六年八月、京都府山城國下京區井二組辰巳町

發起人、寺本、栄、之、助、<sup>誠</sup>卯

滋賀縣近江國滋賀郡比叡山田龍

院住職

天台宗、權少講義、東谷、見、<sup>誠</sup>卯

豐後國大分郡、大分町、萬壽寺住職

盧濟宗、權中講義、足利、綱、宗、<sup>誠</sup>卯

佛法光明社ノ員規則

一 本社、明證之スルハ慈悲大ノ佛光ヲ以テ回教  
ノ海外ニ放輝シ專ラ邪教ヲ廢法ニ照大  
破スルニ在リ故ニ名クテ佛法光明社トシテ

一 社員、常ニ四威儀ニ住ミ佛祖ヲ訓誨ヲ  
遵奉シ枯淡ヲ守リ日弊ヲ行ミ諸支體

勤心ニ執行スルニ尤モ餘カマズ時ニ晝夜  
文學ヲ設教講習ヲ勵ムルニ支

一 供糧中、信施之外決シテ勸財財教ス而數  
支但ニ供糧中信施物支分法ヲ如左

壹分、如來前ニ奉納スル  
壹分、如來前ニ獻備物トス

卷分、如來前ニ獻備物トス

三分、巡回中社員得未踏費トス

五分、供糧中該寺并社員、雜

費ニテ該寺住職ハ分與ス

者トス

右

光明社  
柳

六十九

一 本社、盟主之、慈悲、佛光、以、回教

海外、放輝、之、尊、邪教、廢、法、  
破入、在、故、名、ク、佛、法、克、明、社、之、

一 社員、常、四、威、儀、住、佛、祖、訓、誨、  
遵、奉、之、枯、淡、守、日、弊、行、諧、支、般、  
勤、行、入、之、尤、餘カ、時、晝、夜

一 供、糧、中、信、施、之、外、決、ミ、テ、勸、助、財、助、ス、  
支、但、レ、供、糧、中、信、施、物、支、分、法、ヲ、如、ク、

壹、分、如、未、前、ハ、奉、納、物、ト、  
也、ハ、如、未、前、ハ、獻、備、物、ト、

三分、巡、回、中、社、負、得、未、踏、費、ト、  
五分、供、糧、中、該、寺、并、社、負、ノ、雜、  
費、ニ、テ、該、寺、住、職、ハ、分、與、ス、  
者、ト、

右

光明社  
州

11  
359  
2

共三

甲寅年從四月到八月

廢教課戶籍課係事及簿

社查之部

第二番

共冊  
表第  
函

大正十三年  
三月三日  
三月三日  
三月三日

11  
359  
2

※ご記入いただいたお申し込みの個人情報は当館で責任をもって管理し、原簿の用意なく個人情報を開示することはありません。

のり	
分付	

光緒二十一年四月五日

明治 年 月 日 受

校合

治十七年四月五日

日參議

全

職

庶務課

戶籍掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

年八月七日

決議

谷川

任課

長

戶籍掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

年八月八日

任課

長

戶籍掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

掛

令

代理柳本

書記官

神死明細帳

西波抄郡 浦山少主打白皇名神中七多保野

明細帳 又又又 孫山中 抄有之也

西波抄郡 浦山少主 抄有之也

皇名神 皇名神 皇名神 皇名神 皇名神 皇名神 皇名神 皇名神 皇名神 皇名神

明細帳 明細帳 明細帳 明細帳 明細帳 明細帳 明細帳 明細帳 明細帳 明細帳

第二号

天御中主神

此字

子母

書田

神

神

祭神

書

今

同

同

同

丁

祭

祭神

祭神

祭神

祭

祭神書改願

西彼杵那浦上山里村

縣社皇大神宮

祭神 正殿

天照皇大御神

豐受姬大神

左座

伊邪那岐神

高皇產靈神

天御中主神

神皇產靈神

天御中主神

八

伊邪那美神

右座

經津主神

御代御代皇御壽命

健脚雷之尊神

右之通、山花為延明治十二年、差出於明細書、天御中主神、伊邪那岐神、伊邪那美神、皆是也、取禰、粗漏、付書、故於出度、一、意、後、明細書、伊邪部、卜、儀、奉、禰、之、奉、存、於、此、退、于、相、考、於、博、八、院、之、所、懸、博、島、懸、頓、奉、卜

昔稻花二分、甚、之、恐、縮、之、初、之、區、其、於、博、共、右之神、明細考、之、鳥、加、載、被、成、卜、於、奉、禰、也、願、上、也

空之太珠宮祠等

島

重道

西櫻將都浦立山里村里御

七百七卷、平氏

氏子總代高谷戈次郎

同郡同村同仰

六百七十七卷、平氏

氏子總代東清次郎

同郡同村同仰

六百七十七卷、平氏

氏子總代高谷重一

九



西彼梓郡張下里國次藤太

明治十七年三月廿五日

前書之通致司進達仕候也

白布子札之

長濱縣令石田英吉殿

有  
長濱郡下三月

明治十七年三月

西彼梓郡長濱町長濱平御  
段林社初官

小西成剛

十七  
十八  
十九  
二十  
廿一  
廿二  
廿三  
廿四  
廿五  
廿六  
廿七  
廿八  
廿九  
三十

乾

卯

辰

巳

午

未

申

酉

當 皇 聖 皇 聖 皇

之 却 大 復 神 申 卯

社 皇 大 神 宮 山 里 村

後 轉 鎮 坐 縣 社

別 日 八 分 社

十 日 轉 又 神 卯

一 日 轉 又 神 卯

一 日 轉 又 神 卯

天  
却  
中  
主  
神

一  
四  
七  
十  
一  
四  
七  
十  
一  
四  
七  
十  
一  
四  
七  
十

西  
波  
部  
與  
小  
鹿  
島

長崎縣管下肥前國浦上里村皇御宇長尾

縣社

皇大神宮

一祭神

天照皇大神  
豐受比賣大神  
大山咋神  
大座  
大物主命  
大伊弉那岐神  
大皇產靈神  
天御中主神

長崎縣令石田與吉殿

神皇產靈神  
伊耶美神  
大年羊神

健甕代御神  
經津主神  
右坐

一由緒明治二年長崎府知事澤宣嘉卿奏浦遂

々浦上山里村中野郎社殿新築皇大神宮  
ヲ勸請セシ同村中野郎家野郎本原郎  
成子トニ春秋祭典其他社奉米等官費ヲ  
以テ宛行ニ奉候処明治五年四月以奉社奉米

廢止同六年六月縣社ニ定メテ然ニ三郎氏

子十中、九餘耶穌宗ヲ信ニ故ニ神事ニ関

係ス、僅火トナリ社頭營繕祭祀等殆トカニ

及テ維持ノ方法難相立テ是同村鎮坐村社

日吉神社成子ト懇議ヲ遂テ自大神宮日

吉神社遷移ニ日吉神社、神靈ヲ合祭ニ南

後該社名ヲ廢止ニ永ク公神ト崇敬致度請

願ニ准允ヲ得テ明治七年一月當兆城ニ奉

遷ニ當社ト神ト合祀ス

二神殿 二間 拜殿 二間  
登廊下 三簡 社務所 三簡 官有地第一種

一境內坪數千八百坪  
一氏子戸數四百九於戸

第三行

此說都說也信為同類、識所修、應內以  
 此說都說也信為同類、識所修、應內以  
 此說都說也信為同類、識所修、應內以

此說都說也信為同類、識所修、應內以

此說都說也信為同類、識所修、應內以

此說都說也信為同類、識所修、應內以

明治七年四月二日 西彼探都長小農園有衛

右之通相達無之儀也

富輪廳之距離二十六下

番外

神明治之 年四月五日

明治十二年四月廿六日

明治十二年五月二日

明治十二年五月二日

令

代選北原

書記官

轉授書記官之義之付達ノ件

ノ事

田原支之部

郡三ノノ戸長役所

有之示如取寺内ノ長長大ニモ心大ニ言光

尊ヨリ申付ノ事ニモ心大ニ言光

第十四号

第廿一

長ノ事

野崎縣令石田東若敬

明治十七年三月廿七

大教正大谷光尊



皇太子李親筆監官長

甲乙佛燈之儀、其為六十年甲別紙、因之  
道、四路包、在破字、野崎縣令石田東若、本  
此、寺燈、經、之、者、可、佛、燈、之、儀、野、崎、縣、令、石、田、東、若、  
或、之、長、程、場、由、出、此、印、甲、山、岡、滿、  
之、指、令、所、持、向、之、無、一、示、所、受、理、無、之  
投、物、燈、之、此、多、其、向、而、道、者、之、經、成  
豐、波、山、段、野、崎、縣、令、石、田、東、若、也

野崎縣令石田東若

同、本、教、燈、之、儀、其、為、六、十年、甲、別、紙、因、之  
道、四、路、包、在、破、字、野、崎、縣、令、石、田、東、若、本  
此、寺、燈、經、之、者、可、佛、燈、之、儀、野、崎、縣、令、石、田、東、若、  
或、之、長、程、場、由、出、此、印、甲、山、岡、滿、  
之、指、令、所、持、向、之、無、一、示、所、受、理、無、之  
投、物、燈、之、此、多、其、向、而、道、者、之、經、成  
豐、波、山、段、野、崎、縣、令、石、田、東、若、也

(別紙寫)

甲乙轉檀ノ義ニ付願

本年御省戊第三號ヲ以御達相成候第廿號府縣ノ御  
達之義ハ只管人民ノ信教自由ヲ得セシムルノ御趣  
旨ニ有之候處往々右御達ヲ以口實トシ派内甲乙寺  
相互ニ他ノ檀徒ニ譎諛シ術策ヲ以自家ノ勸誘候者  
有之縱使甲寺ノ住職不歸依等ノ義ヲ以乙寺ノ轉檀  
依頼候共乙寺ニ於テ容易ニ致受理候時ハ忽同派内  
ニ於テ和合ヲ破リ鬪牆ノ端ヲ開キ不都合不妙候ニ  
付先般末派僧侶ノ相違置候次第モ有之候ノ共追々  
各地方ニ於テ檀家去就ニ付紛紜ヲ生シ取締向ニ差  
支候條同派内ニ於テ住職不歸依等ノ故ヲ以甲寺ノ  
檀家乙寺ノ轉檀申出候者有之節ハ甲乙寺住職ヨリ

寺  
付今般教導職  
補中  
五十三  
頁

本山或ハ寺務出張所、爲申出事實取調之上何分之  
 指圖ニ及テ候様仕度候條此段御間屆被成下度相願  
 候也

幕宗本願寺派督長

明治十一年十一月三十日 大教正大谷光尊圖

內務卿伊藤博文殿

〔朱書指合〕

書面之趣聞置候事

明治十二年二月一日 內務卿伊藤博文圖

第十廿五号

寺院明如書取可  
 加修明如書取可  
 明如書取可  
 伊藤卿  
 寺院明如書取可

書記

庶第五五一辨明治

明治七年四月廿日奉議  
 明治八年五月一日奉議  
 明治九年五月二日奉議  
 任課長  
 任課長

年月日

心者ニ付今類教導應補申

皇 第百 拾 三

教導職祭典關係之義伺

神官二三之葬儀ニ關係スルカウガル

旨十五年乙亥廿二号ノ御達相成候

處教導職ニテ祠官等ノ依頼ニ

依リ神社祭典ニ關係候義ハ差

支無之候哉此儀相同候也

明治十七年五月八日

南高来郡長大岡正制

長崎縣令石田英吉殿

百六

南高来郡長大岡正制

長寄縣下肥前國東彼杵郡大村千三百廿三畝田福田德然方同居  
同縣下同國同郡同村長安寺住職福田德然徒弟

長寄縣下平民肥前國長寄鹿諏訪町三百九拾畝田千葉

稻岡要太郎

慶應元年九月七日

種八方附籍

同縣下同國同鹿今筥町大音寺住職吉水良祐徒弟

石中舜哲

同受二年八月十五日

右之者 品行端正學解道業兼衣備  
夕ル者 二付今般教導聯試補申上

於御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候  
御願御差問之筋無之候

淨土采西部管長  
大教言養廳御走



明治十七年四月廿六日

長寄敷令右野英吉殿

保證書目

長寄敷肥前國東彼杵郡大村字三百三十三番戸福前德然方同居

平氏 稻園要太郎

慶應元年九月廿七日

右今般本宗教導職試補申付

候上、屹度終身教義我從申付

此段保證仕候也

長寄敷肥前國東彼杵郡大耶

師僧 稻中親義福田德然

同 縣同國 同郡第留村二乘番戸

九平

親戚

福田文藏

浄土宗西部管長

大教正養鷗庵定殿

長崎縣長肥前國長崎縣諏訪町三百九拾番地才兼種人有籍  
同縣下國區今發町大音寺住職吉永良祐徒弟

石中辨指

安政三年八月廿五日生

右者今般末宗教導職神申付、候、六、迄、度  
終身教義、從事、七、三、ハ、ク、此、段、保、證、仕、度、也

熊本縣肥後國天草郡河浦村信福寺住職

法類 燒中講義吉永氏砂留

明治三年十月

同縣同國郡河浦村才、格、番、地

親屬

田代龍太郎

主



丁酉 一五四五

同治十七年五月廿二日

同 一 年 六 月 二 日

同 一 年 四 月 四 日

令 代 署 官

書記官

任 保 良

周 生 輝 官

侯 建 侯

桑 心 之 印

同 心 之 印 按 查 自 年 中

司 之 數 子 等 級 試 補 以 上 之 等 級 試 補

儀 儀 以 之 等 級 試 補

但 儀 以 之 等 級 試 補

第三十四号

七 比 崇 台 不 日 京 古 愿

夏 五 三

庚 子 年

止此。不可再思。

善心即善。了空教代善。如信教。

即善文。空之。以公。如。此。也。

代埋。必。及。寺。檀。共。非。第。一。每。理。之。以。錢。之。而。為。

教。世。子。一。徒。如。或。若。信。教。謂。補。不。法。也。隨。以。以。下。

教。等。教。未。可。補。一。教。宗。內。特。曲。之。以。三。禁。業。而。法。

於。病。中。他。事。不。可。上。自。身。修。之。不。能。中。一。七。

以。縣。也。之。能。錄。兼。世。如。是。之。後。又。若。事。後。

今。般。甲。亦。世。八。乎。之。又。三。禁。業。可。所。法。至。此。

禁。後。之。後。何。

善心即善。了空教代善。如信教。

第三十卷

百七十一

明... 六月... 詔...  
 丁... 一...  
 書... 一...  
 志... 一...  
 志... 一...

九月廿日

高郵 郡長佐 野勝 出 儼



前書之通 伺出 攝間 進 盡 仕 握 也

長州縣 在 國 英 若 殿

示 義 爲 也

三 收 書 中 北 鄉 第 二 封 示 義

有 清 卷 卅

卷 卅 五 十 五

上局

南屋

今般即管內西彼村局浦上山里村說教  
場移轉係尋內務省之取仕失處即  
即聞屋相成依之奉人六月二日奉江  
七番戶之移轉付度共條別紙字相添  
出局申上失也

西彼村局長崎村十善寺御

六宗大谷派長崎說教場三張

明治十七年五月十九日

少講義本光本同陵



第四十二号

二百七

...

長崎縣令石田英吉殿

前書之通願出候間進達仕傳也  
此在辛未六月

西彼杵郡長代理

上書託國原藤丸

設教為稱轉啟

貴嶽下取亦國西彼杵郡浦上富村里宮宮寺事

真宗大卷派設教場

右看日村松岡丸居定傳度設教場設置儀  
享和十二年十二月

經之取付  
享和三年一月九日  
南司由相成廣設教場  
今

般布教  
都合言  
日君日村馬込  
三宮寺  
本寺  
甚佳  
是也

愛護  
設教場  
傳度  
共  
由  
許  
可  
社  
下  
愛  
儀  
是  
後  
由  
回  
答  
狀  
願  
添

家三果  
信  
後  
地  
代  
置  
署  
は  
春  
取  
也

長崎山下取亦國西彼杵郡浦上富村里宮宮寺事

大宮寺  
會  
設  
教  
場  
傳  
度  
共  
由  
許  
可  
社  
下  
愛  
儀  
是  
後  
由  
回  
答  
狀  
願  
添

少護家  
其  
米  
田  
後

明治元年二月六日

讀

長崎山下取亦國西彼杵郡浦上富村里宮宮寺事

小 留 身

大崎縣令石田英吉殿

前日者飛鳥之靈願出候間道建候也  
所批在廿六日

出彼杵郡長代理

与書託國派藤友

說者為十村轉做

長崎縣下肥前國從前浦上宮村里公西守支那

貞宗大谷派說教場

有看門村松園花倉定備長說教場設置係過十二年十二月亥卯

種之取付 即十三年一月九日南阿是相成所說教場無庸今

般本教 都令言口君口村馬之口三宮支那長松甚立備長

愛護助之轉付度并乘斷許社城下度係 殿後助圓善狀願添

家三美信佳時代運署 以之春取世也

長崎縣下肥前國從前浦上宮村里公西守支那

大谷宗大谷派說教場

少講義甚本田後

明治七年二月十日

三頁

大谷宗大谷派說教場

内務卿山縣有朋殿

書面願之趣旨届候事

明治十七年四月十七日 内務卿山縣有朋

竟克

陸軍省軍醫長 山縣有朋殿

信後家 内務卿

〇 陸軍省軍醫長 山縣有朋殿

〇 松葉派部

〇 陸軍省軍醫長 山縣有朋殿

〇 定山好木所

〇 陸軍省軍醫長 山縣有朋殿

〇 岩田派部

〇 陸軍省軍醫長 山縣有朋殿

〇 松葉派部

十七丁七日

深七

深七

深山日

庚子一五

三四三

Main body of handwritten Japanese text in cursive style, including characters like 深七, 山, 日, 庚, 子, 一, 五, 三, 四, 三.

第百九号

明治十七年六月廿八日

考功：  
係集者所取油  
地種  
後  
書

十七日  
七月二十日

理  
名

西  
彼  
郡  
茂  
水  
村

下

尚  
未  
郡  
茂  
水  
村  
下  
西  
彼  
郡  
茂  
水  
村

毛  
本  
有  
二  
六

派内門徒轉檀之儀之申願

奉派末寺甲乙轉檀之儀、白テハ去年七月別紙  
寫之通由務省、預立申問、立成共ニ自其旨末寺  
中、通達致立共得共中、三十二年三月内務省乙申不  
歸而達之口、或テ、ニラ本文之自續ヲ為サス直ニ戸長役  
場、届出役場ニ於テ容易ニ之ヲ被受理候ヨリ甲乙  
方檀家ニ就テ終議ヲ生シ取席方差支不鈔能  
甘尔後同派内ニ於テ轉檀致、後者、先ッ本心、為申  
立得矣、篤下、以調河分々指押、其儀、付加指令  
所持、向、限リ轉檀被派届出、採裁、其儀、前頭  
而設置、之上、其旨、而派内各郡區役所、兼、戸長役  
場、而達置、立成、立此段、相願、也

真宗大谷派管長

大教正大臣光孝

明治七年六月三十日

長崎縣令石田榮吉殿

派内門徒轉檀之儀付願

奉派末寺甲乙轉檀之儀廿六去十二年七月分紙

寫之通内務省願立即開置也成惟自庚午未可

中<sub>通連致書</sub>為共中二十年三月内務省已批字

跡<sub>通連</sub>之字下<sub>本文</sub>之字續為廿六直<sub>長</sub>後

場<sub>通連</sub>後場於<sub>交易</sub>之<sub>被受</sub>理<sub>甲乙</sub>寺

檀家去就<sub>之儀</sub>取<sub>佛方</sub>三<sub>及支</sub>不<sub>結</sub>付

屬後<sub>回</sub>於<sub>轉</sub>檀<sub>受</sub>者<sub>先</sub>本<sub>山</sub>為<sub>申</sub>之

情<sub>寧</sub>實<sub>取</sub>調<sub>何</sub>之<sub>場</sub>揮<sub>致</sub>之<sub>海</sub>右<sub>指</sub>令<sub>所</sub>

巧<sub>之</sub>向<sub>限</sub>招<sub>檀</sub>被<sub>開</sub>而<sub>後</sub>投<sub>願</sub>前<sub>願</sub>前

閣<sub>置</sub>之<sub>上</sub>其<sub>方</sub>即<sub>管</sub>內<sub>各</sub>部<sub>區</sub>後<sub>所</sub>并<sub>長</sub>後<sub>城</sub>

如<sub>連</sub>置<sub>長</sub>成<sub>被</sub>未<sub>段</sub>相<sub>願</sub>也

長崎縣令石田英吉跋

真字大谷派管長  
明治七年有三月

昨十年所為戊辰三縣之派連也成質乙卯廿第  
行物而連之儀、會、人民之信教、自  
由、乃、此、之、即、趣、意、出、此、處、遂、來、回、派  
々、於、浮、薄、輕、躁、之、徒、邊、、轉、檀、之、乞  
毛、如、中、、本、人、希、微、之、實、名、烟、之、氣  
島、之、自、標、加、心、而、色、ナ、又、動、モ、ス、ハ、如、那  
連、口、無、ニ、テ、派、内、甲、乙、有、亦、互、ハ、辨、論  
連、以、地、檀、御、儀、者、、檀、身、ニ、具、檀、  
檀、申、立、眼、者、也、於、之、テ、、檀、身、ニ、具、檀、  
時、忽、テ、派、内、知、合、又、檀、末、派、若、情、  
釀、三、秀、都、不、少、自、白、先、般、來、渡、、

明嘉靖十年正月十日 大教正山谷光勝

真宗宗山谷派管長

小波此股也願也

末寺僧等、偷遠致聖地、於者地、  
僅續櫻家言、挑、於、穡、之、起、之、  
歸、依、等、儀、以、甲、寺、櫻、家、乙、寺、轉、  
櫻、申、出、使、郎、甲、乙、寺、櫻、家、乙、寺、轉、  
路、也、張、所、為、申、之、事、矣、取、調、上、何、  
分、坊、也、及、他、極、任、及、他、邊、即、同、也、認、成、

內務卿伊藤博文殿

書面之趣、煩、置、作、事、

明治十二年、月、日、

內務卿伊藤博文印

丁酉年四月

丁酉年四月 佛施 甲子ニテハ...

八月甲子... 佛布達追加...

元之去... 葬并... 葬并...

得... 然... 當部... 那...

後宗... 孝院... 任職...

教導... 係... 葬... 儀...

葬... 係... 葬... 儀...

葬... 係... 葬... 儀...

葬... 係... 葬... 儀...

葬... 係... 葬... 儀...

三皇九...

丁酉年四月...

百廿九

本年四月 沛施

甲戌ニナハス

ラス

八月甲寅六十七日

沛布達追

加

元七去一 葬并 征 非 葬并 漢

得 大 ト ア リ 然 ル 當 郡 四 郡 種 宗

教 導 守 職 依 賴 セ ス シ テ 葬 并 漢

ル ヲ イ ラ 葬 并 漢 ヲ 名 ム

成 熟 ヲ 以 伊 出 々 右 以 行 多 級

一 然 ヲ 行 々 禮 々 指 所 於 以 長 々 少

以 序 々 何

三十一

沛布達追

明治二十七年七月十日

長崎

名能

衛生課中

長崎縣  
郡役所

明治二十七年三月十日

明治二十七年三月十日

明治二十七年三月十日

明治二十七年三月十日

明治二十七年三月十日

十月廿二日 九月

得長 五子猪掛



涼方三九

新

付南唐某白土号

Handwritten cursive text in black ink, consisting of several vertical columns of characters.

第五十三号

得長

三音

時

Vertical text on the left margin, including characters like '息' and '心'.

Handwritten text at the top of the page, including a red underlined word that appears to be "MATHS".

Handwritten text in the upper middle section of the page.

Handwritten text in the middle section of the page.

Main body of handwritten text in the middle section, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in the lower middle section of the page.

Handwritten text at the bottom of the upper page.

Lower page of the notebook, showing faint handwritten text and a large red scribble at the bottom.

# 扶桑最初禅窟

# 聖福寺

聖福寺は、建久6年(1195年)に將軍源頼朝公よりこの地を賜り、榮西禪師を開山として創建された日本最初の禪寺です。後鳥羽上皇より、日本で最初の禪寺である事を意する「扶桑最初禅窟」の勅号を賜りました。

境内は、創建当初には方八町(約900m四方)を戴き、塔頭も38院(現在は6院)を数えました。榮西禪師の没後、室町幕府の衰退と戦乱により荒廃しますが、天正15年(1587年)の太閤町割により寺域も方四町に狭められ、現在に至っております。勅使門、山門、仏殿、方丈が直線上に並んだ禅宗様式の伽藍配置をとどめる境内は国の史跡に指定されています。

榮西禪師はわが国の茶祖としても知られ、佐賀県脊振山靈仙寺の石上坊や当寺に茶種をまき、ここから京都府の梅尾や宇治にひろめたとはいわれています。

歴代の高僧のうち、江戸時代末期の檀越義梵禪師は「博多の仙厓さん」と親しまれ、洒脱に描く禅画は広く世に知られています。

## Shofuku

This first Zen temple received the assistance of Minamoto no Yoritomo. The layout remains the same. The gate, temple grounds are a traditional tea grounds. Tea ceremony is held here.

## 圣福禅寺

该寺是荣西禅师的开山之地。室町幕府衰落和战乱后，寺院荒废。天正15年(1587年)太閤町割后，寺院范围缩小为四町。现在，方丈、佛殿、山门、勅使门并排而立。禅宗样式的伽蓝配置在境内得以保留。荣西禅师的没后，室町幕府的衰落和战乱导致寺院荒废。天正15年(1587年)太閤町割后，寺院范围缩小为四町。现在，方丈、佛殿、山门、勅使门并排而立。禅宗样式的伽蓝配置在境内得以保留。

## 소후쿠지 절

1195년에 요시토모가 이 땅을 사주하였다. 이 절의 건물은 전통적인 차밭이다. 차를 따르고 차를 마시는 전통이 있다. 이 절은 1587년(정축년)에 토쿠가와 이에야스가 이 절의 범위를 4정(町)으로 좁혔다. 현재, 법당, 불전, 산문, 칙사문이 일직선에 서 있다. 선종 양식의 가람 배치가 이곳에 남아 있다.

御案内

三佛山法泉寺(浄土宗)新堂宇建立趣意

当山は元和七年(一六二一年)長崎市窠町大音寺

開天山の伝譽閣徹上人によって長崎市筑後町に創

建され、その弟子の信譽順上人が選ばれて初代

住職となり爾来二十九世の今日に至っています。

この間、昭和二十年八月九日の原子爆弾によって

堂宇・庫裡共に全焼、檀信徒分散、戦後の土地区画整

理によって境内地縮小を余儀なくされ、更に復興資

金捻出のため一部土地を分譲して復興に努め、当時

としては一応の寺院を再建したものでありますが、

以来三十有余年建物も老朽化し、檀信徒の増加、地

理的問題等々から、昭和五十七年が戦後の復興に全

力を傾けた先代二十八世玉連社榮譽上人の三十三

回忌の因縁の年に当り、この地浦上の丘三原町の新

天地に新堂宇を建立し遷座したものであります。

本尊 阿弥陀如来

合掌

昭和五十八年一月

法類總代 三五寺 三原寺  
青任役所 野田精一郎  
小田憲司 竹内憲幸  
森崎健之

月影のいたらぬ里はなけれど  
ながむる人の心にぞすむ

明治十九年一月十三日  
課長 戸籍掛  
主任 谷本 副 十 小 尾

第九二四

會所之件

鳥第 教會所之件  
山第 教會所之件  
魂ノ廉アハニ付取換ノ義  
了石ハ今更取換ノ義  
又記入致置候所了  
進候也  
知初成度此段申

一月十三日

課長 谷本

三十一

南高來郡役所宛

明治十九年一月十三日  
課長 戸籍掛  
主役 谷川 小尾

第九二

鳥第 散會 所之件  
山第 號 以 裏 御進 有 念 漏  
了 右 今 更 取 換 義 御 照 會 之 趣 承  
又 記 入 致 置 候 所 了 知 相 成 度 此 段 申  
進 候 也

十九年 一月十三日 課長 爲

三日 南 高 來 郡 役 所 宛



自島...

教會所...

嘉年一月島... 更之別表古... 此以...

但本文之通... 本月...

明... 別之... 此...

南...

長...

廣...

南高郡所



明治十九年一月七日

課長

尹 精 圭



主任 谷川十等 属

庶務一之三三 令り不招

散會 所移 轉届ノ件

右即進達相或候処 昨一月島才廿二号了了

所差出人説放所調表三不相見全夕漏度

也之毛ノ九ヤ急之即調越有之度此段及所

獎會候也

月日

課 為

南島來郡役所中

明治十七年三月三十日現在  
 肥前國南高来郡  
 港町  
 口ノ濱村  
 山田村  
 南串山村  
 多比良村  
 南有馬村

明治十七年三月三十日現在

名

称

國

郡

町

村

名

蓮宗浸不流

教會所

肥前國南高来郡

港町

日蓮宗

説教所

左上

口ノ濱村

日蓮宗

説教所

左上

山田村

日蓮宗

説教所

左上

南串山村

日蓮宗

説教所

左上

多比良村

宗派取調中

教務所

左上

南有馬村

南有馬即又行山

課

南高來郡 教會所 傳道所 一 處 一 處

明治十七年三月三十日現在

名	稱	國	郡	町名
暹宗不受不禮	教會所	肥前國	南高來郡	湊町
日蓮宗	說教所	佐上		口ノ濱村
日蓮宗	說教所	佐上		山田村
日蓮宗	說教所	佐上		南串山村
日蓮宗	說教所	佐上		多比良村
宗派未調中	教務所	佐上		南有馬村

南高來郡 傳道所

課 送

明治十九年一月七日

課長

戸籍掛



主任谷川十等属



此月一三日、今日不招

散會 所移 轉届ノ件

右即進達相或候処、昨一月島才廿二号、子

即居出入説、敢所調表、不相見、全夕漏、度、此段及、

爽會候也

年 月 日

課長

南島來郡役所中

教會所移轉御届

一本派是迄南高來郡湊町六百八拾三番戸。以テ教會所下仕居候得共今般島原村七百四拾三番米田藤四郎所有之地西間梁折行六間瓦菅ニ建立移轉仕候付此段御届申上候也

明治十六年十二月廿日

長崎縣下肥前國南高來郡港町六百十三番地  
日蓮宗不受不施派妙覺寺教會所寄届

二葉寺中座八重光日壽司  
右日界七百番地平民  
古地主

米田藤四郎

日界四百九十三番地平民  
信徒惣代

梅本仁平

湊町

戸長

木林水大太郎

教會日所移轉御届

一本派是迄南高來郡湊町六百八拾三番戸ヲ以テ教會日所  
仕居候得共今般島原村七千七百四拾三番米田藤四郎所  
有之地西間梁折行六間瓦葺ニ建立移轉仕候ニ付此段  
御届申上候也

明治十六年十二月廿八日

長寄縣下肥前國南高來郡港町六百十三番地  
日蓮宗不受不施派妙覺寺教會日所寄留

二寄中座金光日壽  
右日界七百番地平民  
古地主

米田藤四郎

日界四百九十三番地平民  
信徒惣代

梅本仁平

湊界

戸長

水林本大六郎

往一

記

号

目一十九

一本派是迄南高來郡湊町六  
 仕居候得共今般島原村七千  
 有之地西間梁拵行六間瓦營  
 御田申上候也

明治十八年十二月廿八日

長安可縣下肥  
 日蓮宗不受

右月  
 右日

島原村

戸長

香田西安太郎

島原村  
戸長  
香田西安

長寄縣令石田英吉殿

前書曰之通 届出 水官 進達仕 水也

十六年十二月廿八日

南高來郡長遠近武則

南高來  
遠近武則

島原村

戸長

香田西安太郎

島原村  
西安太郎  
香田

長寄縣令石田英吉殿

前書曰之通 届出 此方 進達仕 此也

十六年十二月廿六日

南高來郡長遠近武則

南高來郡  
遠近武則

卷之三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

光一柱



譯



全

唐高宗皇帝 唐高宗皇帝



神道... 乃... 神道... 乃... 神道... 乃...

書... 乃... 書... 乃... 書... 乃...

中... 乃... 中... 乃... 中... 乃... 中... 乃...



飛  
三  
三  
三

九  
一  
七  
五

大

三  
三  
三

譯  
行

神  
之  
道  
也  
何  
可  
不  
知

明治 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受

九月五日  
九月五日  
九月五日  
九月五日  
九月五日  
九月五日  
九月五日  
九月五日

月 日 時  
月 日 時  
月 日 時  
月 日 時  
月 日 時  
月 日 時  
月 日 時  
月 日 時

知事 西澤 留

第一部 殿

庶務課長  
庶務課長  
庶務課長

庶務課主任  
庭岡橋謹

神宮教管長 田中 賴庸  
皇太神宮 大 麻 井

替 領 布 之 義 軍 護 佑 之 件  
右 者 別 紙 之 由 依 狀 來 り 審 査 せ ば 一 律 替 領 之 如 意  
早 者 一 録 入 可 力 申 上 者 十 六 日 令 保 護 加 之 事  
領 布 方 不 行 届 之 裁 有 之 間 故 且 皇 太 神 宮 大

麻 井 義 軍 宗 信 徒 外 他 族 交 渉 及 び 其 他 之 事 有 之 者  
本 路 之 於 二 部 上 保 護 加 之 事 及 び 其 他 之 事 有 之 者

老成既歿  
文於  
二  
置  
於  
平  
一  
均  
水

長  
山  
學

五  
十  
月  
二  
日

卷  
一

明治十九年十月二日  
度  
四  
〇  
六  
号

甲第五十七号

皇大神宮大麻并曆領布ノ儀例年々通  
来ル十一月ヨリ着手仕矣ニ付御管下一般  
配授方行届矣様御保護被成下度共段  
御依頼仕矣也

明治十九年十月廿二日

神宮教管長田中頼庸



長崎縣知事日下義雄殿



且つらるる交成らるるに於て得末多端  
向に其の生をまじりて熱をかうらふに  
一より其の向に死しきも其の色の除け  
まじりて成る

少ね神のつた他更神一五物代去し  
神行りの子今并三江より新出  
ありし也年一四の七の付りて  
し熱をまじりて死れれは天の言に  
神の眼目より其の年の之れ得るに  
本をまじりて多端に於て其の  
ありし也年一四の七の付りて



ありし也年一四の七の付りて  
し熱をまじりて死れれは天の言に  
神の眼目より其の年の之れ得るに  
本をまじりて多端に於て其の  
ありし也年一四の七の付りて



永き寺の御座り

釋一守笑

寺々もし取行定妙心寺派長  
也  
也

年〇〇〇

長行

第一行

小松法師

住職任免御居

住職任免御居

濟管下肥前國北松浦郡生月村永光寺住職生月滿  
涉今般依預任職差免京都府山城國葛野郡花園  
村水月院徒第釋守賢二右永光寺住職申付此系  
世段及所届候也

臨濟宗妙心寺派管長

關無學

妙心寺派管長關無學

明治十九年六月二十一日

長崎縣今日下義雄殿

京都府

妙心寺

八五二五七



東彼林郡役所

長崎

二

五

九

四

月

廿

村士司掌許可付届

事  
長

八  
五二五七

長

二

五

九

四

〇

村社祠掌許可付届

東彼梓郡川柳村又百四番戸士族

川寄未吉

右本郡川柳村社八幡神社初掌川寄於三郎

儀明治十七年六月十日辭職跡欠負ノ処合

般同人儀本縣皇典講究分所ノ後掌証相添

一初掌勤務ノ儀願出ノ則許可可也

此致長届仕也

十九年八月十八日 長代理

東彼梓郡書記小島井孫



長寄縣知事日下義雄殿

三三三

東彼梓郡役所

明治 年 月 日 受  
元 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受

明治 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受  
同 年 月 日 受

知事代選留

第一部 庶務課長

庶務課長  
庶務課長  
庶務課長

庶務課主任  
庭岡橋謹

神宮教管長 田中頼庸より 皇太神宮大麻并

替領布 之義 軍護本狀之件

右名 別致三由り 依狀来り 審要るに 奉替之如き

是等 領布 可力らるる 者 十六 別令 保護之加ふ

領布 方不行 屋の敷の 有之 間敷 且つ 皇太神宮大

麻 義も 皇宗 信徒 外 無 後之 変り べし 別之

本路 之 於 三 能 即 上 保護 之 加ふる 及 べし 有 様者



二 是 是 是 今 一 一 美 吉 二 二

左 氏 經 狀 之 文 據 二 証 一 置 之 於 年 一 均 之 文

長 以 甲

*[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]*

度 收 券 四 〇 六 号 交

七年七月七日

在江權中傷

令

協議

身亦幸區戶長內書少希三別紙三通了由去事  
廣元之九字江孫系元之通了由去事  
為者能取取也

亦區系

其區內異宗徒自蘇云之身届去之起事  
情志之在寫口族名之何分之是遠之  
可存於系其旨之心得之申也

号

系

七年 七月七日

在江權中傷

會

協議

弟亦妻區戶長為害多事三別紙通了田去事  
廣元之九字江移系九之角今防達望也其來也其  
為者能能也其也

弟達其來

其區內異宗徒自葬云々身届去々起事  
情云々其寫自族名云々伺云々何分云々達云々  
可存其系其旨其心得云々申其也

一

三三 寄 系

長山縣

七年十月

長崎縣

系亦立土區戶長

後涼早治儀本月十六日致死去由  
 得共因甘百之石屆出三付家親者之友  
 穿數全為慶子紙達事者指出中心且又系  
 徒中隨教子葬由之其可各宗宗宗  
 已出所向也之身一遠倒之廣子衣  
 相商多之日誰相刺設葬式名式  
 之者亦百一山頭小如相教名名申  
 半及百書付一指出採中  
 本人之五刻子紙下由書者指出名百與  
 什名子也也

二

長清縣令宮川房之殿

身北五丈區元名

内山吉次郎

親更以候持病之時其志云十六日  
死去能其知神儒佛之道其  
切支丹宗法之山即小脚は乃道  
中其此能佛屋中其也

明治七年  
四月廿五日

長崎府長崎支庁三上郡  
宮田村或為村長

藤澤喜吉郎



長崎縣令

宮田或為村長

右之通届出  
明治七年六月廿二日

長崎支庁長

由山吉次郎

外務省

明治二十二年二月二十六日受口月〇日  
十年七月六日決八月七日行

主任

子丹

令



記官

少  
外務省  
係

外務省人止お事ぬし  
い少なるおまの  
長りつるおぬし  
り知杖下よも  
白たおまの  
方伺おぬし

二日ノ...

...

...



明治十年二月廿五日

外國人平家官止篇布教論

吾亦係何伺

本月廿四日可丑自卯至五月廿七區二區南有馬

村七百三拾九者地字民小田庄吉方西洋人止篇

外教說論致在路傳聞致在長月時可丑自

卯至五月廿七區二區南有馬

迎傳之人良多入教拒集布教法在右方我

日本政府、高許可、諸、布教、為、迎、致、

亦係、致、日、官、許、子、清、九、字、家、官、外、國、人、

止篇、致、多人、教、拒、集、致、

亦、右、止、事、件、

亦七八區二區北有馬村真藏寺住職

明治十年二月廿六日

試補之花祐敬

牙七大區二小區南有馬村常光寺住職

試補 園城雲篋



同大區三小區北有馬村願心寺住職

權訓導 鈴木信法



同大區二小區南有馬村神道教道守職

權訓導 小宮常 般石



同大區三小區北有馬村春日神社祠守

訓導 吉田一人



長岡縣大書記官河津正芳殿

牙七區二區南有馬村常光寺住職

試補 園城雲鑑



同大區三區北有馬村願心寺住職

權刻導 鈴木信法



同大區二區南有馬村神道教導職

權刻導 小宮常 般石



同大區三區北有馬村春日神社祠掌

訓導 吉田一人



長崎縣大書記官河内正方殿

外國人石橋の事ハ條子序布を造モ有るに  
中月古良ノ外玉人走之儀ニ少色有る村や園庭  
小田古良者方ヲ持シ来々之種ニテ昔日別カ  
之鏡徹云内指遺用ニテ之而之出也  
之儀也之免状相改ムル等而地也  
口信湯活次ノ地之方信儀ト記載之  
材ノ位重ハ信儀ニシテ信儀ノ活次ニ  
畢事是也之種ノ部分ニシテ見  
致方相違ニ重ク之信儀ニシテ  
承中ノ信儀同日平儀者十一所  
外玉人投宿ノ方何出ル  
可為年也莫ニテ免状持来  
七

申遣至りて、此中より、  
相向う極極相好なり、  
任仕り、  
他何仕者、  
投寄り、  
為習事、  
所系、  
事、  
相成、  
次、  
事、  
下、

東七火尾

四ノ十年十ノ先ノ方

戸長高橋重紀



長崎縣大宰記書院の月直方殿

四一二七五

外國人平家占 止宿布教迄

居教係分伺

本月廿四日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日 廿九日 三十日

南有馬村七百之拾九番地 平氏小田二庄言方 西洋

人止宿外教 說論迄 執傳同迄 我二分

此本月廿五日 抄 小田二庄 就同迄 該所占

一其是是 就宿之人 良多人 教招集布教

就居教 右天 就日 中政府 御許可 諸

布教 者 迎行 迄 我係 我係 且官 許可 諸

此平家 外國人 止宿 為迄 多人 數招集 迄

故而 我係 我係 我係 我係 我係 我係 我係

相公 傳 迄 迄 迄 迄 迄 迄 迄

明治十年 十一月廿五日

九

第七大區三小區廿首馬村真藏寺住職

試補 立花祐敬

同大區三小區南五馬村常光寺住職

試補 園博雲鑑

同大區三小區北首馬村願心寺住職

權訓導 鈴木信法

同大區三小區南首馬村神道教道寺職

權訓導 小島常磐

同大區三小區北首馬村春日神社祠長

訓導 吉田一人

長崎縣十書記官河内正方殿



外國人有扱、價ハ廉テ洋布達モ有、  
本日本江方、外國人モ名二小色、  
名小田、店者方、持、  
高指、鏡、  
其出、  
酌系、  
活次、  
退去、  
何色、  
店者、  
上、

十

寄主に云ふ申遣はるるは先におもひたすに  
力多村前<sup>ニ</sup>相田の種取ありて思ふに後子も思ふ  
宗屯<sup>ニ</sup>通<sup>ル</sup>行<sup>ハ</sup>供<sup>ハ</sup>央<sup>ハ</sup>半<sup>ハ</sup>後<sup>ハ</sup>才<sup>ハ</sup>三<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>果<sup>ハ</sup>シ<sup>テ</sup>本<sup>ハ</sup>志<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>  
七<sup>モ</sup>之<sup>方</sup>能<sup>細</sup>供<sup>者</sup>の<sup>心</sup>定<sup>テ</sup>寄<sup>主</sup>の<sup>意</sup>出<sup>陣</sup>可<sup>ク</sup>上  
云<sup>ハ</sup>能<sup>投</sup>寄<sup>主</sup>の<sup>意</sup>可<sup>ク</sup>上<sup>ニ</sup>思<sup>ハ</sup>像<sup>供</sup>の<sup>先</sup>を<sup>賜</sup>合  
於<sup>テ</sup>は<sup>思</sup>智<sup>不</sup>の<sup>見</sup>然<sup>ニ</sup>相<sup>送</sup>供<sup>者</sup>の<sup>心</sup>也<sup>而</sup>其<sup>合</sup>  
是<sup>ハ</sup>不<sup>得</sup>系<sup>學</sup>の<sup>系</sup>不<sup>得</sup>中<sup>ニ</sup>之<sup>心</sup>承<sup>リ</sup>申<sup>ハ</sup>能<sup>合</sup>今  
般<sup>方</sup>書<sup>ハ</sup>の<sup>心</sup>何<sup>也</sup>右<sup>ハ</sup>官<sup>評</sup>才<sup>ハ</sup>信<sup>ニ</sup>テ<sup>右</sup>極<sup>ニ</sup>  
不<sup>業</sup>不<sup>相</sup>成<sup>ス</sup>の<sup>心</sup>佛<sup>ト</sup>事<sup>存</sup>の<sup>心</sup>先<sup>ハ</sup>自<sup>然</sup>先<sup>ハ</sup>状<sup>不</sup>  
物<sup>ハ</sup>未<sup>ダ</sup>活<sup>次</sup>止<sup>寄</sup>申<sup>ハ</sup>の<sup>心</sup>人<sup>投</sup>招<sup>集</sup>出<sup>仕</sup>の<sup>心</sup>而<sup>金</sup>振  
物<sup>ハ</sup>先<sup>ハ</sup>於<sup>テ</sup>モ<sup>業</sup>テ<sup>相</sup>心<sup>得</sup>居<sup>中</sup>を<sup>則</sup>進<sup>遣</sup>供<sup>者</sup>の<sup>心</sup>  
指令<sup>ハ</sup>能<sup>成</sup>り<sup>の</sup>心<sup>不</sup>得<sup>ハ</sup>其<sup>心</sup>也<sup>仕</sup>也

第七火區

四十年十一月九日

戶長高橋重經



長河縣大正書記官河内重方殿

15

長海縣文書院河善書院

四十年十一月

尹長高翰呈



東七火高

高生一夫... 遺... 西... 呈... 呈... 呈...  
 有... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 存... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 世... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 云... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 於... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 具... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 設... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 而... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 功... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 物... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...  
 揚... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈... 呈...

外教

明治十二年五月十日受の月十日、巡議

十年五月十日決十二月十日行

主任三原三幸為

委任物

第一課

三原三幸の物、減り多き、物成、米、肉、左、右、他、  
る、あ、る、る、地、一、片、肉、保、る、出、面、  
九、千、二、通、第、二、三、課、へ、成、引、渡、地、二、

第一十五方、已、浦、上、村、米、由、左、右、其、他、者、  
る、る、る、先、年、田、方、村、之、保、者、地、代、金、  
二、通、の、功、地、代、金、の、保、者、列、成、九、千、  
二、通、の、功、地、代、金、の、保、者、列、成、九、千、  
三、通、の、功、地、代、金、の、保、者、列、成、九、千、

十三

三原三幸

不ありが太事伴し一原内系本等道  
之事は流る本ハナ考一社等子以向  
々決首ハ人回等し方ハ以し本課  
之無く田考宗法流内係あり考一社  
通り西側ハ身光四太村ハ清らり  
徒流るハ伴し考一社ハ一社ハ  
七段中ハ自置ハ案方以内考一社ハ  
考一社ハ流る考一社ハ流る考一社ハ  
内流る考一社ハ流る考一社ハ流る  
考一社ハ流る考一社ハ流る考一社ハ

十二月

廿九日

第ニ評少

第十一課 六區一少道浦之村 本其内 六十  
 其他 土地 念下 个 俊 子 子 子  
 三 戸 長 月 進 産 戸 夫 処 在  
 者 地 戸 内 係 事 任 在 其 一 原 由 系  
 是 否 否 事 情 了 於 本 課 以 系 其 否  
 上 可 也 上 存 案 个 以 子 要 詳 細  
 出 示 否 否 否 以 是 否 否 否 否  
 三月 考

第二課  
 第三課

第一課

長嶺縣  
 第一課

成

十四

長崎系



四

一

十

長崎藩御用書

平井良

長崎藩御用書  
長崎藩御用書

長崎藩

土月、日受日月廿一日稟  
月 日決三月十九日行

主任 七等 廣畑島深次

書記官

才之課

第一天区ヨリ整書講致之レ何出上成リ元教  
部者少何レ其四指令其物成付其御事狭  
お係面成ト通事何レ其レ舊人云云ホ自許  
之發發行お清致、致リ以テ名ホ有下お本  
お消之妙成何レ使儀テ今云然者極リ揚  
形、之何有極リ以テ指令今之其成以有、其  
何成也

二所才四十八百九十七

書面聖書講致之儀ハ其節志

長

十五 長崎系



抜合ノ旨を看み難同為部村家生名  
寺人比倫遊この銭事

十字チリ  
音由孫大書記友河内製方

九年七月廿一日

海島高老仕

令

第一課

参考事

權参考事

聖書讀取し、如何なる方なり、其区、如何なる  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

書面聖書講義用場、如何なる  
早之是、傳入、用、來、心、得、遠、無、く、様、可、申、  
付、事、

九年七月

長崎夜合北島より

十六  
長崎  
系

七月十九日  
何甲第四番  
一七九二二番  
閱

聖書講義御處分ノ儀ニ付伺

當縣第一大区三小区酒屋町五百九十  
五番地寄出福岡縣第七大区金谷町士  
旗瀬川淺儀安息日聖書講義ト申看板  
ヲ掲ケ過日ヨリ聖書耶蘇原由講義致居候  
尤當港居出地ニ於テ外國人堂舎ヲ設  
ケ耶蘇說教致居候ヲ内國人聽聞ノ内  
ハ各自隨意ニ致置候得共内國人ニテ  
右様看板ヲ掲ケ講義致候内モ其係差  
置不苦候哉至急何分ノ御指令相成度  
此成相同候也

明治九年六月三十日

十四百八号  
七月六日  
十七  
長  
系

縣令北嶋秀朝代理

長寄縣參事渡邊徹



教部大輔定戶璣殿

伺之趣難聞  
屆筋二候條心得  
違無之樣可為致事

明治九年七月十八日



九年六月廿九日

三十一日

初島高志七仕

令

第一課

参考事

権矣事

亦一太区所屋所高向福同森火倉澁川浅  
 侯聖書儀義ノ者候ノ揚々耶上種  
 儀及所所居秋付々、別成道防区  
 ヲリ何出取徳々如外教ノ儀付々ハ  
 事又ノ般以事所々無之事故左按教  
 部者ハ、以何所来才、然亦ハ、以何也

聖書講義此处分ノ儀付向

寺縣一太区三カ区酒屋町五百九十五番地  
 前福同森火倉七太区金谷町士後澁川浅侯

十八

高

系

安息日聖書講義ト申看板リ掲ケ過

日ヨリ聖書那那獲獲講義致居候を當港

居内地於之昨年來日外國人堂堂令リ設ケ

那獲説教致我付内國人聽耳

向ハ各自造意候若若講義ハ

淺代用始候何何也也

事事至急何分分ノノ指令指令也也

相伺候也

縣令此鳥鳥秀秀朝朝公公理

九年六月

長安縣縣身身後後増増徴

教部大輔完完戸戸城城殿

伺之趣難耳而筋筋候候心心得得也

九年六月

長安縣丞李汝增

教部大補完戶瑛啟

伺之趣難耳南筋之候孝心得善

無之福可為致事

明倫九年七月十八日

教部大補完戶瑛之印

本内ハ六宮迄ニテ福赤ノ者有之依テ指合ニ示及敷也云々  
運為之 第千八六區 志願村 増田 御平 氏

中村 福次郎

本林 友作

中村 宗次郎

合 事次郎

合 吉次郎

合 苗次郎

合 新次郎

右ノ五名者皆神佛ヲニ依テ更ニ西洋ヨリ至リテ天主教

ヲ奉ルシ者ナリ幸テ年々ニ自止ルル類ヲ以テ由書指當テ有

聖ノ正カヨリ所ホ出テ居ルニ在ル者ニ至リテ其ノ在リテ教

ヲ信シ依テ理由信向シテ多ク其ノ由書指當テ有テハ

其ノ利徳無クテ他得テハ之ヲ賜自シテ以テ之ニ歩ム也  
五 聖

本内ハ官道ニ中流ノ方有之依テ指令ニ示及敷事有之

延和ノ大區是瀬村増田御平氏

知事

中村福次郎

本林友作

中村善次郎

吉次郎

吉次郎

吉次郎

本内ハ其官並ニ中福亦ノ者有之依テ指令  
是違者之

第千八百九十八番通志瀬村

知

知

示人者有之依之指今之不及殿中皇之

大區是美瀬村 埴田御平氏

小倉

中村福次郎

本林 十女作

中村為宗次郎

右之古者神佛之應更之西

之孝年之古者孝丁年之自止日之類

之之古者回所亦出張之右之右之古者

之信之他理由信向法之之信之

其之利德無之他得之之夜贈自計

五

二四

全 田次節

全 新支節

應更西洋以之至乃元王教

自世自少類可以了由書者括出共奇

此右在右右之右有右右昭與右右得教

法多多之修考甲出限在之於了八

下下下贈自隨隨似也六出人

二四

收據...









三月六日受三月六日  
月日決 月日行

主任

石河...

令

書記官

中

了課

再持三四...

外教之務...

市邦佛宗...

之務...

海...

海...

市邦...

自由...

外...

民間...

号

美 崎 系



明治十一年三月四日

宗旨之儀ニ付伺

從前佛道宗旨ニ有之候者更ニ天主教等ノ外教宗門  
ニ轉入致度旨申出有之候砌懇諭致候テモ聞入不申  
強テ願出候ニ於テハ如何仕候テ可然哉固リ信教自由思  
想ノ抑制ニ難ク候ハ勿論ニ候ト雖モ未タ公許不有之外教  
宗ニ候ハ今日ノ事相上ニ於テ關係無之ニ非スト奉存候  
就テハ異儀ナク承認書差出候モ如何ト奉存候猶又神  
官僧侶教導職ノ外ニ葬式致候者有之ニ於テ其儘難  
差置儀ト奉存候右差當リ心得置度奉存候至急何  
分之而指令被成下度此段奉伺候也

第一大區八小區十善寺郷七百八番地

明治十一年三月四日

真宗東派説教場事務係

藤溪圓陵

外務省

度良の深  
外務課

昨より指押し仰り、御成元斗方尺し包下付  
と申せし也

昨より後出に即尺年心より演説にて即尺  
即尺記ヲ大浦尺長尺所、可成し埋葬方  
可部合十十扱而尺、後七尺尺にハ、  
尺ニコルス尺長方、本尺可成尺、其尺大  
浦耶ニ蘇寺ニ、其尺、埋葬之尺ハ  
大尺、尺ハ、尺トノ若、其尺、尺

七

二九

尺

小七(四)より先申即長評公(一)の(二)コルス方ハ  
外務部(一)に(二)至(三)り(四)て(五)本(六)人(七)戸(八)長(九)役(十)所  
あり(一)て(二)様(三)家(四)ハ(五)念(六)り(七)き(八)以(九)て(十)其(一)次(二)世(三)界(四)ハ(五)少(六)ク  
ク(七)シ

八月廿二日 朝



外務 深

庶務 深

本々年ある香港在爾末國領事より本庶封封  
 書曰國ボリス書庶、持免しく必左書状ハ拉疫事  
 務所、持免しく左庶方方之地よりノ持揮、何ノ持  
 免しく方方之七面之出之る曰所委免ノ於之封  
 免閣スルニ 肺病、同罹ノ死者 日本婦人、  
口國人、  
力 病後之  
 解割ヲ請フトノ免之 由ニ台更、  
也 右南ハ解  
 免、持免之なる曰所より中、如總氏、持揮不  
 免之ヲ以テ 右ボリス其後川元ハ上逃ハ免之  
 免之ハ免之 免之 免之

八月十三日 外務 初次トは電印ノ中出トは電印ノ中出  
 十三日 三十一日 寄 録

明治四年四月十五日  
大正元年七月十七日  
河合子平書

書記官

彦野海

彦野海

彦野海

彦野海

彦野海

彦野海

彦野海

彦野海

36

八日

三二

彦野海



正安五年七月

耶蘇教、轉宗し候に付、  
耶蘇教の序儀に轉宗居出共、  
之者ハ外宗のト同一ニ見候に  
付、其の儀に同ア共、

西元十二年一月二日

長崎出立船田入 左衛門

長崎縣令 海忠勝殿

東  
松浦郡長  
古川龍長殿

馬渡急戸長

丹

野多文治

長  
山  
區  
行  
所

教場新管願

馬度多山内新村ト區別候人民ハ悉皆  
那之復宗ニテ亦門地方古ノ度教場無之  
長崎一寺ヨリ古ノ傳出候義毛度ニ  
有之旁不都合ノ譯ヲ以テ誤宗限入費  
相償左ノ見積金ヲ以テ新管仕度ノ  
被メ免被下度及改段奉願候也

明治二十二年十月六日

誤宗人民總代

牧山定四郎



九号

全

三五

牧山元輔



印取是右定四郎代印

39

防奉 聖條也

民總代

救山定四節



救山元

輔



印放是左右定四節印

五

39

教場新營願

馬渡多山、内新村卜區、別候人民、以志此皆  
那之復、宗三宗門、起方古、度教場無之、以者  
長崎、平寺ヨリ、七五、係出候義、无度、以  
有之、旁不都合ノ、譯、ヲ以、譯、宗、限、入、費、以  
相償、左ノ、見、積、金、ヲ、以、新、營、仕、度、ノ、系  
被、メ、免、被、下、度、及、改、段、奉、願、候、也

明治十二年十月廿日

譯、宗、人民、總、代

牧山定四郎



全

牧山元輔



九号

表

三十七間

真行五間半

表

三十七間

表

一金百八拾圓  
一建設地

一奇附人山系内人考皆之數割

特立

及山留藏

但六米知四米廿六步

七百廿四番  
七百廿五番

合  
此筆

新嘗代價并建設地繪圖面九調

三六

40

右ノ通ル是候也

右ノ通ルル候也

往第七と九号

河治 所一也

東卯三二九年

神傳院の所、仰

右迄教の所現聖表也月十日の在也  
六の多子に以て進進多心後表の内宛  
福の儀有之る台も表卜清り換、お  
成之儀成候乃、血之全也

此先々二五二七七しは後表の以る者清り也

十八年丁酉也

十七年御拜都江所

長流新元庶和學得

以中

東 波  
長 流

明治十七年三月三十日現在

名

稱

國

郡

所村

名

神道黑住派說教所

肥前國東彼杵郡

竹松村

真宗大谷派說教所

全國全郡

川棚村

真宗大谷派說教文場

全國全郡

下波佐見村

真宗大谷派說教文場

全國全郡

上波佐見村

宗制

日蓮宗不受不施派五章三十三箇之條規御認可願

第一條

在昔佛ノ世ニ應現スルニ方テヤ人咸ナ外道ヲ信  
シ深ク邪見ニ執ス佛此ノ倒惑ヲ憐ミ說法教化シ  
以テ人人本具ノ佛知見ヲ開カシメント欲ス然ル  
ニ機緣未ダ調熟セザル輒ク其本懷ヲ説ク可カラ  
ズ是ヲ以テ四十餘年ノ間徐ニ頓漸ノ化ヲ施シテ  
以テ衆生ヲ誘導ス故ニ法華ノ序分無量義經ニ云  
ク四十餘年未顯眞實ト其根機既ニ調熟スルヤ靈  
鷲山ニ於テ八今年間其本懷ヲ説給フ之ヲ妙法蓮  
華經ト云フ經曰世尊法久後要當説眞實乃至正直  
捨方便但説無上道又曰已今當説最爲第一ト蓋シ  
佛自ラ此經ヲ以テ終窮究竟ノ極説ト定ムルモノ

ナリ又法華經ニ本迹二門アリ佛其本門ヲ以テ之  
ヲ本化ノ大士ニ付屬シテ遙ニ末法ノ群類ヲ救ハ  
シム我宗祖ノ我宗ヲ開ク實ニ佛滅後二千二百二  
十餘年則末法ノ初二於テ其本門壽量ノ法體ヲ宣  
揚シ大ニ順逆二緣ノ衆生ヲ化益ス是レ全ク鷲峯  
ノ顧命ヲ果ス者ナリ經曰爲屬累故說此經功德猶  
不能盡以要言之如來一切所有之法如來一切自在  
神力如來一切祕要之藏如來一切甚深之事皆於此  
經宣示顯說ト宗祖之ヲ釋シテ云ク夫レ釋尊成道  
ノ初ヨリ四味三教乃至法華經ノ廣開三顯一ノ席  
ヲ立テ畧開近顯遠ヲ說セ給ヒシ涌出品マデ秘セ  
サセ給ヒシ所ノ實成當初證得シ給ヒシ壽量品ノ  
本尊ト戒壇ト題目ノ五字也此三大祕法ハ二千餘  
年ノ當初地涌千界ノ上首トシテ目蓮慥ニ自教主  
大覺世尊口決相承セシ也今日蓮ガ時ニ感ジテ此



飲食禁止  
No eating or drinking

法門廣宣流布スル也乃至此ノ功德ハ傳教天台ニモ  
 コヘ龍樹迦葉ニモスケレタリ極樂百年ノ修行ハ  
 穢土一日ノ功ニ及ハズ正像二千年ノ弘通ハ末法  
 ノ一時ニ劣ルカ此偏ニ日蓮ガ智ノカシコキニハ  
 アラズ時ノシカラシムル耳ト夫レ人苟モ此身ニ  
 妙法ノ大曼荼羅ヲ持チ心ニ妙法ノ大曼荼羅ヲ念  
 シ口ニ妙法ノ大曼荼羅ヲ唱ヘ念念以テ本門壽量  
 ノ事觀ニ安住シ則自己ノ全躰ヲ以テ直ニ法界久  
 遠ノ本佛ナリト信シ其四威儀ノ動作ヲ以テ直ニ  
 法界久遠ノ戒壇ナリト信シ其言語音聲ヲ以テ直  
 ニ法界久遠ノ題目ナリト信シ此ノ信ノ一字ヲ以  
 テ無始ノ謗罪ヲ除去シ元品ノ無明ヲ斷破スルヤ  
 忽チ無作本有ノ覺躰ヲ證シ三觀三諦卽一心ニ顯  
 ハル斯之ヲ本門壽量ノ當體蓮華佛ト云故ニ宗祖  
 之ヲ贊云我等末法濁世ニ於テ生チ南閻浮提大日

二  
 三  
 目重宗不受辰

本國ニウケ忝モ諸佛出世ノ本懷タル南無妙法蓮  
華經チ口ニ唱ヘ心ニ信シ身ニ持ツ事是偏ニ過去  
ノ宿習ナル歟乃至不行ニ一步見天竺ノ靈鷲山本有ノ  
寂光土ヘ晝夜ニ往復セシ云抑立宗大意ノ如キハ  
一紙半箋ノ能ク盡ス所ニアラザレバ今聊カ畧述  
スル者ナリ

### 分派起原ノ沿革

## 第二條

宗祖日蓮滅後其徒分テ二派トナル所謂一致勝劣  
是ナリ其後一致派又分レテ二派トナル其一ハ今  
日蓮宗ト單稱スルモノ即受不施ノ流ニシテ本滿  
寺日重ヲ以テ派祖トナス其一ハ即本派ニシテ妙  
覺寺日奥ヲ以テ派祖トナス蓋シ不受不施ハ日蓮  
一宗ノ通規ニノ所謂法華一經三處ノ文ニ據テ不  
受ノ制ヲ立テ涅槃經ノ文ニ據テ不施ノ制ヲ立ツ

依之日蓮滅後三百十三年則後陽成天皇文祿四年

ニ至ルマテ一致勝劣ニ論ナク苟モ日蓮ヲ宗トス

ル者此宗規ヲ遵守セザルモノナシ然ルニ此年秋

九月豐臣秀吉公各宗ヨリ僧侶一百人宛ヲ請シ京

都東山妙法院ニ於テ千僧供養ノ法會ヲ修シ以テ

其祖先ノ追福ニ備フ因テ本宗亦之ニ與ル時ニ日

重ノ徒豐公ノ威焰ノ旺ナルヲ憚リ輒千之ニ應ス

特リ日奧祖規ヲ遵守シ之ニ應セズ是レ受不受分

派セシ起原ナリ尋テ徳川氏ノ初代ニ至リ諍論日

ニ盛ニシテ受不受兩立スルコト牛角ノ如クナリ

シガ遂ニ寛文五年ニ至リ養珠夫人徳川家康公ノ妾及加賀

爪甲斐守當時ノ曹司職ノ左袒ニ由テ我日述等ヲ流竄ニ處

シ越テ六年其教ヲ施クコトヲ停止シ永ク國家ノ嚴

禁トナス今ヤ幸ニ文化旺盛ノ聖世ニ膺リ釋日正

ノ願ニヨリ再ヒ派名ヲ興シ其教ヲ布演スベキヲ

認許セララル實ニ明治九年四月十日ナリ是ヲ分派  
起原ノ沿革トナス

### 管長撰定ノ方法

### 第三條

本派管長ハ師資相承ノ付屬ニ據テ之ヲ撰定ス所  
謂宗祖日蓮ヨリ日朗日像大覺朗源日實日成日遵  
日延日善日意日寮日往日亨日護日賞日光日顯日  
饒日典日奧日樹日遵日述日起日清日要日億日助  
日信日然日緣日珠日惠日正ニ至ルマデ三十五世  
嫡々相承シ來レリ實ニ此法脈ニ根據シテ我宗派  
ヲ今日ニ維持スルモノナレハ亦此法脈相承ノ者  
ヲ以テ管長トナシ祖山ニ住職セシメ宗祖ノ代理  
トシテ一派ノ教綱ヲ執持シ苟モ教義宗法ニ關係  
セル一切ノ事理其大小粗細ヲ論セズ皆自ラ之ヲ  
掌ドラシムレハ就之派内僧侶或ハ檀徒ノ容喙ヲ

許サザル者トナス

眞俗莫作ノ誠例

第四條

謗法ノ堂社ニ參詣致スベカラザル事

但シ遊覽公役等ヲ除ク

第五條

謗法ノ僧侶ヲ供養スベカラザル事

但シ仁義愛禮等ヲ除ク

第六條

不信謗法ノ供養物ヲ受クベカラザル事

第七條

他ニ向テ同行者ノ過失ヲ言フベカラザル事

第八條

他門ヲ罵詈シ不覺ノ宗論ヲ致スベカラザル事  
眞俗奉行ノ勸例

第九條

異體同心ニメ我本化事勸ノ妙行ヲ修スベキ事

第十條

常ニ法ノ爲ニ不惜身命ノ心地アルベキ事

第十一條

過失アルハ懇ニ相諫メ共ニ善ニ進ムヲ喜ベキ事

第十二條

相互ニ謙下シ禮義ヲ重ンズベキ事

第十三條

各自其家業ヲ大切ニ精進スベキ事

祖山及教會講社ノ組織

第十四條

本派ノ檀徒タルモノハ之ヲ講社ニ接シ各箇ノ講社ヲ教會ニ統ヘ各箇ノ教會ヲ總轄スル所ヲ岡山縣下金川妙覺寺トナシ之ヲ祖山ト稱ス祖山ノ外

派内寺院ナルモノナク又將來寺院ヲ新築スルヲ許サザル者トス

### 第十五條

凡ソ信徒十五戸ヲ以テ一講社ト爲シ七戸ヨリ少カラズ二十五戸ヨリ多カラズ凡ソ十講社ヲ以テ一教會ト爲ス五講社ヨリ少カラズ十五講社ヨリ多カラザル者トス

### 第十六條

教會ハ設置ノ地名ヲ冠シ講社ハ番號ヲ附記ス即日蓮宗不受不施派妙覺寺名地教會何番講社ト稱スル者トス

但シ新ニ教會講社ヲ設置スルハ其地方廳へ出願スルモノトス

### 教會役員ノ章程

### 第十七條

每教會教師名一取締員無定ヲ置キ每講社社長名一世話掛

員無定ヲ置ク者トス

### 第十八條

教師ハ教會ノ事務ヲ總理シ等葬祭常ニ宗乘ヲ開示シ

會衆ヲ教導セシムル者トス

但シ葬祭ノ式法ハ本尊位牌香爐經案教師喪土

親戚講社法要ハ燒香勸請讚經提婆品題目寶塔偈回向

奉送偈ナリトス又說教定日ハ毎月十二日二十

一日ナリトス

### 第十九條

取締ハ教師ヲ補佐シ會中ノ庶務ヲ周旋シ且會衆

ノ宗規違順ヲ監督セシムル者トス

### 第二十條

社長世話掛ハ社中ノ諸務ヲ周旋シ教師ノ指揮ニ

從テ社中ノ異體同心ヲ計ラシムル者トス

每教會教師名一取締員無定ヲ置キ每講社社長名一世話掛

員無定ヲ置ク者トス

第十八條

教師ハ教會ノ事務ヲ總理シ等葬祭常ニ宗乘ヲ開示シ  
會衆ヲ教導セシムル者トス

但シ葬祭ノ式法ハ本尊位牌香爐經案教師喪主  
親戚講社法要ハ燒香勸請讚經提婆品題目寶塔偈回向  
奉送偈ナリトス又說教定日ハ毎月十二日二十  
一日ナリトス

第十九條

取締ハ教師ヲ補佐シ會中ノ庶務ヲ周旋シ且會衆  
ノ宗規違順ヲ監督セシムル者トス

第二十條

社長世話掛ハ社中ノ諸務ヲ周旋シ教師ノ指揮ニ  
從テ社中ノ異體同心ヲ計ラシムル者トス

集會修行ノ規度

第二十一條

會衆ハ各自家業ノ餘暇ヲ以テ其部ノ教會堂ニ參集シ隨意ニ妙道修行ヲナサシムル者トス

第二十二條

會堂ハ先師自筆ノ曼荼羅壹軸ヲ安置シ以テ妙道修行ノ本尊トナス者トス

第二十三條

會堂ハ寂靜ニメ憤鬧ナキヲ要ス決メ大聲麤暴太敷ノ振舞ヲナシ他ノ行者ノ妙道ヲ妨グヘカラザル者トス

寺法

第一條

本尊曼荼羅ヲ書シ僧侶ヲ度スルハ永世祖山住職ノ特權トナス

第二條

全派内ノ僧侶タルモノハ都テ祖山現住職ノ徒  
トナシ之ニ師事セシムル者トス

第三條

祖山妙覺寺ハ住職ノ鑑識ヲ以テ派内上座部中ノ  
教師ヲ舉ケ以テ能化名一能化補名一ノ役名ヲ置ク者  
トス

第四條

能化ハ祖山住職ノ補翼トシテ派内一般ノ教務及  
ヒ庶務ヲ掌トラシムル者トス

第五條

能化補ハ能化ニ亞キ能化欠席及ヒ事務ノタメ他  
方ニ派出スル等ノ時ハ一切能化ノ職務ヲ代理セ  
シムル者トス

僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ル事

第二條

全派内ノ僧侶タルモノハ都テ祖山現住職ノ徒弟トナシ之ニ師事セシムル者トス

第三條

祖山妙覺寺ハ住職ノ鑑識ヲ以テ派内上座部中ノ教師ヲ舉ケ以テ能化名一能化補名一ノ役名ヲ置ク者トス

第四條

能化ハ祖山住職ノ補翼トシテ派内一般ノ教務及ヒ庶務ヲ掌トラシムル者トス

第五條

能化補ハ能化ニ亞ギ能化欠席及ヒ事務ノタメ他方ニ派出スル等ノ時ハ一切能化ノ職務ヲ代理セシムル者トス

僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ル事

第一條

性行温淳ナル者ヲ撰ヒ祖山妙覺寺ノ學林ニ入レ  
滿三箇年已上修學セシメ稍我宗教ノ概畧ニ通ズ  
ル者ヲ度シ以テ祖山ノ僧籍ニ編入ス是ヲ僧侶ノ  
分限トナス

第二條

得度以後祖山妙覺寺ノ別行場ニ於テ滿五箇年已  
上苦修練行ノ者ハ教會ニ派出シ其法務ヲ擔任セ  
シム是ヲ教師ノ分限トナス

第三條

本派教師之ヲ九種ニ區別ス曰ク上座部一等二等  
三等曰ク中座部一等二等三等曰ク大衆部一等二  
等三等ナリ而シテ上座部中座部ノ六等ヲ以テ教  
師ノ等級トシ大衆部ノ三等ヲ以テ教師補ノ等級  
トナス

寺院ノ住職及教師ノ等級進退ノ事

第一條

本派ニ於テハ祖山妙覺寺ノ外寺院ナケレハ素ヨリ住職任免ノ職制ナシ臨時教師ヲシテ各教會所ニ派出セシメ其法務ヲ擔任セシムルノミ且其進退ハ祖山妙覺寺住職長管ノ特權トナス

寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事

第一條

本派各宗派ト其寺法ヲ異ニシ祖山ノ外寺院ヲ設立セズ既ニ全派内ノ古文書寶物什器ノ類悉ク之ヲ妙覺寺ニ納メシムレハ該住職ヲシテ專ラ其保存ノ責ニ任スル者トス

右宗祖開宗ノ主義ニ根據シ五章三十三箇ノ條規相定候間此段御認可被成下度願上候也

日蓮宗不受不施派

明治十八年五月十四日

管長一釋 日正

內務卿山縣有朋殿

朱書

書面之趣認可候事

明治十八年五月廿八日

內務卿伯爵山縣有朋 謹

五章三十三箇之條規



飲食禁止  
Do not eat or drink

庶務課戸籍挂事務簿

宗教之部

明治自十七年  
至十六年

票号

件名

- |    |                          |     |
|----|--------------------------|-----|
| 一  | 北北浦郡宝皇村士族藤澤早治異宗徒自葬之件     | 八   |
| 二  | 外国人亦教ノ儀有馬村真藏寺住職及之長ノ自葬ノ件  | 九   |
| 三  | 浦上村吉田右十其地ノ願出ノ地所關係ノ方面ノ渡ノ件 | 二   |
| 四  | 聖書講談同場ノ件                 | 三   |
| 五  | 黒瀬村中村福次郎外海名天主教信仰ノ件       | 二   |
| 六  | 外教ノ轉宗ノ儀有田ノ件              | 三   |
| 七  | 外国人亦教ノ儀有田ノ件              | 三   |
| 八  | 耶蘇教ノ轉宗ノ儀有田ノ件             | 三   |
| 九  | 耶蘇教ノ轉宗ノ儀有田ノ件             | 二   |
| 十  | 全宗信仰者自葬ノ儀北北浦郡長ノ自葬ノ件      | 六   |
| 十一 | 北北浦郡長ノ自葬ノ儀有田ノ件           | 三十一 |

十二	異宗葬儀之分 序務部 衛生部 四卷 二件	二
十三	耶之新宗葬儀之儀 序務部 初長 拾卷 二件	二
十四	真宗大谷派家長 序務部 出 二件	四
十五	自葬 儀 序務部 長 八 拾卷 二件	二
十六	外教信者 義 序務部 長 下 拾卷 二件	三
十七	皇典講究所 副總裁 道際 二件	六
十八	外教信徒 葬儀 儀 序務部 長 二 拾卷 二件	二
二十	葬証 儀 序務部 長 二 拾卷 二件	二
廿一	教導儀 身許 兩洞 儀 序務部 長 二 拾卷 二件	三
廿二	教務所 事取 設 儀 序務部 長 二 拾卷 二件	一
廿三	說教所 教務所 事取 設 儀 序務部 長 二 拾卷 二件	一
廿四	寺院 政 統 儀 序務部 長 二 拾卷 二件	五
廿五	臺成部 可 須 村 教 會 所 設 立 儀 序務部 長 二 拾卷 二件	一

神道ノ儀ニ由リ建白

惟ルニ正朝 天皇 皇天ニ祖ノ遺訓ヲ奉

體シテ神祇ヲ崇敬シ給フ事ハ則我國體ノ因

起ルルニモニシテ萬世不變ノ大典也故ニ宮

中ニハ心クモ 賢所 遠親 祭在ラセラルレ外ニシテハ

神宮ヲ始メ奉リ官國幣社ノ祭由ラテ嚴ニシ玉

フニ是則報本及始メ象ニ基カセラシクテ祭政一

致ノ本體ヲ示シ玉フ也其間時勢ノ變遷ニ隨

ヒ制度ヲ改正セラルニ事アリト虽凡毎年御政事始

先ツ神宮事ヲ奏大御セシメ玉フハ王ノ神事

ヲ行政ノ初ニ置カセラル。明証也片内各國ニ比

類ヲ見サレル處ノ尊嚴ノ國體ナラズヤ故ニ王政攸古

初ニアタリ神祇官ヲ各省ノ上ニ置カレタルハ大宝

生<sub>二</sub>神國<sub>一</sub> 魂<sub>ヲ</sub>失<sub>レ</sub>ニ<sub>二</sub>至<sub>一</sub> 敬神<sub>ノ</sub> 意<sub>ヲ</sub> 愛<sub>シ</sub> 國情  
 將<sub>レ</sub> 何<sub>ニ</sub> 因<sub>テ</sub> 方<sub>ニ</sub> 生<sub>レ</sub> 今<sub>ニ</sub> 盛<sub>ル</sub> 世<sub>ニ</sub> 際<sub>ニ</sub> 再<sub>レ</sub> 明<sub>シ</sub>  
 維<sub>レ</sub> 新<sub>ル</sub> 初<sub>ニ</sub> 遡<sub>リ</sub> 連<sub>レ</sub> 神<sub>ノ</sub> 祗<sub>レ</sub> 信<sub>ヲ</sub> 儀<sub>ヲ</sub> 與<sub>シ</sub> 神<sub>ノ</sub> 道<sub>ヲ</sub> 各<sub>ニ</sub> 答<sub>ス</sub>  
 教<sub>ヲ</sub> 而<sub>レ</sub> 新<sub>ル</sub> 及<sub>テ</sub> 名<sub>ヲ</sub> 稱<sub>シ</sub> 專<sub>ニ</sub> 止<sub>シ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 同<sub>ニ</sub> 情<sub>ヲ</sub> 而<sub>レ</sub> 異<sub>ス</sub>  
 又<sub>ニ</sub> 其<sub>ノ</sub> 組<sub>織</sub> ヲ 變<sub>更</sub> 現<sub>レ</sub> 今<sub>ニ</sub> 行<sub>ハ</sub> 處<sub>ニ</sub> 府<sub>ノ</sub> 縣<sub>ノ</sub>  
 社<sub>ニ</sub> 下<sub>ニ</sub> 人<sub>ノ</sub> 民<sub>ノ</sub> 歸<sub>レ</sub> 依<sub>リ</sub> 信<sub>ヲ</sub> 仰<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 神<sub>ノ</sub> 官<sub>ノ</sub> 教<sub>ノ</sub> 師<sub>ノ</sub>  
 者<sub>等</sub> 一<sub>ニ</sub> 寺<sub>ノ</sub> 僧<sub>ノ</sub> 侶<sub>ノ</sub> 準<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 昔<sub>ニ</sub> 第<sub>一</sub> 社<sub>ニ</sub> 國<sub>ノ</sub>  
 休<sub>レ</sub> 失<sub>レ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 條件<sub>ノ</sub> 道<sub>ヲ</sub> 更<sub>ニ</sub> 正<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 人<sub>ノ</sub> 民<sub>ノ</sub> 其<sub>ノ</sub> 意<sub>ヲ</sub>  
 向<sub>テ</sub> 一<sub>ニ</sub> 定<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 神<sub>ノ</sub> 道<sub>ヲ</sub> 與<sub>シ</sub> 隆<sub>ヲ</sub> 充<sub>テ</sub> 系<sub>ヲ</sub> 承<sub>テ</sub> 一<sub>ニ</sub> 帝<sub>ノ</sub>  
 禮<sub>ニ</sub> 堪<sub>ル</sub> 處<sub>ニ</sub> 一<sub>ニ</sub> 以<sub>テ</sub> 者<sub>ノ</sub> 共<sub>ニ</sub> 切<sub>ク</sub> 之<sub>ヲ</sub> 廟<sub>ノ</sub> 政<sub>ヲ</sub> 付<sub>テ</sub> 不<sub>レ</sub> 日<sub>ノ</sub> 字<sub>ノ</sub> 教<sub>ヲ</sub>  
 條<sub>ノ</sub> 例<sub>ヲ</sub> 聚<sub>布</sub> 之<sub>ヲ</sub> 府<sub>ノ</sub> 縣<sub>ノ</sub> 社<sub>ノ</sub> 以<sub>テ</sub> 下<sub>ニ</sub> 神<sub>ノ</sub> 官<sub>ノ</sub> 及<sub>テ</sub> 教<sub>ノ</sub> 師<sub>ノ</sub> 等<sub>ヲ</sub>  
 宗<sub>ノ</sub> 教<sub>ノ</sub> 部<sub>ノ</sub> 內<sub>ニ</sub> 編<sub>入</sub> 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 上<sub>ニ</sub> 固<sub>ク</sub> 一<sub>ニ</sub> 關<sub>ノ</sub> 卷<sub>ノ</sub> 被<sub>レ</sub> 信<sub>ス</sub>  
 一<sub>ニ</sub> 是<sub>ニ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 愚<sub>ク</sub> 苟<sub>ク</sub> 天<sub>ノ</sub> 地<sub>ノ</sub> 事<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 架<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 信<sub>ヲ</sub> 然<sub>ラ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 信<sub>ス</sub>

今<sub>ニ</sub> 字<sub>ヲ</sub> 々<sub>ラ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 國<sub>ノ</sub> 體<sub>ヲ</sub> 明<sub>カ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 認<sub>ル</sub> 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 簡<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 教<sub>ノ</sub> 部<sub>ノ</sub> 者<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 終<sub>ニ</sub> 內<sub>ニ</sub> 務<sub>ヲ</sub> 屬<sub>ス</sub> 局<sub>ノ</sub>  
 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 其<sub>ノ</sub> 所<sub>ノ</sub> 縣<sub>ノ</sub> 社<sub>ノ</sub> 以<sub>テ</sub> 下<sub>ニ</sub> 人<sub>ノ</sub> 民<sub>ノ</sub> 歸<sub>レ</sub> 依<sub>リ</sub> 信<sub>ヲ</sub> 仰<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 神<sub>ノ</sub> 官<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 甚<sub>ク</sub>  
 等<sub>ニ</sub> 我<sub>ノ</sub> 國<sub>ノ</sub> 體<sub>ヲ</sub> 失<sub>レ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 事<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 抑<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 示<sub>ス</sub> 如<sub>ク</sub> 何<sub>ニ</sub> 故<sub>ノ</sub>  
 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 夫<sub>レ</sub> 一<sub>ニ</sub> 社<sub>ノ</sub> 國<sub>ノ</sub> 神<sub>ノ</sub> 國<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 古<sub>ノ</sub> 人<sub>ノ</sub> 此<sub>ニ</sub> 時<sub>ノ</sub> 中<sub>ニ</sub> 一<sub>ニ</sub> 故<sub>ノ</sub>  
 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 取<sub>レ</sub> 納<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 來<sub>レ</sub> 一<sub>ニ</sub> 數<sub>ニ</sub> 年<sub>ノ</sub> 後<sub>ニ</sub> 欽<sub>ル</sub> 天<sub>ノ</sub> 皇<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 至<sub>ス</sub>  
 一<sub>ニ</sub> 外<sub>ノ</sub> 國<sub>ノ</sub> 佛<sub>ノ</sub> 參<sub>レ</sub> 來<sub>レ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 汚<sub>レ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 道<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 上<sub>ニ</sub> 下<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 許<sub>ス</sub> 延<sub>ス</sub>  
 蔓<sub>ニ</sub> 延<sub>ス</sub> 蔓<sub>ニ</sub> 一<sub>ニ</sub> 年<sub>ノ</sub> 今<sub>ニ</sub> 至<sub>リ</sub> 如<sub>ク</sub> 何<sub>ニ</sub> 一<sub>ニ</sub> 國<sub>ノ</sub> 體<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 汚<sub>レ</sub>  
 一<sub>ニ</sub> 所<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 奉<sub>ス</sub> 甚<sub>ク</sub> 一<sub>ニ</sub> 年<sub>ノ</sub> 我<sub>ノ</sub> 國<sub>ノ</sub> 亂<sub>ル</sub> 神<sub>ノ</sub> 祭<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 取<sub>レ</sub> 扱<sub>ス</sub> 教<sub>ヲ</sub>  
 師<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 者<sub>ノ</sub> 外<sub>ノ</sub> 國<sub>ノ</sub> 宗<sub>ノ</sub> 教<sub>ノ</sub> 者<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 比<sub>シ</sub> 一<sub>ニ</sub> 神<sub>ノ</sub> 官<sub>ノ</sub> 及<sub>テ</sub> 神<sub>ノ</sub>  
 道<sub>ノ</sub> 教<sub>ノ</sub> 師<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 者<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 寺<sub>ノ</sub> 僧<sub>ノ</sub> 徒<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 一<sub>ニ</sub> 同<sub>ニ</sub> 視<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub>  
 一<sub>ニ</sub> 故<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 人<sub>ノ</sub> 民<sub>ノ</sub> 疑<sub>レ</sub> 惑<sub>ス</sub> 之<sub>ヲ</sub> 生<sub>レ</sub> 之<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 基<sub>ヲ</sub> 一<sub>ニ</sub> 神<sub>ノ</sub> 國<sub>ノ</sub> 一<sub>ニ</sub> 人<sub>ノ</sub>

時大ニ我國体ノ虧損ニ  
 謂ル也抑字教トモ、外國氣ノ教ヲ立ル者  
 稱ニシテ我國有、神道主任、神皇及國教ヲ  
 主ル教師等トシテ而立テ、無論ナリヤ、元  
 其事ニ當リ、著々其意ヲ誤ラ混乱スルヲ  
 神道ノ部内ニ於テ、神皇トシテ、  
 全同ニシテ分難スルカガハニ三條ノ神  
 教意ヲ拜シテ明也然レ、今ノ神道ヲシテ外國  
 風ノ宗教部内ニ編入スルニシテ、萬世不易ノ國体ヲ  
 汚辱シ、皇天ニ祖ノ神靈ニ對シテ、心多キ拜  
 事ナラズヤ、事等孤心ノ天實ニ慷慨悲憤ニ不堪  
 心ナリ未だ先立ニ已心釋ラズ素素衰テ

陳述ニシテ者、神國ノ臣民之、意ヲ聊上言  
 不敬不遜ノ文言、免ニ至リテ心惶再拜用

長崎縣對ニ國下條郡豐敷草書東軍十四

番戶生致ニ臨ニ國々郡豐敷村銀比郷社

多久靈神社 社福宮

明治廿三年四月廿日 津山眞受

令五丁年二月

長崎縣對ニ國下條郡豐敷草書町西四番戶

士聚立郡、茂田村鎮唯

縣社、茂田邊神社 社福宮

佐加具 和一

令三十年二月



# 建白書

本書ハ目下宗教條例ノ原稿成リ府縣郷  
村社ノ如キモ其範圍内ニアリト聞キ神社ハ決シ  
テ宗教ニアラス皇室ト國体ト關係密ニシテ

宗教ト混同スヘカラサル上曰ヲ上陳スルモノナリ

「官國幣社ト府縣鄉村社トハ社格ニ於テ素  
略々ナリ是レ臣等々々黙々ニ附スル能ハサル所ナリ

近來 臣等聞ク其筋ニ於テ宗教條例ノ原

稿成リ府縣郷村社モ該條例ノ範圍内ニテ

此説信ヲ置クニ足ラスト雖凡万一信ナラシ

メハ佛ノ寺院耶蘇ノ教堂ト其制裁ヲ仰

カシメラルナラン然ル時ハ爾後人民カ府縣郷村

社ヲ寺院教堂ト同一視セシイテ省慮ス神社ハ

國家ノ宗祀建國ノ大本ナレハ上官國幣社

ノ大典アリテ祭儀嚴肅ナル社格素ヨリ差

等アルモ其性質ヲ以テスレバ同シク行政部内ニシ

テ毫モ區別アルヲ見ズ其祭ホル処ハ主神ヲ以テ

スルモ實ニ是天祖天孫若クハ國土人民ニ切アル

神ニアラサルハナレ故ニ歷朝崇敬ノ典アリテ千五百

余年寶祚ヲ繼養シ下億兆ニ君臨シ玉フ是

是レ臣等、力黙々ニ附スル能ハサル所ナリ

長崎縣東彼杵郡川柳村十拾四番戸士族  
立身立郡宮村々社宇都宮神社祠嘗手

中尾良貞

光緒三十一年九月

長崎縣東彼杵郡佐子保村四番戸士族  
立身立郡立村江社八幡神社祠嘗手

町田真壽義

光緒三十七年八月

長崎縣東彼杵郡甚瀬村貳百八拾番戸士族  
立身立郡立村江社水川神社祠嘗手

朝長文吾

長崎縣東彼杵郡立身立郡立村江社水川神社祠嘗手  
光緒三十一年



長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

### 神田質

長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

### 宮川子衛

長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

### 池田巴

長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

### 菊池義明

長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

### 朝長文吾

長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

### 町田真壽義

長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等  
長崎縣東彼孫松村三郎五郎重臣一族  
全縣左郡三村三郎神社同宮等

長崎縣東彼杵郡大村也自於省刀五族  
 立縣立郡立村立社富松神社祠等  
 長崎縣東彼杵郡大村也自於省刀五族  
 立縣立郡立村立社富松神社祠等

慶三於九年六月

内海藩

長崎縣東彼杵郡大村也自於省刀五族  
 立縣立郡立村立社富松神社祠等

神田質

長崎縣東彼杵郡早岐村又、而或於書中後  
 立縣立郡立村立社富松神社祠等

慶三於五年七月

宮川守衛

長崎縣東彼杵郡上波促見村十四格或重戸素族  
 立縣立郡立村立社富松神社祠等

慶四於元年

池田也

之レ臣等力黙々ニ附スル能ハサル所ナリ

長崎縣東彼杵郡江上村五番田戸士族  
齡二十五年

長崎縣東彼杵郡江上村五番田戸士族  
全縣五郡全村  
社彼杵神社祠宮

# 岡澤浪丘

齡四拾二年二月

長崎縣東彼杵郡江上村五番田戸士族  
全縣五郡  
田村御社住吉神社祠宮

# 神坂杜邊

齡五拾九年七月

長崎縣東彼杵郡上波伏見村七番七拾五番田戸士族



元老院議長  
從三位勳一等伯爵野呂清光殿

慶應二十五年

村中心元衛門

長崎縣東彼杵郡大村百三太夫新屋生藏  
主殿主部全村郡社大村神社同官

慶應五年三月

中山庄中

長崎縣東彼杵郡上波屋庄村上波屋庄  
主殿主部全村郡社至谷神社同官

慶應二年二月

神次庄邊

長崎縣東彼杵郡上波屋庄村上波屋庄  
主殿主部全村郡社至谷神社同官

慶應二年二月

明治廿三年四月二日  
第七四七号

# 願

別紙達白書却進達方成規之通  
却取計被成下度以段奉願候也

明治廿三年四月一日

諏方神社祠官

中島廣行



之町系之五  
多  
是月及

三長嶺縣知事 中野健次 廢

建  
白書

本書ハ目下宗教條例ノ草案未既ニ成リ府縣鄉村  
社如キモ其範圍内ニ在リト聞キ神社ハ決シテ  
一己一人ノ自由信向ニ任スルモノニ非スレテ皇室國

新廐志

體ト關係ヲ密ナルモノナリカ故ニ宗敎ト混同ス  
カラサルニヨリ上陳スルモノナリ

体ト關係ノ密ナルモノナルカ故ニ宗教ト混同スヘ  
カヲサレト目ヲ上陳スルモノナリ

近來 臣等々聞ク所ニ依ルハ其勅ニ於テ宗教條  
例ノ起草既ニ成リ發布ノ期モ亦近キニ在リ然レ  
ニ府縣鄉村社ノ如キモ亦該條例ノ範圍内ニ組入  
レ佛ノ寺院耶蘇ノ教堂ト同一ニ其制裁ヲ仰  
カ令ルナラント此說素ヨリ信ヲ置クニ足ラスト雖  
モ萬一之ヲシテ信ナラシメハ爾後人民カ府縣鄉村  
社ヲ視ル<sub>レ</sub>寺院ト教堂ト奚<sub>ソ</sub>擇ハン苟クモ府  
縣鄉村社ヲ視ル<sub>レ</sub>寺院教堂ト同一ナラハ其弊  
延キテ官國幣社ニ及ヒ終ニ進テ伊勢神宮ニ及フ  
ヤ必セリ神宮ニ及フノ極ハ恐クモ其正統ヲ兼繼  
シ玉フ皇室ニ及<sub>レ</sub>テ智者ノ言ヲ待タスレテ明々

瞭々ナリ是レ臣等カ黙々ニ階ル能ハル所ナリ  
夫レ官國幣社ト并縁齊村注ハ俗ニ然ニテ  
ヨリ差等ナリト雖モ其性質ハ等ニテ行政部内  
ニテ毫モ其區別有ルナリ然リ而シテ皇室ト神  
社ト密着ナル所以、者ハ遠ク天祖、遺訓ニ原  
因ニ奉祀、典武祭文等、延曆儀式帳延喜、祝  
詞式等ニ見エタリ我カ  
聖上此遺訓ヲ萬世ニ遵奉シ賜フカ故ニ億兆モ  
其密由タル所ヲ知ルニ至リ是ニ依テ之ヲ觀シ  
ハ神社ト皇室ト皇室ト億兆トハ一日モ離ルベカラザ  
ル所以ニシテ皇統ハ一系ナルモ民俗、純良ナルモ  
之ニ基因セサルハナシ然ルニ今人民一時、信仰ヨ

成リ立テ先ル寺院教堂ト我國家、基本先神  
社トテ假初モ混同スルニ至ラ、字内無比、國體  
民俗此ニ至テ傷ツ此ニ至テ崩レ終ニ不測、災  
害ニ臨ルナキヲ保シ難カラズ平臣等目下縣鄉村  
社ニ奉仕ス思フ此ニ至ル切齒痛歎寢食為ニ  
安ニル能ハズ故ニ愚意、在所ヲ上陳シ以テ感嚴  
ヲ冒瀆ス誠恐惶死罪頓首  
明治二十三年四月一日  
長崎縣西彼村郡長崎村伊長林郷  
三百七十五番月住平民  
全縣念郡會村伊長林稻荷神社村等

松尾光興

齡五十二年六月

長崎縣西彼杵郡上長崎村西山郷千三番戸任平民  
全縣全郡全村西山神社祠掌

堤

利信



齡三十二年三月

長崎縣南高来郡南有馬村千五百十三番戸平民

全縣西彼杵郡戸町村大浦郷諏方神社祠掌

三宅古城

齡四十六年十一月

全縣全郡加津佐村千三百四十一番戸平民

全縣西彼杵郡下長崎村小島郷八軒神社祠掌

三縣西役并郡之町村大浦郷諏方神社祠學

三宅古城

寶曆四十六年十一月

三縣令郡加津佐村千三百四十一番戸平民

三縣西役并郡下長崎村小島郷八軒神社祠學

植水三事

50歳

寶曆三十年九月

三縣西役并郡澗村百廿七番戸平民

三縣三郡之村瀨神社祠學

宇井守衛

寶曆六十年五月

三縣長崎市伊良木郷市井六番戸平民

三縣令市令水柳神社祠學

決江且

寶曆二十六年五月

三縣三市以西郡千八百一番戸平民

三縣三市之郷松森神社祠學

伊奈豊太郎



癸丑年八月

長崎縣長崎市高野子郷八百拾壹番戸平民  
全縣全郷八坂神社祠掌

小西 孝 則

齡四十五年五月

全縣長崎市八幡町八百番戸平民  
全縣全市全町八幡神社祠掌

伊藤 義次

癸丑年八月

全縣交崎市八幡町、馬屋平京

全縣全市上打八幡神社祠堂

伊藤廣義次

養正十四年六月

全縣全市伊勢町三ツ七番戸士族

全縣全市三町伊勢宮神社祠堂

鳥 七 人



出典

養正三年三月

全縣全市埴粕町拾番戸平民

全縣西彼埴郡上長崎村木河内郷

飯盛神社祠堂

神地寺直内



養正十年四月

全縣全市西山郷子而四十七番戸士族

全縣全市左郷諏方神社祠堂

中島廣行



元光院議長從三位勳一等伯爵柳原前光殿

建白書  
七十九年



第一

部長

曹洞宗務支局移轉二局

長山寺縣肥前國西彼杵郡深堀村

曹洞宗菩提寺

長山寺縣曹洞宗務支局ノ義ハ西彼杵郡上  
長山村暗臺寺ハ設置改來カヤ今般宗務  
都合ニ由リ前朱書ノ地ハ移轉改カ條管長ノ  
添書ヲ添此段御届ニ及カ也

曹洞宗長山寺縣教導取締

明治廿一年一月十六日

江西芳洲

西彼杵郡上長山寺暗臺寺住職

霖 玉仙

一  
号

西彼梓郡深堀村菩提寺住職

全郡上長寄村高林寺住職

本宗寺院總代 高木龍法

長寄區上筑後町永昌寺住職

全 瑞光謙乘



長寄縣知事日下義雄殿

宗務文局移轉面添書

宗務支局移轉函添書

御管下曹洞宗務支局、儀是近肥前國  
西彼杵郡上長山寄村皓臺寺、設立致  
置候裏今般都合、依り同郡深堀村  
菩提寺、移轉之儀別帛、通届出候  
條御聞置相成度茲、及添書候也

曹洞宗管長

明治廿一年一月七日

瀧谷琢宗



長崎縣知事日下義雄殿

11  
321-4

明治元年  
三月

第三課 奉教簿

宗教之部

謹テ一書ヲ元光院議長閣下ニ呈ス 生等 茶ニク

惟ルニ本邦ノ神祇ヲ尊崇スルヤ遠ク皇祖天神ノ

訓ニ基因シ天孫降臨以来歴世ノ聖王相繼相承

ケテ萬代無亡躬ノ皇統ト共ニ傳ハ玉ヒ以テ上報亦及

始ノ義務カヲ盡シ下億兆安寧ノ慈仁ヲ施シ玉フ是

則我國家ノ大典万機ノ元樞ナリ然リ尚シテ上行ノ所

下之ニ從フハ天下ノ通義ナルカ故ニ庶民ニ於テモ百子ク

神祇ヲ敬祭シテ報本ノ義務ヲ尽シ併セテ國家由

泰ヲ祈リ以テ寶祚ノ隆盛ヲ天地ト共ニ享ク子ク富無

ノ事ニ置キ奉ラントス循良忠愛ノ美風以テ見ルニ

足レリ故日之カ君氏ノ間父子ノ情ヲ含ミ相密着

シテ離レス世界ニ無比ト誇稱シ来ル我國体ノ

長 奇 系

謹テ一言ヲ元起院議長閣下ニ呈ス生等茶ノレク  
 惟ルニ本邦ノ神祇ヲ尊崇スルヤ遠ク皇祖天神ノ遺  
 訓ニ具全因シ天孫降臨以來歷世ノ聖王相繼相承  
 ケテ萬代無世窮ノ皇統ト共ニ傳ハ玉ヒ以テ上報本及  
 始ノ義務カヲ盡シ下億兆中寧テノ慈仁ヲ施シ玉フ是  
 則我國家ノ大典万機ノ元樞ナリ然リ而シテ上ノ行ヲ所  
 下之ニ從フハ天下ノ通義ナルカ故ニ庶民ニ於テモ君子ク  
 神祇ヲ敬祭シテ報本ノ義務ヲ尽シ併ヤニ國家安  
 泰ヲ祈リ以テ寶賈節ノ隆盛ヲ天地ト共ニ以テ窮クナリ富強  
 ノ安ニ置キ美事ヲントス循良忠愛ノ美風以テ見ルニ  
 足レリ於日之カ君民ノ間父子ノ情ヲ含ミ相密着  
 コレテ離レス世界ニ無比ト誇稱シ来ル我國體ノ

長  
 崎  
 系

手由是

敷系ル所々蓋レ此ニアリ而シテ世汚隆アリ時顯晦アリテ

中世以降政權武門ニ移リ白王威稍傾クニ及ヒ

比淵系系亂レテ上古以來ノ大典殆ト廢滅ニ属

セントセシモ天運循還ニテ維新ノ王政ニ復セシ

ヨリ先此大典ヲ再興シ官國中社ヲ定メラシメ

下民ニ至ミテ教神ノ聖意心ヲ導キ奉ルノ公テ日トナリ

レハ實ニ自他相度又賀スル所ナリ然ルニ耿カク聞

ク五口政府ハ皇布教條例ナルモノヲ祖濟セラシ發

布將サ近キニアラントスト而シテ其組濟ノ如何ニ

至テハ發布未明之ニ詳ニスルニ由ナレト云云氏道

路ニ傳フル所ヲ聞テハ云ク府縣社以下ハ皇布教

内ニ属セラルノ由云々ト嗚呼且之何等ノ誤ハ認メテ

傳フルマ吾明政府ニシテ如此音怪ノ如四通アハ

ヨリ先此大典の正典... 下民に至るまで教神ノ聖意を道奉るスルノ公テ日トナリ  
レハ實質ニ自他相度又質スル所ナリ然ルニ朕カニ聞  
ク五口政府ハ宗教條例ナルモシ祖遺セラレ發  
布將サ近キミアラントスト而シテ其組織ノ如何  
至テハ發布未之ニ詳ニスルニ由ナレト皇氏道  
路ニ傳ル所ヲ聞テハ云ク府縣社以下ハ宗教部  
内ニ属セラレノ由云々ト嗚呼且之何等ノ誤認ヲ  
傳ルヤ吾明政府ニヒテ如此奇怪ノ知言通アんキ

理由ナレト信スルモ浮説一タモ且底ニ留リテヨリ寢食  
中カラスン若此甚説ヲレテ信ナラレシモノカ云フヘカラサル  
ノ一大珍事ニシテ國家混亂ノ種子ヲササケクモ  
ト云ハサルヘカラス其理由左ニ列記シテ耶々  
表ヲ開陳セントス  
抑府縣社以下雜社ニ至スニ其鎮祭ノ原理ヲ問ハ  
等ク其本及始ノ義教ヲ盡スタメニ外ナラスレテ其異  
義アルニ非ラス官國報社ト云ヒ府縣社即チ雜社ト

理申ナレト信スルモ浮説一々目月底ニ留リテヨリは寝食  
中カラス若此甚説ヲシテ信ナラレシモノカ云フハカラサハ  
ノ一大珍事ニシテ國家混亂ノ種子ヲササキクモ  
ト云ハサルハカラス其理由左ニ列記シテ耶々

衷ヲ開陳セントス

抑府縣社以下雜社ニ至ミテ其鎮祭ノ原理ヲ問ハ

等ク報本及始ノ義教カラ盡スタメ外ナラストモ其異

義アルニ非ラス官國幣社ト云ヒ府縣鄉村雜社ト

云フハ唯其社格ヲ分ツルニ謹テ古典ヲ安ホスルニ

由來朝廷ノ尊宗ニ係ルモノ近喜式神名帳載

スル所大小三千一百三十二座社二千八百五十一所トアリ

是レ往昔ノ官國幣社也而シテ今ノ官國幣社ノ

此内ヨリ撰拔セラレタルモノ僅々百數十社ニ過ス

長崎系

自餘ハ惣テ今日ノ府縣社以下ニアリ然レハ則中古マテ  
 政治部内ニ属セシ官社モ今日ハ驅テ宗教部内ニ  
 轉籍セシラハモノナリ且之奇怪トスル其一也昨日マテ  
 府縣御村社ノ間ニ在テ今日ハ官社ニ加列セラハ如  
 キハ多クアリ且之蓋明治四年五月十四日付公存式  
 中或内及ヒ國史見在ノ諸社期年ニ檢査直リ歴  
 テ更ニ官社ニ列スベレ云々ノ上日意ニテ履行セラ  
 ハモノナレバレ而シテ最早今日ヲ以テ其檢査上毫モ  
 遺漏ナキヲ保スヘキカ若シ宗教部内ニ定籍ノ後尚  
 遺漏ヲ発見シ更ニ官社ニ列セラレニカ各神社ハ時  
 リ宗教籍ニ入り又時ヨリ政治籍ニ入り漂々トシテ  
 恰モ中天浮雲ニ等シキ觀アルニ似タリ且之奇怪トスル  
 其二也府縣御村社氏子ノ其氏神ヲ敬祭スルヲ

宗教ト見ハ官社ニモ亦各從來ノ氏子屬セリ其氏神  
 對スル則者同一徹ナルカ故ニ且之亦宗教ト見サハヘカラス  
 果シテ然ラハ官社ノ神ハ總テ其半ハ政治實質半ハ宗  
 教實質ニシテ所謂龍頭蛇尾ノ一大怪物ヲ如キモト  
 センカ如此ト怪説ハ賢明ナル貴頭諸公ノ廟堂  
 ニ行ハルヘキノ言スレトモ其モ説既ニ終々クリ言或心ニサレ  
 ヲ得ニヤ且之奇怪トスル其三也既ニ上ノ陣トセシセク  
 正ニ書式ニ載スル所ノ大教與キケ復興ハセラレヌ  
 レテ其採擇ノ僅ナルモノハ望ミシ其貴ノ支難キカ  
 タメ止ヲ得サルノ処直ニ外ヲラハヘキヲ言ヒス然ルヲ見  
 ハテ敵中社ニ列セラレサルヲ故ヲ以テ示教部内ノ有トナシ  
 自モモ政治上ニ閉ルキヲ有シタルモノニ非ストセハ古昔之  
 幣禮ヲ厚クシ敬祭ホアリシ先皇ハ故ナキノ神ヲ祭リ

長崎系

王ヒト云ハシカ今自政府ノ関涉アルト否トヲ以テ政治

宗教ノ部分ヲ別ツル當ヲ得タルノ処置ナルハキヤ此

等ノ理由ヲ以テスレハ府縣社以下ヲ宗教部内ニ定籍

セシメハ今テノ敎中社モ亦宗教部内ニ移サレハカテサルハ

勢カ免レ能サル所トナリ致シ神社タルモノハ總テ宗教

物ニ決定セサルヲ得サルモノハ果シテ然ルトキハ我國

家ハ將來宗教政体ト名稱スヘキカ論点此極ニ

至テハ遂ニ万国無比ト誇稱スル我國財ニマテ関

係ヲ及スル恐レナレトモ保証シ難カラン矣示セサルハカ

ラス且ク奇怪トスル其四也宗教ハ元ト帰依ニ任

セタルモノナルカ故ニ甲ノ部落人民ニシテ乙若クハ丙丁部

落寺院ノ檀徒アリ乙若クハ丙丁ノ部落人民ニシテ

甲評落寺院ノ檀徒アリト云モ氏神氏子ノ門柄ハ

決して然る錯雜ノ者ニ非スレテ一部村落ノ住民ハ總テ其地  
 鎮座神社ノ氏子ナルカ故ニ歸依信仰ノ厚薄均ハ  
 ラス其氏神ニ係ル一切ノ入貴ハ義ヲ務メテ辨賞セサ  
 ルヲ得サルモノニ治定ニ来リ又何者カ其部内ニ在テ  
 其氏神ヲ祀祭ホセサラン日之則宗教ニ非ラサル明証ト云フ  
 ヘシ又官ニ施テ施行セらん、請祭典及ヒ大祓等ハ  
 政事部内ノモノニシテ且之ト等シク官國幣社祭式ハ  
 准テ據スニキ今ト旨ヲ受テ施行スル府縣社以下ノ祭典ハ  
 大祓等ハ何カ故ニ宗教部内ニ属スハキヤ且之奇怪  
 トスル其五也如此奇々怪々ノ説ヲレテ道路ノ宜々タラ  
 シンハ如何ナシ珍事ヲ醸成セシモ其ハハカラス本末未我  
 日本帝國ノ政財ハ祭政一致ナル事祭政二字ノ附シ  
 タル和訓ノ理義ニ明カナリ此理義ト事実ト上トシ

長  
 奇  
 系

長崎縣

レ旧官社ノ如キモ彼外人等已レカ奉スル宗意シ  
張ラニカタメ何等ノ典禮ヲ加フキモ知ルハカラス且之國  
家ノ榮辱ニ係レ一大重事ナリ山豆輕忽ニ知ス  
ヘキモノナラニヤ日之立文ニ一書ヲ閣下ニ捧呈シテ  
生草カ鄙衷ヲ上言シ慎リ電覽ヲ所ノ所  
以ナリ事無怠眉ノ急ニ當リ文ノ拙劣ヲ顧ル  
白廷アラス仗ニ祈ル尚敬シ冒瀆スル罪非  
如心玉ハム事ヲ誠恐ニ誠惶頓首

明治廿三年四月廿日

吉野郡那賀村住 吉百十五条田士一族

農事 三三 角 千 八五

歲五十八年六月  
外二千六名

元北院義長

建白

謹テ惟ルニ我カ国神祖ヲ敬祭スルハ天祖ノ遺訓ニシテ

天壤無窮ノ大詔ト共ニ國家ノ基礎タルヲ以テ往昔

祭政其殺ラ一ニシ人其力ヲ共ニシ皇威赫々タル

歴史ニ詳カリ故ニ我ト車喋々辨々ハ一ヲ要セズ夫ノ

大曲大詔ヲ益々明シセガレテ永ク文明ノ德化ヲ保ツ

能ハザルベシ今テヲ去ル殆ントニテ我トテ上ノ聖文

武ニ渡ラセ玉フ所ノ神武天皇不世出ノ英畧ヲ以

テ日本全州ヲ一統シ玉ヒ於茲神祖ノ鳥見ノ山中ニ敬

祭シ國家ノ基礎ヲ立テ玉ヒシヨリ益々々々人民其恩澤

ニ感化シ永世祭祀ノ禮ヲ重シ思夫愚ニ婦ニ至ルマテ

敬神尊王ノ道ヲ確守シ寶祚是ヲ以テ無窮ニ

継傳シ人民之ト依リテ忠孝節義ヲ重シス度ニ也

建白

謹テ惟ルニ我カ国神祖ヲ敬祭スルハ天祖ノ遺訓ニシテ

天壤無窮ノ大詔ト共ニ國家ノ基礎タルヲ以テ往昔

祭政其致ヲ一ニシ人民其力ヲ共ニシ皇威赫々ル

歴史ニ詳カリ故ニ我ト車喋々辨々ハ一ヲ要セク矣ノ

大曲大詔ヲ益々明シセガレテ永ク文明ノ徳化ヲ保ツ

能ハザルベシ今テテ去ル殆ントニテ我ガ上級聖文

武ニ渡ラセ玉フ所ノ神武天皇不世出ノ英畧ヲ以

テ日本全外ヲ一統シ玉ヒ於茲神祖ノ真見ノ山中ニ敬

奉シ國家ノ基礎ヲ立テ玉ヒシヨリ益々人民其因心澤

ニ感化シ永世祭祀ノ禮ヲ重シ思ヒ夫愚ニ婦ニ至ルマテ

敬神尊王ノ道ヲ確守シ寶祚是ヨリテ無窮ニ

継續シ人民之ト依テ忠孝節義ヲ重シク度ニ他

ニ比類ナキ國体ナル正史ニ明ナリ然リ而シテ勳未ノ風一

クド我カ國ノ侵入セシヨリ議論百出各教墨競勳ヲ

スレバ人心邪途、迷ヒ皇國固有ノ皇道ヲ宗教ト同

視スルモノ無キヲ保シ難シ加之府縣即村社ヲ宗教

部内ニ入ル、云々ノ説アリ式内式外ハ別ナリト曰モ

一村一里ノヤ社ニ至ルマテ信徒ノ者多年的確定ス

ル所ナレバ容易ニ之レヲ變移マ可カラズ一日モ早ク

女ノ患言ヲ去ラズニバ神威遂地ニ至ハノ真愛アリ

神威遂地ニ至ルトキハ列聖建ル所ノ基本ヲ失ヒ

皇威遂地ニ退縮スルニ至ルハ下レ然ルトキハ何ヲ以テ皇

威ヲ各國ニ輝ク事ヲ得ンヤ日之レ村軍大ニ憂慮

スルハナリ若シ村縣即村社ヲ宗教部内ニ入ルハナリ況

勢カヲ得テ政府ニ於テ之ヲ採用スル時ニ遂ニ國家

其礎礎々大計ヲ謀ルニシテ皇國ノ臣民トシテ誰  
 カ之ヲ痛歎モケラシヤ我カ北洋帝國西海ノ孤島シ  
 アリト雖ヤ信方觀望視スルニ志ビテ聯力思志ヲ陳  
 述メ閣下區々ノ東情ヲ憐ミ我輩陳述スル所ヲ採納  
 セハ何ノ幸幸福カ之ニ過キヤ愚昧裋衣ヲ習ハス薄  
 儀ヲ冒瀆ス惶懼再拜

長崎縣中松浦郡福に村一書戶士役  
 八幡神社祠官 平引千秋

郡玉浦村四百三十三番戶士役

白鳥神社祠官 月川八重

郡福に村百八十一番戶士役

新正三十七年七月



五社神社初考

月川鹿之助

宣統二十七年五月

郡福江村九百三十四番戸士族

住天河社初考

片山保若

宣統二十五年八月

郡大塚村二百四番戸士族

惣中神社初考

木林繁樹

宣統四十九年

郡高仁村九百三十八番戸士族

宮口神社初考

月川信水

宣統三十九年七月

郡岐宿村七百番戸士族

山殿三沖社初考

阿比留正記

新五十二年三月

郡大塚村二百八十七番ノ士族

黄島神社初考

岩見

織

新四十五年五月

郡南田島村五十三番ノ士族

南田神社初考

月川 左甲次

新四十二年五月

郡之原島村三百十八番ノ士族

折紙神社初考

南田

織

新五十二年五月

郡大塚村二百二十七番ノ士族

福江十郎

大塚

吾日

新五十二年三月

新五十二年三月





**史跡**  
**長崎原爆遺跡**  
浦上天主堂旧鐘楼

長崎原爆遺跡は、長崎に降下された原子爆弾の被害を伝える遺跡として、平成29年10月31日に国の史跡に指定されました。



**国指定史跡 長崎原爆遺跡**  
**浦上天主堂旧鐘楼**

1867年に始まった浦上四番前れと呼ばれる大弾圧により全国に流刑にされた浦上のカトリック信者は、1873年に解放されたのち、聖堂の建設を計画しました。

1895年にフノ神父の指導のもと起工した浦上天主堂は、貧しいながらも農作物を売って得た資金や、外国人からの寄付などを受け、石材や煉瓦を買い、信者の労働奉仕で運搬・建築され、起工から19年もの歳月を経た1914年に完成しました。当初の天主堂には鐘楼がなかったため、当時の主任司祭のヒューゼ神父の計画のもと1925年に双塔が完成しました。

しかし、1945年8月9日原爆により天主堂は破壊され、北側の鐘楼は現在の位置まで崩れ落ちました。1959年に浦上天主堂は再建され、この鐘楼は原爆により破壊された旧浦上天主堂の被害を、当時と同じ場所で物語る唯一の遺構となりました。

**Nationally Designated Historic Site: Nagasaki Atomic Bomb Ruins**  
**The Former Urakami Cathedral Bellry**

In 1867, Urakami Yokota Kuzou of the last crackdown on Christians in Urakami village belgian and believers of the Catholic faith in Urakami were sent into exile all over Japan. After they were freed in 1873, those Catholics began planning the construction of the Urakami Cathedral.

Work began on the cathedral in 1895, under the guidance of Father Fernand. Construction was supported by the local Catholic population who, although they themselves were very poor, contributed money they obtained from selling produce, together with donations from foreigners. Stone and bricks were purchased with those donations, and the Catholics of Urakami contributed their services for transportation and construction work. In 1914, the cathedral was finally completed 19 years after construction had first begun. As the cathedral did not have a bell tower, Father Heuzet, parish priest of Urakami at the time, drew up a plan and 1925 saw the completion of twin bell towers.

On August ninth 1945, however, the cathedral was destroyed by the atomic bombs dropped on Nagasaki. The North Bell Tower collapsed and burned down to the place where it is now. The Urakami Cathedral was rebuilt in 1959 and the North Bell Tower, still in the same place as when the cathedral was destroyed by the bomb, is all that remains left of the original structure to tell the story of the damage done to the Urakami Cathedral.

**国家指定历史遗址 长崎原爆遗址 浦上天主堂旧钟楼**

被称为“浦上四番前”的长崎大弾圧是从1867年开始的，流放到全国各地的浦上基督教徒在1873年获释后，即计划修建了教堂。

浦上天主堂1895年在普蘭迪(Fernand)神父的领导下动工。在他们的帮助下，他们捐赠了农产品以及外国人捐助的资金，购买了石材和砖块，并在信徒的义举帮助下，历时19年于1914年建成。最初天主堂没有钟楼，当时的主任司祭赫泽(Heuzet)神父的指导下，于1925年完成了双塔。

天主堂在1945年8月9日被原子弹毁灭，北面的钟楼倒塌，残存到现在的位置。浦上天主堂在1959年重建，该钟楼也成为在长崎原爆遗址浦上天主堂原址上唯一的遗构。

**국가지정 사적 (국가사적) 원폭 유적 우라카미 전주당 옛 종루**

1867년 浦上四番前 弾圧の犠牲者となった浦上四番前れに流刑されたカトリック信者は、1873年に解放されたのち、聖堂の建設を計画しました。貧しいながらも農作物を売って得た資金や、外国人からの寄付などを受け、石材や煉瓦を買い、信者の労働奉仕で運搬・建築され、起工から19年もの歳月を経た1914年に完成しました。当初の天主堂には鐘楼がなかったため、当時の主任司祭のヒューゼ神父の計画のもと1925年に双塔が完成しました。





十三珠串 (不圖靈河(在柱)) 所製





中

あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり

あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり  
あまのこゝろにあらはれし  
のほろほろとてはなれり



・キリスト像・オラツシヨ本  
田 聖 氏 (長崎市在住) 所有



新田聖子氏の遺品















大正十四年

納骨

大正十四年



一 像佛寺  
 一 回寺  
 一 回寺  
 一 收花院

同  
 同  
 同

皇極系

尾 濟 寺 佛

六 命 如 男 走 人

一 收花院

同

事

一 像佛寺  
 一 回寺  
 一 回寺  
 一 回寺  
 一 收花院

同  
 同  
 同  
 同

皇極系

付 權 九 帝

六 命 如 男 走 人

三  
 世  
 像

三

文化十二年

宗門改新踏帳

子  
正月  
寄合

**宗門改新踏帳**  
 宗門改新踏帳 (宗門改新踏帳)

各人の宗門を調査し「宗門改新踏帳」と所属する町内の人員把握のため、宗門改新にあわせて宗門改新別帳が作成された。長崎藩の資料であるが、今日の戸籍のような性格で、本資料は島原藩武家のもので、島原では総踏のことを「踏帳」と称していた。檀那寺、生まれ、役職、名前、純柄などが記された。